特61
~~272~~
212

上村貞子 編

新撰日本地理問答

東京 博文館藏版

明治三年 内交 図書

緒言

日本地理に關する著甚だ多く實に汗牛充棟も啻ならず、然れども普通の編纂法は往々にして煩雜散漫に流れ易く、暗記と早通に便せんには、終に問答書の簡明にして一日瞭然たるに如かず、殊に近時學生諸君の各學校の試驗に應せんとするに際し、其科目の夥多なる一々普通の編纂書に就て研究せんは、到底其煩に堪へざらんとす、此書は主として應試に便せんが爲めに編纂せるものにして、最近二三年間に於ける中學以上官立諸學校入學試驗問題を標準とし數百の問題を假設し、努めて煩を去り要を

摘みて最適切なる答案を付す、偏次の順序は先づ地文全体より日本全國に至り次に各道各國に及ぼし、凡そ地文及日本地理上の問題は細大漏すことなく、又成るべく記憶に便せん爲め相類似せる問題は之を各部門に類別し、必らずしも普通の地理編纂の順序に拘らず、而して各種の統計等は悉く最近の調査に據る、卷末には參考として明治三十三四年度の各學校入學試驗地理問題を集錄せり、日本地理に通曉せんとする學生諸氏、此書に據りて時間と勞力を省くを得は幸なり。

明治三十五年一月十五日

編者識

新撰日本地理問答目次

		頁付
第一章 地理總論	五十五問	（自一至二四）
第二章 日本自然地理	六十問	（自二五至四九）
第三章 日本人事地理	六十四問	（自五〇至八五）
第四章 日本地方誌（上）		（自八六至一五六）
各道類別問題		
一、位置形勢	十問	（自八六至九三）
二、國郡	九問	（自九四至一〇一）
三、山岳	十問	（自一〇二至一〇八）

四、川流……十問（自一〇八至一一三）
五、海岸と港灣……十問（自一一四至一一八）
六、島嶼……十一問（自一一八至一二二）
七、岬角……十問（自一二二至一二五）
八、湖沼……十問（自一二五至一二八）
九、鑛泉……九問（自一二八至一三一）
十、瀑布……九問（自一三二至一三四）
十一、平原……八問（自一三四至一三六）
十二、都會……十問（自一三七至一四三）
十三、名勝……八問（自一四四至一四六）
十四、物産……十問（自一四六至一四九）
十五、氣候……十問（自一四九至一五二）
十六、民業……十問（自一五三至一五六）
日本地方誌（下）……（自一五七至二一八）
各道雜種問答
一、畿內……七問（自一五七至一六〇）

二、東海道……二十問（自一六〇至一六八）
三、東山道……十八問（自一六八至一七四）
四、北陸道……八問（自一七四至一七七）
五、山陰道……八問（自一七七至一七九）
六、山陽道……十二問（自一七九至一八三）
七、南海道……十七問（自一八三至一八九）
八、西海道……三十七問（自一八九至二〇一）
九、北海道……三十問（自二〇一至二一一）
十、臺灣……二十二問（自二一一至二一九）

○參考

明治三十三年度及三十四年度諸官立學校入學試驗日本地理問答集
○第二高等學校……（二一九）
○第三高等學校……（二二〇）
○高等商業學校……（二二〇）
○商船學校……（二二一）

○高等師範學校……(二二二)
○東京外國語學校……(二二三)
○海軍機關學校……(仝　上)
○海軍兵學校……(二二五)
○陸軍幼年學校……(二二七)
○陸軍士官學校……(二二八)
○郵便電信學校……(二二九)
○東京美術學校……(二三〇)
○高等師範學校豫科……(二三一)

新撰日本地理問答　終

新撰日本地理問答

上村左川編

第壹章　地理總論

一　地理學の定義及類別を問ふ

答、吾人の棲息する地球表面なる海陸の形勢氣候の異同及び人類動植鑛物等の播布せる狀態等を研究する學科にして自然他の諸學科と相關聯す、而して其關聯する學科の區域に從ひ、地理學を類別して、通常は數理地理、自然地理、政治地理の三種か、又は自然地理、人事地理の二種とす。

二　地理學の類別に就て解義を與へよ

答、數理地理は地球の形狀、運動、季節の變化、其他各地の位置方角里數等を論じ、自然

地理は海陸の區別氣候の差異、及動植物の播布等を論じ、政治地理は邦國の地位、人民文野の區別、政治風俗宗教人種言語等を論ずるものとす、或は上記數理地理自然地理の二者を併せて之を自然地理とし、政治人文に關するものを人事地理として類別す。

三　地球の直徑、周圍及面積を問ふ

答、東西の直徑七千九百二十五哩、南北は七千八百九十九哩、周圍二萬五千哩面積二億平方哩。

四　地球扁圓体なることは何に依つて證明せらるゝか

答、振子の運動に依りて證明せらるべし、振子は引力の強弱に從うて振動遲速を生ずるものなり、而して兩極地方に在りては、赤道直下の地方に於けるよりも一定時間内に振ふの振動數多きを以て、兩極は扁平にして、赤道直下よりも地球の中心に近きものと斷ぜらるゝなり。

五　地球の運動を說明せよ

答、地球の運動に自轉及公轉の二樣あり、自轉とは其地軸に依りて西より、東に向ひ間斷なく回轉するものにして一に日動と稱し一回轉の時間を二十四時間とす、即ち一晝夜

なり、公轉とは地球が自轉を爲しつゝ太陽の周圍を運行するものにして一に年動と云ひ、線路は楕圓形にして之を軌道と云ふ、一周の時間は三百六十五日四分の一にて即ち一年なり、

六　地球自轉の證據を擧げよ

答、地球の形の兩極は稍一區平にして赤道の周圍最大なる事其一證なり、是地球が地軸に依りて間轉するものなれば其速度は赤道最大に兩極に近くに從ひ漸く減少する筈にて赤道は遠心力最强く自然此部の膨脹すべき理なればなり、又貿易風の方向が正南正北ならずして何れも稍東に偏せるも地球自轉の影響を見るを得べし

七　四季の別を生ずる理由を問ふ

答、四季の別は地球の公轉に因つて生ず、地球が其楕圓形の軌に依りて太陽の周圍を回轉するに當り、地軸は軌道の平面に對して六十六度半の交角（鉛直より傾くと二十三度半）を保ちて運行するを以て、或時は北極が太陽の方に傾き、或時は南極太陽の方に傾き、又或時は兩極が太陽に對して不遍の地位を保つとあるべし、而して熱の多少は太陽光線の直射と斜射とに因るものなれば、例へば日光が赤道以北を直射する場合は北半球は多く熱を受けて夏となり、南半球は之に反して冬となる、又兩極が太陽に對して不遍

の地位を保ち日光が赤道に直射する場合は、南北兩半球は平均に熱を受けて春と秋との好季節を呈するなり、

八　晝夜に長短の差を生ずる理を問ふ

答、是亦四季の差の生ずる如く地軸が其軌道面と二十三度半の交角を爲すが爲めにして或時は北極が漸次太陽の方に向ふ位置を占め此時北半球の晝次第に長く、夜は短く又南極が漸次太陽の方に向ふ位置を占めし時は南半球の晝漸次長く夜は短くなるなり、

九　世界各國晝夜平分の日を問ふ

答、一年中僅かに二日にして三月二十一日九月二十三日なり、俗に彼岸の中日と稱す、此兩日は地球の兩極が太陽に對して不遍の地位を保つ時にして日光赤道に直射し、兩半球ともに春と秋との好季節を爲せる際也、

一〇　南回歸線（又は冬至線）北回歸線（又は夏至線）とは何ぞ

答、地軸は終始軌道の平面と二十三度半の交角を爲すを以て赤道の南北各二十三度半迄は日光の直射する場合あれども、其以外は決して直射するとなし太陽一旦此邊に來る時は複赤道の方に向ひて回歸するなり、此故に赤道の南北各二十三度半の所に假に一圈を

繞らし南を南回歸線、北を北回歸線とは云ふなり。

一一　五帶の區別を問ふ

答、地球表面を地の寒暖によりて五帶に區分せるものにして、南北兩極より各二十三度半の所に線を劃し之を南極圈北極圈と呼び、之と赤道より南北各二十三度半の所に劃せる兩回歸線とに依りて地學上五區に分つ、各帶季候異なり、北寒帶、北溫帶、熱帶、南溫帶、南寒帶と呼ぶ、寒帶は兩極より兩極圈に至る間を占め溫帶は極圈より回歸線迄の間を占め、熱帶は兩回歸線の中間を占む

一二　經緯度を說明せよ

答、便宜上地球表面に劃せる虛線なり、經度は南北に劃せる同大の圈にして通計三百六十度あり、兩極に於て一に歸し、各線間の距離は赤道に於て最長く兩極に近くに從うて漸く短く終る皆無に歸す、又緯度線は赤道と平行に兩極間に繞らせる線にして、赤道より南北に向つて南緯幾度北緯幾度を數へ其數各九十度あり、經度は起算迄一定せずと雖、通常英國綠林（グリーニッチ）より起し、之を零度とし、それより東西に合つて東經幾度西經幾度と算す、

一三　子午線を説明せよ

答、經度線の別種にして、即ち地球上南北極の間經度に同位する地方は皆正午が全時に來るが故に子午線と名く、

一四　經度の差に依りて生ずる時間の差と其理由を問ふ

答、經度の差一度なる甲乙兩地に在りては時刻の差四分なり、是れ經度の數は三百六十度にして、地球は西より東に向ひ二十四時間に一回轉するを以て一度の差は二十四時を三百六十分せる一即ち四分に當るべきの理なればなり。

一五　我國の標準正午時を問ふ

答、我國の標準時は東經百三十五度殆んど淡路島の中央を貫くの線上に太陽の正射する時を以て正午と、定めあるを以て、此標準時に依る時は之より東に在る地方は眞の正午時より進み、西方に在る地方は後る、而して其進後の差は一度の距離に付き四分宛なり、

一六　天文地理とは何ぞ

答、地球を以て太陽系統に屬する遊星の一とし、太陽及他の星辰に對する關係及び之に

依つて生ずる諸種の現象を研究する學問を云ふ。

一七　地球上水陸分布の比較如何

答、地球表面は水陸の二者より成り、其割合は凡陸三分の一にして水三分の二なり、而して陸は北半球に多く水は南半球に多し、

一八　大陸の分布如何

答、地球上に大陸面二個あり、一を東大陸他を西大陸と云ふ、前者は後者より大なり、又地球を兩半球に分ち東大陸の在る方を東半球とし、西大陸の在る方を西半球と云ふ、東大陸は即ち亞細亞、亞弗利加、歐羅巴、にして西大陸は南北亞米利加なり、六大陸とは以上のものに濠洲を加へたるの稱なり。

一九　六大陸の比較如何

答、最大なるは亞細亞、最少なるは濠洲にして、今歐羅巴を標準として各洲比較せば南亞米利加は其二倍、北亞米利加は二倍半、亞弗利加は三倍、亞細亞は四倍半、而して濠洲は殆んど歐羅巴と同一ならんとす。

二〇　大陸の五帶別如何

答、亞細亞は其大部分は北溫帶に位し、南の一部は熱帶北の一部は北寒帶に跨る、歐羅巴は其北部僅かに北寒帶に跨れる外悉く北溫帶を占む、亞弗利加は大部は熱帶に在りて、南部と北部僅に溫帶に入る、南亞米利加は熱帶と南溫帶に跨り北亞米利加は北溫帶に在りて南北一部熱帶と寒帶とに侵入し濠洲は熱帶及南溫帶に跨る、

二一　陸に如何なる別ありや

答、大なるは大陸小なるは島と云ひ、陸の一部海中に出でたるを其形に從ひて半島、若くは岬と云ひ、陸と陸とを聯ぬる狹き地を地峽と云ふ、又地勢によりて山、谷、平原等に區別す、

二二　島の種類及其例を擧げよ

答、數多の島嶼の一所に集れるものを群島(又は島嶼)と云ひ、一列に長く續けるを列島と云ふ、群島の例は小笠原島、沖繩島にして、列島の例は千島是なり又島は其位置に從ふて陸島洋島の二種に區別す、陸島とは昔大陸の一部たりしものゝいつしかに切斷せられて島となりしものと云ひ、洋島とは地心の火力等の爲め海洋中より隆地したる土地の

頂が水面に現はれあるものを云ふ、前者の例は日本島及英吉利島の如きものにて後者のは例はサンドヰッチ諸島、小笠原群島の如し、珊瑚島は洋島の一種と見るべし。

二三　火山とは如何及本邦に於ける其例を擧げよ

答、火山島とは、火山の噴出に依り、海中に陸地を隆起せしめたるものにて本邦にては千島、伊南の諸島の如きは是なり、

二四　平原、高原、及火山を說明せよ

答、平原とは海面より著しく高からずして、平坦廣濶なる陸地を云ひ、此平原の著しく高きものを高原(又は高臺)と云ふ、火山は普通圓錐形を爲し其山頂に噴火口を有する一種の山岳にして、蒸氣、灰烟岩汁等を噴出するものなり。

二五　岩石の種類を問ふ

答、地學上岩石と云ふものは地殼を構成するものゝ總稱なるより其意義汎く砂岩、粘土、礫石の如き、細大、軟硬の別なく皆其中に含む、又岩石は之を構成する物質に從ひ二三種の區別あり、即ち鑛物質のみより成るものは鑛物岩と云ひ、單純に合質のみを以て成れるものは均質岩と云ひ、二種以上の異なる物質より合成するものを異質岩と稱す、硅

石岩類の如きは前者に屬し、雲母、長石、石英の三者より合成せる花崗石の如きは後者に屬す、又珊瑚虫其他介殼等の遺骸碎片の漸く固着凝集せしものを動物岩と云ひ、石炭等の如く植物質の化成したるものを植物岩と稱す

二六　地震の種別と本邦に於ける其例を示せ

答、地震は其原因に三種あり、第一火山の破裂、第二土地の陷落、第三地皮の褶曲是なり、第一を火山地震第二を陷落地震、第三を地辷り地震又は斷層地震と稱す、第一は區域も狹く被害も多からず、盤梯山破裂の際に起りしものゝ如き此一例なり、第二は地中に空洞ありて此中に其上の地層陷落し、爲めに地面を震撼するものにして我邦には未だ此例なし、第三は最區域廣く被害も多きものにして、明治二十四年の濃尾地震、同二十七年の庄内地震、同二十九年の陸羽地震等此例なり。

二七　津浪の原因及本邦に於ける其例を示せ

答、津浪(又は海嘯とも)は海底に於て地震の起るより來るものにして、海水爲めに著しく動搖し濱海附近に起りし場合は沿岸地方は勿論遙かなる內地に近海水進入し田園人家等を漂蕩するとあり、古くは安政元年伊豆下田港の大津浪、近くは明治二十九年三陸地方の大津浪の如き是なり。

二八　沿海に火山多き所以を問ふ

答、種々の學說ありと雖、其妥當と思はるゝものを記せば、地皮は素と平坦なりしも、太古時代に於て土地變動の甚だしかりしが爲め陸地の陷落して濶大なる低窪の面を生じたるもの是今日の海洋なれば陸地の海洋に臨める箇所は屢に陷沒し若くは皺縮する際に於て地皮裂壞し諸所に鉄隙を生じたるとなるべく自然其地層は搆成の堅硬ならざるを知らざるべく、而して地心熱の作用に依りて液體氣体の地上に噴出し來らんとする際は成るべく低抗力の少き所を求むるも自然の理なれば地皮の裂隙多き所は低抗力少く火氣の噴出容易なるべきが爲めなりといふもの是なり、

二九　水の區別を問ふ

答、水は之を大別して陸水海水とし、陸水は更に川及湖池泉等に分ち海水は大洋、海、灣、港海峽等に分つ、

三〇　湖とは如何及種類を問ふ

答、湖とは四面陸地に圍まれて汚溜せる水の稱にして、其水の流出ずる口を湖口と云ふ、通常の湖口を有すれども、希に之なきものあり、前者は淡水なれども後者は鹹水なり寒

海、アラル海の如きは此後者に屬す此種の湖を一に鹹湖と云ふ畢竟湖口なきものは其水流出の路なく、蒸發によりて水分は飛散すれども水と共に斷えず流入する多少の鹽分は常に汀溜して發散するの途なく幾多の星霜を經て濃厚の鹹味を呈するに至るものなり。

三一　川に附屬する諸種の名稱を與へよ

答、川とは陸上一定の通路を流るゝ水の稱にして、其起點を河源と云ふ、河源は多くは地上より湧出する泉にして諸所の泉より來る幾多の溪水相合して大なる流水となりて始めて川の名目を負ふに至るなり、或川の流に向つて他より小なる川の流れ込めるを支流と云ひ、本支流を合して河系と云ひ、河系に屬する境界の地を流域と云ふ、又川の海に注ぐ處を河口と云ひ源より河口迄の間を上流、中流、下流の三に區別す、大河の河口は多くは數派に別れ其間に三角形の陸を形成す、之を三角洲又は三稜洲と呼ぶ。

三二　太洋の名稱及其面積の比較を記せよ

答、全地球上太洋を五つに區分す、即ち太平洋、太西洋、印度洋、南氷洋、北氷洋、にして其面積の比較は太平洋を百とせば太西洋は五十印度洋は四十、南氷洋は十一强北氷洋は三弱の割合なり。

三三　潮汐の起る理由を問ふ

答、潮汐は海水全体の上に定時に起る運動にして、凡六時間毎に海水の干滿を爲すものは是なり、其原因は日と月との引力にあり、然るに日は月よりも殆んど百七十倍の引力を有すれども、月に比して地球との距離甚だ遠きを以て潮汐を生ずる力は月七部日三部なり、彼の朔、望の際の如く日も月も地球と一線内に在る時は双方力を相合して海水を引くを以て大潮を生ずるものなり

三四　海流とは如何なるものぞ且其原由を示せ

答、海流一に洋流とも、海中に於ける河流とも云ふべきものにして海洋中の靜水の間を通過して或海水が一定の通路を成して流るゝものを云ふ、此原因は主に海洋の面を定時に吹く風と、赤道及兩極に於ける海水溫度の差異より生ずる重さの不平均と、地球の自轉等より來るものにして、地球の表面に於て絶えず往來循環するものなり。

三五　海流の主なる區別を示せ

答、赤道海流、南極海流、北極海流を主なるものとす、赤道海流は主に地球の自轉より起り、地球が東に向うて轉ずるに際し、水は流動体なるを以て其回轉の速度に伴なふ能

はずして反對に西に流るゝものなり、されど其流大陸に衝突しては又兩極に向ふ、北米墨其哥の灣流、日本の黑潮の如き是なり、南極及北極海流は、兩極に於ける寒冷なる海水の赤道に向うて流るゝものにして北極海流は南西の方向に流れ、南極海流は主に太平洋に向うて北流す、

三六　海岸線と文野の關係を問ふ

答、海岸線は一國一地方文野及事業盛衰の上に影響を及ぼすこと大なり、其故は元來海岸線の多き國は港灣に富むの理なるを以て彼我の交通便利に貿易の業進み易く、從つて人民互ひに智識を交換し、文物開明の域に進むの速なること深山幽谷若くは交通を助くべき港灣なきの國とは遙かに異るべければなり。

三七　海岸と海水深淺との如何なる關係を有するか

答、海岸の地勢には或は斷岸峭壁の聳ゆるものあり、或は漸次傾斜して海水に浸沒するものあり、此の如き地勢傾斜の緩急に依りて海水の深淺を測り得べし、海岸峻急に兀立せるものは堅硬の岸石より成れるものにして之に沿ふ海は概して深し、北陸山陰兩道の沿海は其適例なり、之に反して海岸の角斜緩なる地は沙土泥土の堆積せしもの多ければ其餘勢延いて海底に及び海水概して淺し、東京灣の如き其一例なり。

三八　海流の効用を問ふ

答、海洋の水に海流なるものあるの利は、第一には海水の同所に沈滯汚腐するを妨げ、假令有機物質等の爲めに汚さるゝもあるも交互に換流して其害を殘さゞらしむ、第二には溫暖なる地方より來るものは寒地の季候を和らげ、又寒地より來るものは暑地の熱を殺ぎ、氣候上の調和を計る、第三は人跡の至り難き島嶼等に動植物の種子を運び、第四には遠洋航海上に之を利用せば大に航海を速かならしむ、

三九　山岳の効用を問ふ

答、山岳の隆起は往々運輸交通の不便を感ぜざるにあられど、其効用亦頗多し其一は、土地は高きに從うて氣溫低落するを以て、一山岳にして熱帶、溫帶寒帶等の異種の植物を產し、植物經濟上に大利を與ふること、其二は山岳は森林樹木を繁茂せしめ禽獸等の產殖區域を擴大すること、其三は山岳は四面に傾斜を爲すが爲めに平地より其面積を廣くすること、其四は鑛物の採掘上に便なること、若し山岳無くんば採鑛には地面下に向うて穿たざるべからざる故其勞非常に大ならん、其五は山岳は雲雨を釀する効ありて土地浸潤の利を爲すこと少からず、樹木の繁茂せる山岳殊に然り、其六は氣候を緩和ならしむ、山の位置によりて他地方より來る寒冷の氣若しくは炎熱の風を妨くること等是なり。

四〇　湖水の効用を問ふ

答、第一には湖水は旱濕の候に際し水準を平均せしむるの効あり、即ち降雨多量の際には雨水を潴溜して大水槽の用を爲し、大旱の際河水乾涸する場合には水源を供給す第二には水質を清澄ならしむ、汚濁の水も湖水に入らば若干日にして固形物沈澱するなり、第三には附近の氣候を調和す、其理は總て水は酷暑の際蒸發力の爲めに日光の射熱を消耗したるを以て陸地程に溫度高まらず又嚴寒の際水は凍結する爲其含める潛熱を放出して氣中に交付するが故なり、第四には灌漑の用大なると等是なり

四一　風の効用を問ふ

答、風は時ありて害を與ふるともあれど其効用亦少からず、第一は濕氣の分布を司ることにて若し風の水分を運ふを無しとせば河海の水面より騰りたる水蒸氣は其儘河海の上にて冷却し唯其水面にのみ降雨するなるべく、斯の如くんば陸地は之を濕潤すべき雨水を得ざるべし。第二は氣候の調和を計るとにて、溫暖なる地方より來る風は寒地の氣候を和らげ北地より來る風は熱威を和ぐると甚だ多し、第三は航海の便利を助くると是なり。

四二　雨の効用を問ふ

答、第一は大氣を清淨にするとにて、元來大氣中には有機物の腐敗の爲め穢されたる汚氣あり、微細なる塵埃の飛揚するあり、泥沼等より生ずる不良瓦斯あり、是等皆雨の爲に洗滌し去らば、第二は氣中に混ずる炭酸瓦斯、暗謨尼亞瓦斯等を雨滴中に含み去りて植物の肥料たらしむ、第三は土地を浸潤し耕作に便し、河水の源を養ひ、萬物の生育を助く。

四三　溫泉の原因及本邦に溫泉多き所以を問ふ

答、溫泉の原因は陸上より地中に深く浸淪したる水が、其下層に循環するに及んで終に地心の熱に觸れ其溫度を受傳したる後再たび地上に來りて湧出するが爲めなり、而して本邦の如き地震の頻繁にして且火山作用甚だしき地は地層往々裂壞して諸處に罅隙を生ずると亦甚だし、地中浸潛せる水の地心熱に接觸すべき間隙も亦自から多かるべき理なればなり。

四四　鑛泉の種類及其特徴を問ふ

答、鑛泉とは多少の鑛物を含有せる泉水の總稱にして、之を分類するに溫度を以てすれば溫泉、冷泉の二種となり、又其含有せる物質を以てすれば鹽泉、硫黃泉、炭酸泉鐵泉の四種となる。鹽泉は通常食鹽の成分を含むものにして、其特徴は多少の鹹味を帶ぶ色

及溫度の高低は一樣ならず、硫黃泉は硫黃の化合物を含めるものにして其特徵は幾んど鷄卵の腐敗せるが如き臭氣の甚しきと銀を晴色に變ずるとの等にて、多量に硫化質を含む時は泉口の硫黃華と稱する黃色物を堆積す、色は透明なるは希なり、伊豆の修善寺、肥後の阿蘇近傍の諸泉、伊豫の道後、上州の草津、伊香保等は之なり、本邦には此類の溫泉最多し、炭酸泉は炭酸瓦斯を包有し、亞爾加里性を帶ぶるを以て其徵とす、色は普通は透明にして無味無臭なり又炭酸石灰をも多く含むが故に泉口には石灰質の堆積を爲せるとあり、肥前の古湯、嬉野、鹽後の別府等の溫泉は此種なり、鐵泉は其水面に往々赤色の銹を浮べ、鐵質を帶び澁味あるを以て特徵とす、箱根の湯本、紀伊の龍神、豐後六々追村の冷泉は此種に屬す。

四五 鑛泉の効用を問ふ

答、各種の鑛泉中にて、醫療の効あるものは炭酸泉、硫黃線、若しくは固形鹽類を含有するものにして、元來炭酸瓦斯は內服するも、膈胃病、呼吸氣病等には特効あり、沐浴すれば皮膚の知覺遇敏のものを緩和し、心神を安んず、殊に鑛泉の浴客に効なるは、其含む所の物質の爲めのみならず、鑛泉所在の地は多くは山間淸潔の區にして空氣乾燥せるも亦其一因たり。

四六 氣溫の高低を生ずる原因如何

答、其原因主として太陽の熱に依りて生ずるものなれども、太陽の爲めに一旦暖められたる地の熱を傳受するもの殊に多きに居る、此故に下層は上層より溫度高し、是太陽の熱を受るとは多き夏日と雖高山の頂には白雲あるを以て知らるべし

四七 同溫線とは何を云ふか

答、年中氣溫の平均同一なる地方を相連續する線を云ふ、英國倫敦、北米紐育、支那の北京及我函館等は同溫線なるが如き其一例なり、

四八 貿易風とは何ぞ又其起る原因を問ふ

答、貿易風は赤道の南北に於て終歲同一の方向に吹く風にして、北なるは南東風、南なるは北東風なり、此風の起るは、元來赤道地方は最溫暖なるが故に此に來る空氣は暖められて輕くなりて常に上昇し、南北兩極に於ける寒冷にして重き空氣は其空所を塡充せんとして斷えず此方向に流動し來るに因るなり、而して其風は正南風正北風なるべき筈なれども、地球が常に西より東に向うて回轉しつゝあるが故に北なるは東南風、南なるは東北風となるものなり、又此風を貿易風と名くるは商船の航行に便を與ふるが爲めなり。

四九 海陸軟風とは如何なる風ぞ又其原因を問ふ

答、大陸の海岸及島嶼等の地に於て晝間は風多く海上より陸上に吹き、夜間は陸上より海に向つて吹くこれを海軟風、陸軟風と稱す、此原因は元來陸地は海に比すれば太陽の熱收受、發散共に速かなれば晝間は陸上の空氣早く熱を傳へて蒸發し海上の冷氣其空所を塡めんとて陸上に吹けども、夜間は之に反し、陸の收受せる熱は海より速く發散し盡すを以て、陸上の氣は海上よりも冷に自然右と反對の現象を呈するに至るなり。

五〇 半年風とは何ぞ且其起る原因を説け

答、半年風は一に季節風と名く、一歲の中凡そ三ヶ年づゝ交互に兩樣の方位を以て吹くものなり此風の吹く地方は殊に著しきは印度沿海なれども、亞弗利加の西岸北米墨西哥、及中央亞米利加の東岸西岸亦此風あり、其起る原因は、陸地と海面とに於ける溫度の不平均の爲め氣壓の平衡を失するより來る、印度地方を以て例せば同地方に於ては五月より九月迄太陽の位置北に偏するが故に、陸地は土砂の熱すること強く空氣膨脹して稀薄となれど印度洋上の空氣は斯の如く熱せざるより地上の空氣と平均せんが爲め陸上に向ふて吹くの風を生ず、又十月より四月に至る間は之に反して太陽南緯地方に移れるが故に、海上の氣は陸上のより高溫となり、上記と正反對の風を生ず、斯く一年間に交互順番に

吹き更りて其秩序を亂すことなし、

五一 本邦颶風の起點及颶風多き季節を問ふ

答、本邦に來る颶風は其起迄種々あり、其一はフヒリツピン群島より起りて支那海を琉らし其内地を超へて朝鮮を襲ひそれより日本海を渡りて本邦に達するもの其二は右の群島より直ちに本邦の九州若くは南海地方を襲ふもの其二は西比利亞より起りて北海道を襲ふもの是なり、此中第二のもの最凶暴にして、速力は通常二三里乃至十二三里、時としては二十里に超ゆるものあり、而して是颶風の起る度數の最多きは九月、次に八月、十月なり、六月十一月は又之に次ぎ一二月は最少し

五二 氣候の差を生ずる主なる原因を問ふ

答、寒暖の差は主として緯度の高低に據ること勿論なれども、其他種々の原因あれば同緯度の地必らずしも同溫にあらず、土地の高低、海洋より距離の長短、風位、山脉の方向海流の方向、等皆其地の季候に多少の影響を及ぼすものなり、

五三 熱帶植物及溫帶植物の主なるものを擧げよ

答、熱帶植物は樹木には黑檀、白檀、櫻櫚、椰子樹、バナヽ、丁子、の類にて農產物は

米甘蔗、珈琲、藍、棉等を主なるものとし、溫帶植物は、樹木には松柏、桂、橲櫪、楓、榆、胡桃、樺、桃、梨、林檎等を始め穀類、馬鈴薯、煙草、麻、桑葡萄、甘蔗等を主なるものとす。

五四　各帶動物播布の狀を略記せよ

答、熱帶には概して巨大にて勇猛なる動物多く、獅子、虎、象、豹、犀、河馬、鱷魚、駝鳥、等は其主なる者、又鳥類昆虫類には其色の美麗なるもの多し、溫帶は猪、鹿、熊、狐、猩等多く、又牛馬羊等の家畜を產す、尤家畜類は人力に依りて各地に轉輸し得らるゝを以て其播布區域は漸次に他帶にも擴まらんとす、寒帶は主として海獸にして鯨、海馬、海豹等最たるものなり、陸獸には極熊、馴鹿、等あり

五五　雨量多寡の原因を說明せよ

答、雨は第一熱帶地方に多くして寒帶に少し、前者は蒸發作用旺に大氣中に水分の存在後者より多ければ一旦其收縮して雨となる場合は暴雨盆を覆すの狀あるの理なり、第二は雨は沿海に多くして內地に少し、是は海面より多量の水分蒸發し來りしもの沿海の山嶽に觸るれば、山嶺は寒冷なる故茲に收縮して雨となる、又其空氣內地に入りし際は已に幾多の水蒸氣を失ひたるが爲雨少し、第三雨は地勢の嶮夷によりて多少あり、是れは平

坦の地は水分を含める大氣の流動を妨げて之を冷却せしむるもの無きも山地は流動を阻碍し雨とならしむるの機會多ければなり、第四は風の方向に關す是多くの水蒸氣を含める空氣の流動し來る地方程大降雨多かるべきは當然にて、從つて乾燥なる大陸上を吹き來る風の方位に在る地方は雨少なき理なればなり、沿海に雨多きも一は此理に因る。

五六　世界人種の區別と其特色を略記せよ

答、人種の大別して五種とす、第一は高加索人種（白色人種）にして頭は細長く頭髮は多くは褐色眼は碧色を帶ひ、皮膚は白色なるを常とすれども熱帶地方に住するものは稍黯黑色を帶ぶ、歐洲全土、亞細亞の西南部、亞米利加の大部分、濠洲の海岸及び阿弗利加の北部に住す口數六億五萬餘あり、第二は蒙古人種（黃色人種）にして皮膚黃色を帶び頭廣く稍扁なり頭髮は黑く眦稍上る亞細亞の大半と歐洲の東北部等に住し、口數は凡六億、第三は亞弗利加　人種（黑色人種）にして、頭髮は黑くして捲縮し、鼻低く唇厚く皮膚は黑し、阿弗利加の大部、濠洲等に住す、口數二億に近し、第四は馬來人種（褐色人種）にして、皮膚は褐色に外容蒙古人種の如く眼は白人種の如し、亞細亞の馬來半島、濠洲等に住し、口數五千萬あり、第五は亞米利加人種（一名銅色人種）にして、皮膚銅色に、頭髮は黑く鼻高く眼は長し、南米の中央部、北米加奈陀等に住む、口數、千五百萬餘。

五七 政体の種別を問ふ

答、世界の政体は之を大別して二種とす、君主政治、民主政治是なり、前者は一人の君上に在りて一國を統治するものを云ふ、されど君主の權力無限にして、國民は毫も協賛の權なき時は之を專制君主政体と云ひ、憲法ありて君主の權制限せられたるときは之を立憲君主政体と云ふ、支那、露西亞、土耳其の如きは前者に屬し、日本、英國、獨逸、伊太利、墺太利等は後者に屬す、民主政体とは國民の撰擧したる代議士が主として國政を行ふものにして其長官を大統領と云ふ、北米合衆國、佛蘭西等は是なり、

五八 世界の主なる宗教と其各信徒の概數を擧げよ

答、一は佛教、釋迦の教旨にして亞細亞東南部に最多く行はれ信徒四億萬に近し、二は耶蘇教、基督の教旨にして多く歐米に行はれ信徒四億萬、舊教、新教、希臘教の三派に別る、三は回教にしてマホメットの教旨なり、信徒二億萬に近く、亞細亞の中部及西部、亞弗利加北部に多く行はる、此他猶太教巴羅門教あり、其信徒前者は一億に近く後者は二億に近し、

第貳章

日本自然地理

一 日本國の位置及境界を問ふ

答、太平洋の西北隅、亞細亞の東端に位し、南西より斜に北東に近き、北緯二十一度四十五分より全五十度五十六分に達し、東經百十九度十六分より全百五十六度三十二分に終り、東は太平洋に面し、南西は支那海を隔てゝ支那と相對し、北西は日本海を隔てゝ朝鮮と滿州を臨み北は海峽に依りて露領樺太島及甘察加に接せり、周回七千四百六十七里、面積二萬七千六十二方里にして人口は四千五百萬を有す、

二 五大島の位置及屬島の名稱を問ふ

答、五大島とは、本州、蝦夷、九州、四國、臺灣にして、本州は中部に位し、四國九州は其西南に聯り臺灣は又それより遙に西南に隔れり、而して北海道は本州の北部に位す、此五大島以下の屬島は無慮二千有餘あり、其中の主なるものを擧ぐれば千島(三十二島)佐渡、隠岐、淡路、壹岐、對馬、琉球(五十五島)小笠原 甘島)膨湖島等なり。

三　五大島及び屬島の面積を問ふ

答、本州一萬四千五百七十一方里餘、四國千百八十方里餘、九州二千六百十七方里餘、蝦夷(北海島本島)五千〇六十一方里餘、臺灣三千二百五十九方里餘、千島(三十二島)千〇三十三方里餘、佐渡五十六方里餘、隱岐二十一方里餘、淡路三十六方里餘、壹岐八方里餘、對馬四十四方里餘、琉球(五十五島)百五十六方里餘、小笠原島(二十島)四方里餘、膨湖列島八方里餘にして日本全國の面積は二萬七千餘方里となる。

四　全國の區劃を問ふ

答、全國を分つて一畿八道とす、畿內、東海、東山、北陸、南海。山陰、山陽、西海、北海是なり、又更に之を八十四ヶ國に分ち之に臺灣琉球を加へ八十六ヶ國となる、又別に之に一廳三府四十三縣を置きて分割統治せしむ、

五　全國の地勢を問ふ

答、西南より斜に東北に向うて灣曲し、五大島を通じて之を縱貫する脊椎骨狀の山脈ありて其左右は海岸に近つくに從ひ漸次に傾斜せり、故に本邦の中部は概して山地なるも左右沿海の地にて平原多し。

六　二大山系を問ふ

答、全國の地体を構成する山系は一を崑崙山系と云ひ、亞細亞大陸なる支那崑崙山脈の餘波を受けて西南より東北に連れるもの、一は樺太山系と云ひ、露領樺太島より其系統を延き、殆んど南北に亘れるものとす。

七　三大火山脈を問ふ

答、前項の二大系の外に本州を南北に横斷する火山脈を富士帶と云ひ、九州南部に在るを霧島帶と云ひ、北海道に現るゝものを千島帶と云ふ、中に就て富士帶は最大なるものにして伊豆七島の南端に起り北は北海道渡島後志兩國に至る山脈にして三分帶をなし、一は富士山より信濃を經て越後に入り羽後の寒風山に至り、二は富士山より信濃上野岩代の國境を過ぎ羽前より羽後陸奥の海岸を通じて後志に至り、三は富士山より東北に走り岩代の東部を過ぎ奥羽山脈と合して北海道に入る、霧島帶は肥前の太良岳より霧島山に至り大隅の西北隅より薩摩に入る、千島帶は北海道石狩岳より千島山系に依りて國後島に達す。以上三大帶の外猶阿蘇山帶、白山帶、立山帶金地山脈等あり。

八　全國に於ける火山の數を問ふ

答、活火山三十七、息火山百三十五にして、内譯すれば、北海道(活)八(息)三十八、本州及伊豆諸島(活)二十(息)七十七、九州及薩摩諸島(活)九(息)七、四國(息)十三なりとす。

九　表日本裏日本とは何に因て起る稱呼なるか

答、兩山系に就き日本を兩部に分ち、大平洋に面する方を表日本(又は外帶)と名け、日本海に面する方を裏日本(又は内帶)と名く、前者に在る兩山系は概して火山少く地層も整然たれども、後者に在る兩山系は火山に富み地層錯雜なり。

一〇　南日本北日本とは如何、及其比較を問ふ、

答、富士帶を以て日本を兩斷し北部を北日本と云ふ、南日本を南日本と云ひ南部を南日本と云ふ、南日本は支那山系骨格を爲し、人文は夙に開け氣候は溫暖にして河流平原ともなれども、北日本は樺太山系其骨格を爲し、文化の度は比較的に後れ、河流原平は大に、氣候は寒暑の差著し。

一一　全國に於ける高一萬尺以上の高山と其所在を擧げよ

答、左の如し、

モリソン山	臺灣	一二、八五〇	常陸山	信濃	一〇、三一〇
富士山	駿河	一二、四六七	赤石山	信濃 駿河	一〇、二一〇
御嶽	信濃	一〇、五一〇	白根山	甲斐	一〇、二一〇
乘鞍岳	飛驒	一〇、四五〇	大蓮華山	越後 越中	一〇、〇四〇

一二　主なる平原を問ふ

答、關東の平原を最大なるものとし、八州に跨り四方四十里に及び人口一萬以上の都會二十一あり、之に次くは畿内平原にして五州に跨り、人口一萬以上の都會八あり、濃尾平原、石狩平原又之に次ぎ共に肥沃の地なり、其他阿武隈平原、越後平原、讃岐平原、筑紫平原、臺中平原等あり、

一三　主なる平原中の主なる河流を問ふ

答、關東平原の利根川、濃尾平原の木曾川、畿内平原の淀川、大和川、筑紫平原の信濃川、阿賀川、阿武隈平原の阿武隈川、石狩平原の石狩川、臺灣の下淡水河等なり。

一四 全國中流長七十里以上の大河を擧けよ

答、左の如し、

石狩川	石狩	一六七	阿武隈川	岩代 磐城	七七
信濃川	信濃 越後	一〇〇	利根川	上野、武藏、下總、常陸、	七一
北上川	陸前 陸中	七九	天塩川	天鹽	七〇

一五 北海道の水理を問ふ

答、樺太山系南北に走りて東西に二分し、千島火山帶其東部を南北に分つを以て水理は三大方向に分る、樺太山系以西にては石狩川天鹽川後志川等あり日本海に注ぎ、東北千島火山帶以南の地は十勝川、釧路川あり、太平洋に入り、北方オコツク海に面する地は大河なく、湧別、釧路、網走の三川稍大なり。

一六 北日本本州の水理を問ふ

答、北日本の本州は中央を縱斷する分水山脈によりて地勢二部に別れ、河流は皆此山脈より發して太平洋と日本海とに注ぐ主なる河流は北上川阿武隈川、利根川、隅田川。多摩川、馬入川、那珂川、鬼怒川等にして、日本海に注ぐ主なる流は信濃川、阿賀川、最上川、御物川、能代川、岩木川等なり、

一七 南日本の水理を問ふ

答、南日本は河流北日本の如く長大ならず、方向は琵琶湖を中心として三大區分を爲すを得べし、琵琶湖より東部にて太平洋に注ぐものは木曾川、矢矧川、天龍川、大井川、富士川、日本海に注ぐものは九頭龍川、黑部川、神通川、莊川を主なるものとし、琵琶湖以南は河流尤中央なる紀伊山脈より四方に流出し、宮川は伊勢內海に注ぎ、熊野川は紀州灘に注ぎ、大和川は大坂灣に注ぐ、琵琶湖以西中國の地は河流多くは中央に連亘する山脈より發して南北に流れ、北流して日本海に注ぐは江ノ河、簸ノ川、日野川、加茂川にして、南流して瀨戸內海に入るは吉井川、大川、旭川、阿邊川、太田川等なり、

一八 四國の水理を問ふ

答、四國は四國山脈其稍北部を東西に連亘し、地勢西部に隆起するを以て河流東南北に向て太平洋又は瀨戸內海に注ぐ、太平洋に注ぐ主なる河流は吉野川、渡川、仁淀川なり。

一九　九州の水理を問ふ

答、九州は山脈縱横に走りて地勢錯雜す、南部薩摩半島より九州の北西部に達する西岸の地は流域大にして地勢稍開濶、河流は筑後川、菊池川、白川、球磨川、川内川等あり南大隅半島より北國東半島に至る東岸の地は流域小に、河流は大淀川、美々津川、大野川等あり、國東半島以北には遠賀川を最大とす。

二〇　臺灣の水理を問ふ

答、中央より少しく東側に偏し、南北に連亘する分水山脈あるを以て河流東西の二大方向に分る、西臺灣海峽に注ぐものは淡水河、大甲溪、濁水、下淡水あり、東大平洋に注ぐものは稍大なるものを卑南溪とす

二一　本邦に於ける湖水の種類及び其例を擧げよ

答、一、火山の奮噴火口に蓄水せるもの（箱根の蘆ノ湖の如し）二、海岸に打寄せたる土砂の爲めに遠緣を造りて澤湖となれるもの（羽後の八郎潟の如し）三、地盤の隆起に因に海底陸地となるも尙其窪所に依然水を湛へて湖を爲すもの、（霞ケ浦、印幡沼等の如し）

二三　周圍十里以上の湖水を順次國別に列擧せよ

答、近江の琵琶湖、常陸の霞ケ浦、猿間湖、出雲の中海、岩代の猪苗代湖、根室の風蓮沼、膽振の支笏湖、常陸の北浦、羽後の八郎潟、陸奥の小河原沼、出雲の尖道湖、釧路の屈茶路湖、下總の印幡沼、陸奥の十和田湖等なり

二三　本邦に於ける鑛泉の種類及び其例を列擧せよ

答、硫黃泉、鹽類泉、炭酸泉、鐵泉にして、硫黃泉は上野草津、伊香保、相模箱根、蘆湯、伊豫道後ノ湯、鹽類泉は下野鹽原、箱根塔澤、宮ノ下、攝津有馬、炭酸泉は豐後の別府、鐵泉は箱根湯本等にして全國鑛泉の數は一千餘に達す、

二四　本邦に產する鑛物の種類を問ふ

答、銅と石炭とを第一とし、金銀、滿俺、鐵、硫黃、安質母尼之に次ぎ、其他石灰石、水晶を產し、建築石材には花岡石、大理石、安山岩、凝灰岩あり。

二五　各種鑛物の產地を略記せよ

答、金は薩摩、佐渡、羽後、岩代、陸前、但馬、甲斐等、銀は羽後陸中、佐渡、但馬、銅

は下野、伊豫、羽後、陸中、備中、加賀、石見等、砂鐵は中國山脈、岩鐵は北上山脈、安質毋尼は伊豫、滿俺は後志、伊豫周防、硫黄は九州阿蘇霧島帶及本州富士帶北海道千島帶等の火山より出でゝ石炭は九州の西北部、北海道、常陸、盤城、石油は越後、信濃、遠江、羽後、北海道、大理石は美濃常陸長門、花崗石は攝津以西中國常陸、水晶は甲斐若狭、石炭は殆んど全國到處に產す。

二六　本邦海岸線の狀は如何

答、本邦は海岸線の屈曲概して少き方なり、されど內國各部に就て比較すれば、海岸の屈曲多きは九州を第一とし就中肥前を最とす、四國は之に次ぎ、南に土佐の大灣、北に伊豫讃岐の諸港灣あり、本州は北部日本海に面せる方は概して屈曲少く、羽後、若狭、能登、丹後。出雲等の諸國に多少の屈曲あるのみ、南太平洋沿岸は東京灣、房總半島、伊豆半島、駿河灣、伊勢海等を始め西部紀州に至る迄大屈曲多く終に大阪灣に至る、中國內海は大屈曲なけれど犬牙錯雜せるは最著し、北海道、及奚灣は共に屈曲少き地方といふべし。

二七　海岸線の延長を問ふ

答、全國海岸線の延長は七千三百里に達す、本州にて日本海の沿岸は六百五十里にして

太平洋の沿岸は凡そ此二倍に當り、九州は屈曲殊に多く北海道の二倍にして四國の海岸線も亦奚灣に二倍す、

二八　全國中半島の主なる者を擧げよ

答、北海道には南端に渡島半島あり、本州の北端に北郡(またこほり)半島あり、日本海に突出せる能登半島、太平洋岸には房總半島伊豆半島あり、其他志摩、紀伊も亦半島を成す、九州には南端に大隅、薩摩の兩半島あり、西に肥前島原半島、彼杵郡半島あり。

二九　全國中主なる海峽の名及其所在を問ふ

答、北海道と露領サカレン島間の宗谷海峽、北海道と千島の國後島との間の根室海峽北海道渡島と本州との間の津輕海峽あり、本州にては紀伊阿波間の紀伊海峽、淡路紀伊間の由良海峽、淡路播磨間の明石海峽、淡路阿波間の鳴戸あり其他四國九州間の速吸の海峽、九州と中國間の赤間關海峽、奚灣島と支那帝國との間に奚灣海峽朝鮮と對馬との間に朝鮮海峽等あり、

三〇　全國中主なる岬角を擧げよ

答、北海道には、渡島の惠山岬、後志の神威崎、積丹岬、北見の知床崎宗谷崎、日高の襟裳

崎、根室の納沙布岬あり、本州には東山道に陸奥の大間崎龍飛崎、尻矢崎、陸前の里崎、仁王崎、陸中に閉伊崎御箱崎、磐城に網取崎あり、東海道には上總の富津岬、大東岬、下總の犬吠岬、安房の野島岬、相摸の觀音崎、劍崎、伊豆の石廊崎、遠江の御前崎、三河の伊良湖崎、尾張の師崎、志摩の大王崎あり、北海道には、能登の珠洲崎、佐渡の春日崎、若狹の常神崎あり、山陰山陽兩道に丹後の成王ヶ崎經ヶ崎、出雲の地藏鼻、日御崎、長門の川尻岬宇部御崎周防の赤石岬あり、南海道に紀伊の汐見崎比井崎、阿波の蒲生田崎、讃岐の三崎、伊豫の佐田の岬由良岬、土佐の室戸崎、蹉跎崎あり、西海道に、豐後の蟹峨關、肥前の野間崎、あり薩灣に亞理磅角、三貂角、龜壁岬等あり、

三一　全國の著名なる大灣を擧げよ

答、武藏の東京灣、攝津の大坂灣、膽振の火山灣、渡島の渡島灣、根室の根室灣駿河の駿河灣、陸奥の青森灣、同野邊地灣、伊勢の海、越中の富山灣土佐の土佐灣、薩摩の鹿島灣等

三二　北海道の港灣を問ふ

答、石狩の平野より南方苫小牧に達する平地以東は海岸の屈曲稀なるを以て港灣殆んどなく、僅に根室灣に根室港、太平洋沿岸厚岸灣に厚岸港あるのみ、其他オコツク海と日本海沿岸には一も港灣なし、石狩平野の西部は港灣多く日本海岸には積丹半島の左右石狩灣に小樽あり、後志灣に壽都港あり、壽都の對岸は噴火灣にして其西方の門戸に室蘭港あり、本州と對せる箱館灣に箱館港あり、津輕海峽に臨める海岸に福山港あり、

三三　本州東海岸の港灣を問ふ

答、津輕海峽より犬吠崎に至る迄の東海岸大港灣なけれど、其北端に陸奥灣ありて其中に青森、犬湊等の港あり、上山系に沿へる一体の海岸に釜石、宮古の諸港ありて、中央部仙臺灣に萩の港あり其以南港灣なし。

三四　本州南海岸犬吠岬より四國の蹉跎岬に至る迄の港を問ふ

答、此間港灣多し、東京灣、伊勢内海、大坂灣其大なるもの、東京灣内に横濱、横須賀、千葉、木更津の諸港あり、犬吠岬より總房半島の大東崎に至る迄の沿岸は九十九里の濱と云ふ、駿河灣内に清水港江の浦港あり、伊豆の石廊崎の東方に下田港あり、伊勢内海には桑名、四日市、熱田の諸港あり、知多半島渥美半島の間に三河灣あり、其北衣浦に半田港あり、紀伊半島の東部に新宮あり、四部に田邊灣あり、和歌山港あり、大坂灣に

神戸港あり、土佐の室戸岬より蹉跎岬に至る灣は土佐灣にして須崎、高知の二港其中に在り。

三五 瀬戸内海の港灣を問ふ

答、瀬戸内海（中國四國及九州の間に在り）の沿岸は風浪の危險少なき所にして無數の島岐散在す、播磨洋の北岸に室津港あり、小豆島以西岸の凹凸著しく、北岸には兒島灣、水島灘、廣島灣ありて、鞆、尾道、吳軍港あり、南岸には高松多度津、三津濱等の港あり、

三六 九州の港灣を問ふ

答、九州沿岸は全國中最港灣に富み西海岸には殊に多し、正北岸赤間關の外海響灘に連れる玄海灘より肥前半島の西端に至る迄の間に博多、唐津、平戸の三港灣あり、玄海灘の西方壹岐島亦岬灣に富む、西岸は肥前半島の南方に港灣に富める上島下島あり、西方に大村灣ありて其口に佐世保軍港あり、又東方南部に三角港あり、州の南端には廣島灣大隅灣あり、

三七 本州日本海沿岸の港灣を問ふ

答、日本海沿岸は屈曲少し、出雲の北部海中に斗出し其内側に境港あり、長門の萩港、石見の濱田港あり、隱岐には西郷港あり、若狹灣には海岸の屈曲多く敦賀港、舞鶴港、宮津港等の良港あり、越前岬以南には坂井港あり、能登半島の東岸に七尾港あり、富山灣に伏木港あり、信濃川口に直江津、新潟港、最上河口に坂田灣、能代川口に能代港佐渡島に、夷、伏木の良港あり、

三八 臺灣の港灣を問ふ

答、臺灣の沿岸は屈曲極めて少く港灣に乏し、東岸には宜蘭あるのみ、北部には基隆、淡水の二港、西南には打狗、平安の二港あり。

三九 本邦中海に瀕せざる國名を道別に記せよ

答、畿内の山城、大和、河内、東海道の伊賀、甲斐、東山道の近江、美濃、飛彈、信濃、上野、下野、岩代、山陰道の丹波、山陽道の美作の十四ヶ國なり。

四〇 本邦中接界國の多き國二三と其接界國の名とを擧げよ

答、最接界國の多きは信濃にして美濃、飛彈、越中、越後、上野、武藏、甲斐、駿河、遠江、三河の十ヶ國に境を交へ、之に次ぐは丹波にして山城、近江、若狹、丹後、但馬、播磨、攝津の七ヶ國に接す、上野と山城は孰れも六ヶ國に境し、上野は武藏、下總、下野、岩代、越

後、信濃、に隣り山城は摂津、河内、大和、伊賀、遠江、丹波に隣る。

四一　五港の名所在及其貿易の狀況を比較せよ

答、五港は横濱、神戸、長崎、新潟、函館にして、横濱は武藏の東南久良岐郡に在りて東方は東京灣に臨み、神戸は摂津の西南隅八部郡に在りて南大坂灣に臨み、長崎は肥前の南西岸西彼杵郡に在り西方海水深く灣入す、新潟は越後海岸の中央信濃川口に位し、函館は渡島の南東部に在りて津輕海峽に臨む、而して外國との貿易の盛なるは横濱を第一とし、輸出入金價格の過半は此港を通過す、之に次ぐは神戸、長崎にして新潟、函館は其最振はざるものなり。

四二　三景の所在を問ふ

答、三景は松島、橋立及嚴島にして、松島は陸前の海岸中央部仙臺灣に在る無數の小島岐、橋立は丹後の東部與謝の海の中に在りて宮津町を距遠からず、嚴島は安藝の沿岸西部周防の堺に近く廣島灣内に在り、

四三　各道（幾内、臺灣とも）に就て其最繁華なる都會一つ宛擧げよ

答、幾内には摂津の大阪、東海道には武藏の東京、東山道には陸前の仙臺、北陸道には加賀の金澤、山陰道には出雲の松江、山陽道には安藝の廣島南海道には紀伊の和歌山阿波の德島と伯仲の間に在り、西海道には肥前の長崎、北道海には渡島の函館、臺灣には北部の臺北府是なり、

四四　本州中太平洋に注げる大河と其附近の都會を擧げよ

答、東北部より順次に記せば一、陸前の北上川（其仙臺灣に注く所に石卷あり）二、磐城より海に注ぐ阿武隈川（其上流沿岸に岩代の福島市あり）三、常陸の那珂川（其河口に近く水戸市あり、）四、下總の利根川（其河口に銚子あり）五、武藏の江戸川、六、相摸の馬入川、七、駿河の富士河、（其上流に近く甲斐の甲府あり）八、遠江の大井川、九。同國天龍川、十、三河の豐川（其河口に近く豐橋町あり）十一、同國の矢矧川（其中流に沿うて岡崎あり）十二、美濃の木曾川、十三、紀伊の新宮川是なり。

四五　本州中日本海に注げる大河と其附近の都會を擧げよ

答、東北部より順次に擧ぐれば、一、羽後の能代川（其河口に能代あり）二、同國御物川（其河口に秋田市あり、）三、同國羽後の境なる最上川（其河口に酒田あり）四、越後の阿賀川（其北方に新發田あり）五、同國信濃川（其河口には五港の一たる新潟あり、新潟よ

り十七里の上流に沿うて長岡あり、)六、越中の神通川(其下流右岸に富山市あり)七、同國射水川(其河口に伏木港あり)八、同國常願寺川、九、同國黑部川、十、加賀の手取川、十一、越前の日野川(其上流足羽、九頭龍兩川と會合せる所に福井市あり、)十二、丹後の由良川(上流丹波の地に福地山あり、河口は由良港なり)十三、但馬の豐岡川、十四、出雲の斐ノ川、十五、石見の江川、是なり、

四六 瀬戸内海に注げる主なる河流と附近の都會とを擧げよ

答、山陽道の方には一、播磨の加古川、二、備前の東大川、三、同國西大川(其下流に跨りて岡山市あり、河口は三番港、其東は牛窓)三、備中の大川(河口より遠く離れずして倉敷あり、上流高梁川口の東岸に高梁あり)四、安藝の太田川(河口に近く廣島市あり)五、周防の岩國川(河口に岩國あり)四國より内海に注ぐものには大河なし、伊豫の重信川(下流より稍東に離れて松山あり)肱川あれど流程十里以下なり、九州より注ぐ大河は豐後の大野川(此東西に稍離れて佐賀關大分あり)。

四七 本州日本海沿岸の半島を地部より順次に擧げよ

答、一、羽後の男鹿半島、二、北陸道の能登大半島、三、丹後の與謝郡半島、四、出雲の島根半島、是なり。

四八 本州太平洋岸の主なる半島を地部より順次に擧げよ

答、一、陸奥の北郡半島、二、陸前の牡鹿半島、三、東海道の房總半島(上總、安房の兩國)、四、相摸の三浦郡半島、五、伊豆半島、六、三河の渥美半島、七、尾張の知多半島、八、志摩半島是なり。

四九 本邦の運河を問ふ

答、本邦にて古來運河と稱すべきものは大阪東京等の市中に設けたる溝渠のみなりしが近年近江の琵琶湖より京都に通ずるものと下總の利根より江戸川に通ずるの二運河を開けり、前者は本線支線合して其延長七千七百餘間あり、近江の三保崎より京都鴨川に連絡し、後者は千葉縣下東葛飾郡田中村大字船戸より起り同郡新井村大字深田新田に至り江戸川に通ず延長二里あり、

五〇 二大湖水及び附近の狀況に就て知れる所を知せ

答、其一は近江の琵琶湖にして周圍七十三里湖口は勢多川となりて山城に入り宇治川と稱す、攝津淀河の上流なり湖の附近には有名なる近江八景あり、西南岸には大津の市街あり、人口三萬餘、湖上舟揖の便多く二十餘艘の汽船常に往來す、此東北に在る小湖を

余語湖といふ、琵琶湖に次ぐは常陸の霞浦にして周圍五十六里其下流浪逆浦となり北浦を合せて利根川に流出し、附近各地方の物貨は此湖水によりて輸運せらる。

五一　本邦四周の海水の深淺を略記せよ

答、四周とも概して深き方なるが、日本海の方は太平洋の方より一層深く、千島の東南タスカロラ海床は地球上最深の箇所にて四五千尋あり、日本海の平均の深さは千二百尋あり、最深所は西伯利亞に近き部分に在り、又最淺は朝鮮海峽にして、深さ八十尋位なり。

五二　本邦沿海の海流の派別を問ふ

答、寒暖の海流五派あり、南より來る日本海流、對馬海流は臺灣島邊に發する黑潮の本流支流にして、北より來るリマン海流、樺太海流千島海流はオコツク海近傍に生する寒流分派なりとす。

五三　寒暖二海流の徑路を記せ

答、暖流は即ち黑潮にして、フヰリツピン群島中の呂宋と臺灣島との間に起り臺灣の東を北流し、東北に向つて琉球諸島に至りて二派に別れ、本流は猶東北に進み、九州四國本州の南岸を洗ひ下總犬吠岬の沖にて再たび二分し、一部は東北に向つて日本島と離れ、

一部は北方金華山沖に至つて東北に轉ず、此海流豆南諸島を流るゝ時に殊に深藍色を呈するを以て、御倉島と八丈島との間に於て里瀨川の稱あり、又支流は九州の西部より對馬の沿岸を流れ日本海に入る、之を對馬海流とす寒流は源を北方オコツク海に發し三派に分る、其北西より起り亞細亞大陸の東岸に沿うて南下し朝鮮海峽を過ぎて黃海に入り終に臺灣海峽に入るものをリマン海流と云ふ、此海流樺太島の爲めに二分せられ其東岸に沿うて下り對馬海流の一派と合し其跡を絕つものを樺太海流と稱す、千島海流はオコツク海に發し千島列島の間を流れ北海道と本州との東南の沿岸を下り金華山近傍にて黑潮の本流に逢ひ其跡を沒す、

五四　潮汐の原因及び本邦沿海潮汐の狀況を記せ

答、潮汐（凡そ六時間毎に海水の干滿すること）の原因は日月の引力に在り、殊に月は日に比して地球に近きを以て之が主なる原因たり、本邦太平洋の沿岸は外洋に面せるが故に潮汐の高低著しと雖、日本海は四面殆んど陸地なる故、高低少し、されど西岸に於ける高低の差は著大なるものにはあらず、大潮の時にても太平洋の方にても二尺以上に昇らず、日本海の方は一尺を昇るとなし、即ち其差唯一尺のみ但し海洋の深く陸地に灣入したる所若くは河口にては其差却つて大なり、是潮水の河流と衝突するが爲なり筑後河口は大潮の時は十八尺六寸、廣島灣十二尺大坂灣八尺七寸、横濱六尺、瀨戸内海の潮汐は

太平洋に通ずる西海峡より進入し水島灘に於て兩者相衝突して東西に逆流す、廣島灣には十二尺、下の關に於ては八尺乃至十尺の高潮を見る。

五五 本邦氣温の差異を記せ

答、氣温の差は元來其緯度の高低地勢、風の方向海流及海洋より遠近によりて生ずるものにして、本邦は南邦一部は熱帶に屬し、北は北緯五十度六十六分に達し高山に富み凹凸多きに、北日本には寒流其沿岸を流れ南日本には暖流沿岸を洗ふありて是等の影響を受け氣温の差著し、又海津、亞細亞大陸の爲めに支配せらるゝ多し、夏冬兩季に於ける平均温度の差北部にては三十度位南部にては二十度位なり、八月に於ける平均最高温度と一月に於ける最低温度との差に至りては四十度以上に達するものあり、冬季に於て臺灣琉球小笠原島を除けば全國中最低温度の氷迄以下に降らざると殆んどなきは亞細亞大陸が非常に冷却するの影響なり、夏季も亦大陸の熱する影響に依りて温度高しと雖、冬季の如き甚だしき影響なし、其理由は大陸の寒熱は又本邦の卓越風を支配し、冬季に於ては大陸より夏季に於ては大陸に向ひ卓越風の吹くに依る。

五六 本邦に夏季南風多く冬季北風多き理を説明せよ

答、本邦は西北にて亞細亞大陸を扣へ東南は一帶太平洋に面するを以て本邦の風は主さ

して此兩者に支配せられ、夏季南風又は東南風の多きは、大陸の内地非常に熱せられて空氣常に稀薄となりて上昇するを以て其空所を充塡せんとて風は大陸の方面に流るゝが爲めなり、冬季北風又は西北風多きは大陸非常に冷却して空氣濃厚となりて高氣壓を示すが故に風は西風に向うて吹くが爲めなり、

五七 所謂二百十日の颶風は何故に起るか

答、九月中旬頃は氣候劇變すると共に氣壓にも劇變を生ずればなり、此颶風は多くはフイリツピン群島若くは臺灣の附近より起り、東北に向ひ九州四國より本州を斜斷して北海道に及ぶ。

五八 本邦各道の雨雪の多少及其原因を問ふ

答、本邦四面海を繞らし濕氣自然に多く且山岳の起伏多きを以て濕氣を凝縮せしむるを以て雨雪の量概して多き方なり、又夏季は東南風に依りて太平洋より多量の濕氣を輸送するを以て九州四國の南部、紀伊の南端東海道等は降雨殊に多く、冬季は之に反して西北風日本海より多量の濕氣を送るが故に山陰道北陸道降雨殊に多し、東北地方は寒冷にして且風の影響を蒙ること少きが故に雨雪甚だ少し、又瀬戸内海は北には中國山脈南には四國山脈ありて双方より來る濕氣を吸收するを以て空氣乾燥にして晴天多く降雨少し、

臺灣の東北部は冬季東北氣候風の衝に當るを以て雨量多く西南部は少し、但夏季は西南季候風濕氣を送るが故に西南部に降雨多し、此時北部は降雨少し、

五九　本邦植物分布の狀を問ふ

答、本邦は南炎熱の臺灣より北寒烈の千島に亘り且海洋を繞せるを以て氣候の差多く又雨量潤澤地味肥沃なるに依りて植物の種類多し、本邦及四國九州臺灣は、熱帶樹帶、半熱帶樹帶、溫帶低地帶、溫帶高地帶、高山帶の五區に分つを得べし、而して熱帶樹帶は臺灣小笠原琉球諸島を始とし、九州四國の南部を占め、椰子、芭蕉、榕樹、蘇鐵、檳榔樹、棗樹、棕櫚等を產し、半熱帶樹帶は九州四國中國紀伊半島の大部及東海道の海岸地能登以西の海岸地を含み、松、柏、山茶、樟樹、蜜柑、甘蔗、櫨樹、茶樹等を產し、溫帶低地帶は甲府の近傍の低地關八州、奧羽の平野及能登半島以東神通川の流域、越後の平野、最上、御物、能代、岩水諸川の灌域に屬する平原にして、櫟、杉、松、楓、檜、樅等を產し、溫帶高地帶は九州、四國、中國、紀伊、半島等の高山を始めとし、東山道の大部及越中、越後の高地を包括し、山毛欅、楓樹、栗、赤楊等少からず、常綠樹は希にして檜の如き針葉樹多し、高山帶は富士の山頂及赤石山脈、木曾山脈、飛彈山脈中央分水山脈、等の高峰にして羅漢松ツガ松等あり、北海道は海岸帶、下方濶葉樹帶、針葉樹帶、上方濶葉樹帶の四區に分つを得べく下方濶葉樹帶は、本州の溫帶高地帶に比すべく、上方濶

葉樹帶は高山帶に比すべし。

六〇　本邦の動物分布を問ふ

答、動物は必らずしも一所に定住するものにあらざる故植物の如く區分明劃ならざれど、南北自から差異なきに非ず、臺灣、琉球、及九州の南端には毒蛇毒虫もあり、又多く猪、鹿、狐、兎等の類を產し四國には殊に猿を產す、海產の動物は太平洋と日本海と性質を異にし、太平洋には牧蛎、鰮、鰹、鮪等を生じ、日本海には鯛、烏賊の類多し北方の地は陸獸には熊、狼を產し、河魚には鮭、鱒、海には鯡、鱈の類多し、千島群島には海獸を產す。

第參章 日本人事地理

一 本邦人種の種別を問ふ

答、現時の人民は人類學上、之を(一)日本種族、(二)アイヌ種族、(三)琉球種族、(四)蕃灣種族に分つ、(一)は最多數を占むるものにして、純料なる我國の本種族を形成す、(二)は北海道の一部に殘存せるものにして、往古は此種族本州に蔓延し日本種族に抵抗したるとあり、此アイヌ又は一種特別の人種にして、現存の他人種中に編入すべからず、(三)は(一)及(二)とも自から異なりたる種族にして性質、言語、風習全く同じからず、(四)は臺灣に住する人民を云ふ、之を別つて移住支那人及び蕃人と爲すを得べし、前者は重に福建廣東地方の人にして後者は臺灣土着の民なり、熟蕃生蕃とは支那政府に歸化せると否とに依りて蕃人を區別せる稱號なり、生蕃は狂暴にして熟蕃は支那人と大差なし。

二 本邦外交の沿革を略叙せよ

答、神代已に朝鮮半島との交通はありき、崇神天皇の時任那國より使節來りし迄公の交

通はなかりしも地方の豪族三韓に渡りし者あり、神功皇后の征韓より彼國は我に附屬し來貢す、推古天皇の時始めて公使を支那に遣はし以後歷朝遣使の事ありしが宇多天皇の時に之を廢し、唯通商は舊の如く行はれたり、足利氏に至り幕府明と通じ、其季世より德川初期に至る迄邦人の安南暹羅呂宋マラッカ印度等に通商するもの多かりき、西洋人の初めて來りしは二千二百年代の初め葡萄牙の船種子島に漂着にして通商を求めしより後西班牙、和蘭、英吉利等の諸國人引續きて來り貿易す、德川氏の時耶蘇教の嚴禁と共に內外國航の往來を停止し唯和蘭支那二國のみ長崎に來りて貿易するを許さる葡人の渡來より一百年也、二千五百年代に至り北米合衆國の使節ペルリ來り交通を請ふに及び條約を結び爾后漸次各國と交通するに至れり、

三 現今我條約國を擧げよ

答、亞細亞にては支那、朝鮮、暹羅、太平洋中の布哇、歐洲にては英吉利、佛蘭西、獨逸、澳太利、匈牙利、露西亞、伊太利、西班牙、葡萄牙、瑞西、白耳義、瑞典、諾威、丁抹、和蘭の二十三ヶ國なり、

四 本邦の政治を問ふ

答、立憲君主制にして、天皇國の統治權を總攬せらる、行政事務は國務大臣輔弼の任に

當り。立法は議會の協贊を待ちて成り、司法權は天皇の御名に於て裁判所之を行ふ。

五　本邦立法行政司法三部の組織を叙せよ

答、立法部は帝國議會と云ひ貴衆兩院より成る、貴族院は皇族華族、勅撰の議員、多額納稅者より選びたる議員凡三百人より成り、衆議員は各府縣公選の議員三百人より成る、法律は汎べて此兩院の協贊を要す、行政部は內閣ありて總理大臣以下各國務大臣を以て組織し、外務內務大藏陸軍海軍司法、文部農商務遞信の九省の外宮內大臣長官となりて帝室のことを司る宮內省あり、天皇の最高顧問府は樞密院なり。地方の行政は道廳にて長官府縣にて知事あり、內務大臣の監督に屬す、道廳府縣は更に小分して市、區、郡若くは島となし、市、區、郡、役所には其長を置き、島廳には島司を置く、區、郡、島等は又細分して町村とし、自治制を布きたる所には町村長を置く、司法部は裁判所にして、區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院の四等より成り區裁判所の裁決に對する控訴は地方裁判所、又地方裁判所の判決に對する控訴は控訴院各之を審判し、控訴院の判決に對する上告は大審院之を判定す、大審院は最後の審判たり、此處に行政裁判所ありて行政官廳の違法處分に關する訴訟を判す、

六　大審院控訴院の所在地、及地方裁判所、區裁判所の數を問ふ

答、大審院は一ヶ所にして東京に在り、訴訟院は七にして東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、仙臺、函館に在り、地方裁判所は各府縣に一個宛にして北海道には三つあり、區裁判所は計三百一ヶ所とす、

七　臺灣の政治を問ふ

答、內地とは特殊の政治を布き臺灣總督なるものありて大權の一部を行ふ、陛下の親任に係る、官廳は臺灣總督府と呼びて臺北に在り、又地方には縣廳あり支廳ありて縣知事又は支廳長を置く

八　市制町村制の組織を問ふ

答、市制とは郡の區劃を離れて單獨に存立するの制度にして全國中二萬五千以上の人口を有する市に施行せらる又町村制とは上記市制施行地外の町村に施行せる制度なり、されば市及町村は國家行政機關の最低階級にして、此制度の趣旨とする所は市町村をして但人と一個の權利義務あらしむる在り、市町村民の公民の資格を有するものは參政の權あり、市町村は各一個の法人なれば思想を吐露する代議の機關あり、即ち市町村會是なり、議員は公民中より選ばれ、行政組織は、市に在りては市長、助役、市參事會、員町村にありては禹般を町村長に一任し助役を置きて事務を補助せしむ、

九 郡制、府縣制の組織を問ふ

答、郡とは町村の結合より成れる行政階級の一にして、府縣は又郡市の結合より成れり郡の郡會、府縣の府縣會は各其代議機關にして、又郡の郡參事會、府縣の府縣參事會は其行政總關なり、又郡には郡役所府縣には府廳ありて行政執行の機關となり、郡は郡長府縣は府縣知事之を管理す、知事の部下には書記官參事官警部長、收稅長、技師等あり。

一〇 本邦の政治區劃を問ふ

答、現時の政治區劃は一廳三府四十三縣となれり、臺灣は此外に在り、廳府縣、官廳所在地、管轄郡數を記せば下の如し但し支廳は略す

廳府縣名稱	官廳所在地	管轄區域
北海道	札幌	石狩、北海道全部(二區八十九郡)
東京府	東京市(武藏)	武藏一市八郡、伊豆七島、小笠原島
京都府	京都市(山城)	山城丹後一國、丹波一郡(一市十八郡)
大阪府	大阪市(攝津)	河內、和泉一國攝津の內一市四郡(二市十郡)
神奈川縣	横濱市(武藏)	相模一國と武藏の一市三郡(一市十一郡)
兵庫縣	神戸市(攝津)	播磨、但馬、淡路一國攝津の一市三郡、丹波の二郡(三市二十五郡)

長崎縣	長崎市(肥前)	長崎の一市六郡壹岐對馬一國(一市九郡)
新潟縣	新潟市(越後)	越後佐渡一國(一市十六郡)
埼玉縣	浦和町(武藏)	武藏九郡
群馬縣	前橋市(上野)	上野一國(一市十一郡)
千葉縣	千葉町(下總)	阿波上總一國と下總の六郡(十二郡)
茨城縣	水戸市(常陸)	常陸一國と下總の內三郡(一市十四郡)
栃木縣	宇都宮市(下野)	下野一國(一市八郡)
奈良縣	奈良町(大和)	大和一國(十郡)
三重縣	津市(伊勢)	伊賀、伊勢志摩一國紀伊の二郡(二市十五郡)
愛知縣	名古屋市(尾張)	尾張三河一國(一市十九郡)
靜岡縣	靜岡市(駿河)	遠江、駿河一國伊豆一郡(一市十三郡)
山梨縣	甲府市(甲斐)	甲斐一國(一市九郡)
滋賀縣	大津町(近江)	近江一國(十三郡)
岐阜縣	岐阜市(美濃)	美濃一市十五郡飛驒三郡(一市十八郡)
長野縣	長野市(信濃)	信濃一國一市十六郡
宮城縣	仙臺市(陸前)	陸前の內一市十三郡磐城三郡(一市十六郡)
福島縣	福島町(岩代)	岩代一國磐城七郡(十七郡)

巖手縣	盛岡市(陸中)	陸前一郡陸中の中一市十一郡、陸奥一郡(一市十四郡
青森縣	青森町(陸奥)	陸奥の中一市八郡(一市八郡)
山形縣	山形市(羽前)	羽前一圓羽後一郡(二市十一郡)
秋田縣	秋田市(羽後)	羽後の中一市八郡陸中の一郡(一市九郡)
福井縣	福井市(越前)	若狹越前一圓(一市十一郡)
石川縣	金澤市(加賀)	加賀、能登一圓(一市八郡)
富山縣	富山市(越中)	越中一圓(二市八郡)
鳥取縣	鳥取市(因幡)	因幡伯耆一圓(一市六郡)
島根縣	松江市(出雲)	出雲石見隱岐一圓(一市十六郡)
岡山縣	岡山市(備前)	美作備前備中一圓(一市三十一郡)
廣島縣	廣島市(安藝)	備後安藝一圓(一市二十二郡)
山口縣	上宇野令村	周防長門一圓(一市十一郡)
和歌山縣	和歌山市(紀伊)	紀伊の中七郡(一市七郡)
德島縣	德島市(阿波)	阿波一圓(一市十郡)
香川縣	高松市(讃岐)	讃岐一圓(一市十二郡)
愛媛縣	松山市(伊豫)	伊豫一圓(一市十二郡)
高知縣	高知市(土佐)	土佐一圓 一市七郡)

福岡縣	福岡市(筑前)	筑前筑後一圓豐前四郡(二市十九郡)
大分縣	大分町(豐後)	豐後一圓豐前二郡(十二郡)
佐賀縣	佐賀市(肥前)	肥前の中八郡(一市八郡)
熊本縣	熊本市(肥後)	肥前一圓(一市十二郡)
宮崎縣	宮崎町(日向)	日向一圓(八郡)
鹿兒島縣	鹿兒島市(薩摩)	太隅薩摩一圓(一市十三郡)
沖繩縣	那覇區(沖繩島)	琉球一圓
臺灣總督府	臺北	(臺灣及澎湖島)

一一　五大島及屬島の人口別を擧げよ

答、本州三千百五十六萬餘、四國三百七十萬餘、九州六百萬餘、北海道(蝦夷島、千島)五十餘萬、佐渡十一萬餘、隱岐二萬五千餘、淡路十九萬餘、壹岐三萬六千餘、對馬三萬餘、琉球四十四萬餘、小笠原島二千餘、臺灣三百萬餘、

一二　各道の人口別を擧げよ

答、畿內二百七十萬餘、東海道一千萬餘、東山道九百六十萬餘、北陸道三百八十萬餘、

山陰道百八十萬餘、山陽道四百三十萬餘、南海道三百七十萬餘、西海道六百五十萬餘、北海道六十萬餘、

一三 各道人口疏密の比較を擧げよ

答、一方里に於ての平均人口幾内は六千餘人。東海道は三千七百餘人、東山道は千七百餘人、北陸道は二千四百餘人、山陰道は千七百餘人、山陽道は二千七百餘人、南海道は二千四百餘人、西海道は二千四百餘人。北海道は百人、

一四 本邦の族制を問ふ

答、本邦の族制は四等に別れ、皇族、華族、士族、及平民とす、皇族は歴代天皇の御血統にして、華族は歴世皇室に直隷したる公家並に封建時代の舊諸侯及び國家に功勞ありて爵位を受やたるものなり、士族は古の所謂武士にして、昔は諸侯に屬從して文武の職に任ぜられたるものなり。平民とは維新前に在りて農工商の業務に從事し、士班に列せざりし庶民を云ふ、

一五 人口の族籍別を問ふ

答、皇族は之を除き奉り、國民を族籍別にせば左の如し、無籍在監人棄兒は素より此外也、

華族　四千五百五十一人
士族　二百十萬五千六百九十六人　合計四千三百七十五萬六千〇七十七人
平民　四千百六十四萬五千八百三十人

一六 全國一方里の平均人口と各道中人口の最密最疏の箇所を記せよ

答、全國一方里の平均人口は千七百六十五人にして、各道の疏密を比較せば、最密なるは幾内にして一方里平均六千〇九十五人、最少きは北海道にして、一方里平均一百人なり、

一七 人口二萬五千以上を有する都市を凡四階級に分ち順次列擧せよ

答、

○二十萬以上は　東京(百四十四萬餘)　大阪(八百十二萬四千餘)　京都(三十五萬三千餘)　名古屋(二十四萬四千餘)　神戸(二十一萬五千餘)

○五萬人以上は　横濱(十九萬三千餘)　廣島(十二萬二千餘)　長崎(十萬七千餘)　金澤(八萬三千餘)　仙臺(八萬三千餘)　函館(七萬八千餘)　福岡(六萬六千餘)　和歌山(六萬三千餘)　德島(六萬一千餘)　熊本(仝　上)　富山(五萬九千餘)　岡山(五萬八千餘)　小樽(五萬六千餘)　鹿兒島(五萬八千餘)　新潟(五萬三千餘)　堺(五萬)

○三萬人以上は　福井、赤間關、靜岡、甲府、佐世保、札幌、松山、高知、那覇、山形、姫路、弘前、松江、前橋、高松、大津、水戸、津、盛岡、佐賀、宇都宮、岐阜、高岡、松本、長野、高崎、米澤、奈良、

○二萬五千人以上は　秋田、若松、久留米、鳥取、青森、宇治山田、小倉、千葉、谷山、門司、四日市、

一八　本邦の軍制を問ふ

答、我國の陸海軍は大元帥陛下之を統御し給ひ、舉國皆兵役に服するの制なり、此役に男子は滿十七歳四十歳迄は悉く兵役の義務あり、兵役を分ちて、常備（現役、豫備）後備、及び國民の三種とす、現役は滿二十歳の男子之に服し、陸軍は三年海軍は四年、現役終りて豫備役に服す、其年限は陸軍四年海軍三年なり、此常備役を經れば陸海軍とも更に五年の後備役に服す、又常備後備の兵役に服せざる十七歳乃至四十歳の男子は總て國民兵役に服す、陸軍は全國より徴集すれど海軍は沿岸及び島嶼の壯丁より抽選す、

一九　陸海軍の編制は如何

答、陸軍の歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵等より成り、又屯田兵、憲兵及軍樂隊あり、近衛兵は皇室を警衛し、他の師團は各地を分衛す、師團長は中將を以て補し、大元帥陛下に隷し師管内の軍隊を統率す、要塞砲兵及警備兵なるものあり、要塞及島嶼と警衛す全國の陸軍を編成して兵衛及十二師團となし之を全國十二師管區に配置し、師團を更に小分して聯隊區となし聯隊を以て衛成す海軍は全國の海岸及海面を五區に別ち各區の軍港に鎮守府を置き軍艦附屬せしめ、出師の準備要港の防禦、管轄海の警備、軍艦の製造、兵員の徴募訓練を司らしむ、又別に常備艦隊を組織し司令長官之を卒ゐて環海を衛る

二〇　陸軍の配置區劃を問ふ

答、陸軍を編制して近衛及十二師團となし、全國十二の師管區に配置す、師團を更に小分して聯隊區となし聯隊を以て衛成す即ち左の如し、

師團	聯隊	警備隊	師管區
近衛	東京本郷、宮、佐倉、宇都水戸	—	東京府五區三郡、崎玉縣六郡、栃木縣、茨城縣、千葉縣
第一	東京麻布、横濱、高崎	小笠原	東京府十區六郡、豆南諸島、神奈川縣、山梨縣、群馬縣、埼玉縣十二郡、長野縣、

第二	仙臺、福島、新發田、柏崎、	佐渡	宮城一市十三郡、福島縣、新潟縣、
第三	名古屋、津、豐橋、靜岡、	—	愛知縣一市十四郡、三重縣一市十七郡、靜岡縣
第四	大阪、和歌山、大津、京都、	—	大阪府四區一市廿二郡、和歌山縣、奈良縣、兵庫縣二郡、滋賀縣、三重縣四郡、京都府二區八郡、
第五	廣島、尾道、山口、濱田、	隱岐	廣島縣、岡山縣十一郡、島根縣、山口縣十一郡、
第六	熊本、大村、五島、大島、廣島、宮崎、沖繩、對馬、	—	熊本縣一市十郡、長崎縣、廣島縣、宮崎縣、沖繩縣、
第七	札幌、函館、根室、十勝、	—	北海道
第八	弘前、盛岡、秋田、山形、	—	青森縣、岩手縣、宮城縣三郡、秋田縣、山形縣、
第九	金澤、富山、敦賀、岐阜、	—	石川縣、富山縣、岐阜縣、福井縣一市八郡、愛知縣五郡、
第十	福知山、神戸、姬路、岡山、	—	京都府十郡、兵庫縣二市二十二郡、福井縣、三郡大阪府五郡、鳥取縣、岡山縣一市二十郡、
第十一	丸龜、德島、松山、高知、	—	四國
第十二	小倉、大分、久留米、佐賀、	—	福岡縣、大分縣、山口縣一市一郡、熊本縣五郡、佐賀縣、

臺灣には以上の師團中より交替駐在す、

二一 海軍の配置區劃を問ふ

答、海軍の區劃、軍港、所管等左の如し

區劃		軍港	所管	海岸延長里程
第一海軍區	陸中國南九戸、北閉伊郡界より紀伊國南岸婁郡界に至るの海岸海面及小笠原島の海岸海面	横濱賀港(相模國三浦郡)	横須賀鎮守府	一〇、五七哩
第二海軍區	紀伊國南牟婁東牟婁郡界より石見長門國界に至り又筑前豐前國界より九州東海岸に沿ひ日向國南那珂南諸縣郡界に至るの海岸海面及四國の海岸海面並に內海	吳港(安藝國安藝郡)	吳鎮守府	二、〇六七哩
第三海軍區	筑前豐前國界より九州西海岸に沿ひ日向國南那珂、南諸縣郡界に至るの海岸海面及壹岐對馬沖繩諸島の海岸海面	佐世保港(肥前國東彼杵郡)	佐世保鎮守府	一、四九七哩
第四海軍區	石見、長門國界より羽後陸奥國界に至るの海岸海面及隱岐佐渡の海岸海面	舞鶴港(丹後國加佐郡)	舞鶴鎮守府	一、〇五五哩
第五海軍區	北海道陸奥及陸中國北九戸、南九戸兩郡の海岸海面	室蘭港(膽振國室蘭郡)	室蘭鎮守府	二、二六六哩

此の中舞鶴及室蘭は未だ鎮守府設置せられざるを以て、第四海軍區中越後以東及第五

海軍區を横須賀鎮守府に管せしめ第四海軍區中以西を吳鎮守府に管せしめ、臺灣と膨湖島とは海軍區未定なり、

二三　各鎮守府所屬の軍艦中排水量一千噸以上のものを列擧せよ

答、朝日、初瀨、淺間、鎮遠、橋立、高砂、豐橋、扶桑、浪速、和泉、平遠、高雄、八重山、武藏、（以上横須賀鎮守府）○八島、出雲、常盤、千歲、嚴島、吉野、明石、千代田、金剛、比叡、筑波、天龍、大和、筑紫、（以上吳鎮守府）○敷島、富士、八雲、吾妻、笠置、松島、高千穗、秋津洲、須磨、濟遠、宮古、葛城、海門、（以上佐世保鎮守府）

二三　砲臺既成の箇所を擧げよ

答、東京灣、横須賀軍港、紀淡海峽、下の關海峽、淺海灣、

二四　海陸軍の監督方法と軍人を養成する學校の名を問ふ

答、陸軍にては出師國防作戰の計畫は參謀本部之を司り、參謀總長統轄し、軍隊の練習は監軍部の監督に屬す海軍にては海軍の軍令部が出師國防作戰の計畫をなす司るのみならず、又軍隊の教育訓練を監督し、海軍々令部長之が長たり、軍人を養成する學校には陸軍は陸軍大學校、砲工學校、士官學校、中央幼年學校、地方幼年學校、尹山學校、教導團、軍醫學校、獸醫學校、經理學校、砲兵工科學校等あり、海軍には海軍大學校、海軍兵學校、海軍機關學校等あり、

二五　陸海軍の軍人軍屬に就て官衙人員の各總計を擧げよ

答、陸軍の官衙人員は軍人四千百四十四人、軍屬は七千六百七十七人、海軍の官衙人員は軍人二千二百七十八、軍屬千七百二十八人なり。

二六　現役及豫備後備兵員を擧げよ

答、陸軍は現役兵員十三萬七千人豫備兵員十一萬一千人後備兵員七萬二千人、海軍には現役兵員一萬八千人豫備後備兵員三千三百人、

二七　本邦の教育制度を問ふ

答、現時の教育初等、中等、高等の三階級あり、先づ六歲より八ヶ年間の學齡兒童の保護者は其學齡兒童として尋常小學四年の科程を卒る迄就學せしむべき義務あり、尋常及高等小學校、初等教育を畢れば中等教育たる尋常中學校に入る、之を擧りて猶高等の學

術を修めんとする者は更に高等學校に入る、之より高等教育となる、高等學校は東京、仙臺、京都、金澤、熊本、山口の六ヶ所に在り、此學校を畢れば更に高等の教育を施す帝國大學あり（東京及び京都）帝國大學は法醫工文理農の六科に分ち是等の分科大學を卒れば更に大學院の設けありて更に蘊奥を究めんとする者を收養す、高等商業學校、工業學校、商船學校等は、中學校を卒へて後實業に就く者の豫備をなす所、高等師範學校、女子高等師範學校、尋常師範學校は教員を養成する所たり、札幌農學校は大學に準ずる專門學校なり、其他高等女學校、農學校、美術學校、音樂學校、盲啞學校等各種の校舍數ふる遑あらず。

二八　書籍館博物館の所在を問ふ

答、書籍館博物館は我國には未だ多からず、政府の管轄に屬し規模の大なるものは、東京に帝國圖書館、東京帝國博物館、京都に帝國京都博物館、奈良に奈良博物館あり、

二九　著書新聞雜誌の發行部數の概略を擧げよ

答、圖書の發せらるゝ者は毎年二萬を超え、定時刊行の新聞雜誌類は種目八百餘にして毎年の發兌部數四億五千萬餘に上る、

三〇　全國公私立の小學校と中學校の數及教員生徒の概ねを擧げよ

答、全國公私立小學校の數は二萬六千八百餘、教員八萬三千餘人、生徒四百萬人、又公私立尋常中學校の數は百六十八にして、教員二千五百餘人、生徒六萬餘人あり、

三一　本邦宗教の現狀を問ふ

答、本邦現時の宗教は三派に分る、神道、佛教、基督教是なり、神道は元我國祖宗の靈を敬し偉人の功績を頌せんとする國民的情操の發揮せるものに過ぎずして別に宗教と目すべきものに非りしが、佛教の渡來より之に反抗して自然宗教的の傾向を帶び來りしものなり、又佛教は欽明天皇の世印度より支那を經て渡來せし、より今日に至る迄殆んど一千三百年間大に國民の信仰を得て殆んど全國を風靡し到處寺院なきはなし、此外近代入り來りし基督教亦信徒漸く多く現時殆んど三萬に近からんとし次第に盛況を呈せんとしつゝあり。

三二　本邦に於ける神佛耶三教の宗派と社寺の主なる者を擧げよ

答、神道の宗派は神道、神宮教、大社教、扶桑教、實行教、黑住教、修成派、大成教、

神習教、御嶽教、禊教、神理教、佛教にては天臺宗、眞言宗、淨土宗、臨濟宗、曹洞宗、黄檗宗眞宗、日蓮宗、本門宗、法華宗、時宗、融通念佛宗等にして、耶蘇教には新教、羅馬教、希臘教の三派あり、又神社の主なるものは伊勢大廟、熱田神社、出雲大社、男山八幡宮、孝平神社、護土神社、大宰府神社、湊川神社、等官幣國幣の神社合せて百六十六、府縣社以下は五萬六千餘あり、又佛教寺院本山の著名なるものは、京都の東西本願寺、智恩院、延暦寺、紀州の高野山、甲州の身延山、能登の總持寺、越前の永昌寺等にして全國寺の總計七萬二千弱あり、耶蘇には東京のニコライ會堂中央會堂等有名なるものにて全國教會の總數三百に近し。

三三　本邦土地の種別を問ふ

答、古來は悉く帝室の御所有なりしが、維新後官有民有の二種に分つ、官有地は全國五分の三の面積を占め、四種の細別あり、即ち第一種は皇室地、伊勢神宮、山陵、官國幣社及府縣社の社地、第二種は皇族賜地、官有地（府縣廳、裁判所、警視廳）、第三種は山岳、丘陵、原野、道路、鐵道、燈臺、公園等、第四種は寺院、大中小學校、病院、貧院等是なり、又民有地は、全國五分の二の面積を占め二種の細別あり、即ち第一種は田畑宅地、鹽田、鑛泉、池沼、山林、原野等、第二種は官有にあらざる鄉村社地及墳墓地公衆用の道路等（此中に耕地の面積は全國の一割七分に當る）

三四　本邦民業の種別を問ふ

答、本邦の民業は未だ十分に發達せりとは云ふべからず遺利尚收拾せられざるものなきに非ず、主なる事業は農業、林業、牧畜業、漁業、製鹽業、鑛業、工業等なり

三五　本邦農産物の概況を記せ

答、農業は古來我國の主なる事業にして、殊に米穀の産額其主を占む、稻米の殊に盛なるは第一木曾川平原、之に亞ぐは筑後、備前、讃岐、大阪附近及利根川、神通川、千曲川の流域にして、東山、山陰南部の九州は最も少し、臺灣には年々二回の收獲あり、又麥の産出多きは關東八州にして、之に亞ぐは尾張、備前、讃岐、及九州の西北部なり、豆類は東京附近産額最多く、實綿は瀨戸内海沿岸及び畿内地方に多し、藍は四國吉野川の流域尾張、遠江、筑後、肥後に多く、煙草は到所に産するも四國、九州、岡山、茨城等最名あり、麻は米麥の産額地と反對にして、米麥の收獲少き地程多し、茶は九州の西部、山城、近江、伊賀、伊勢、駿河、遠江に多く信濃以北は殆んど無し、臺灣には多く紅茶を産す、蠶業は茶と共に本邦の特産にして輸出品の第一位を占む、中仙道東北地方最盛なり、製糖は臺灣四國九州北海道とす、

三六　本邦米穀の平均收穫と其主なる產地の府縣別を擧げよ

答、米穀收穫の平均は凡四千餘萬石にして、產地は新潟縣を第一とし二百萬石以上の收獲あり、其他產額百萬石以上の產地を擧ぐれば福岡、熊本、兵庫、千葉、富山、山口、滋賀、三重、愛知、長野、岡山、秋田、宮城、山形、福島、茨城、大阪、山口等の諸縣なり、

三七　本邦林業の概況を記せ

答、本邦は地味氣候共に植物の生育に適し且山岳に富めるを以て森林殊に多く到る處樹木鬱蒼たり、全國山林の面積は耕地の三倍に當り、國有林民有林を合して總反別千四百九十餘萬町に上る、森林の著大なるものは、木曾、立山の如き溫帶高地帶に屬する森林及霧島山、紀伊、大和、伊勢の諸山、天城山の森林の如き半熱帶樹のものなり、

三八　本邦牧畜業の概況を問ふ

答、本邦飼養の家畜は牛馬を第一とし、豚及び家禽之に次ぐ、馬の最多く產するは本州の東海岸及九州の西南部にして、殊に良種を以て著名なるは南部馬三春馬なり、牛の多きは九州中國にて就中肥前但馬の牛は良種たり、水牛は臺灣に產す、豚は琉球以南に殊に多く、家禽は上總、出雲、備中備前に最多し、

三九　本邦の漁業を問ふ

答、我國は南に海潮の暖流あり北に北海の親潮、樺太の寒流あるが爲め、夥多の魚類を沿海に運ひ來る、九州中國、四國等の南部は漁業者多けれども漁場の大なるは却つて東北の沿海にあり、南部の漁業は鰮、鰹、鮪、鰯、鯨屬の捕獲にして、北部の漁業は鮭、鱒、鰊等を捕獲す、本邦漁業の發達は猶幼稚にして、漁業者多くは唯沿岸の漁業に從事し、夥多の水產物を十分に捕獲し得ざるを憾とす、

四〇　本邦の製鹽業を問ふ

答、本邦の製鹽業は空氣乾燥にして晴天多き瀨戸內海に沿へる諸國の海岸最盛なり、畢竟我國の食鹽は海水を煮て得るものなればなり、全國一年間食鹽の製產額は六百三十餘萬石此價格八百二十餘萬圓にして、最多額の產地は山口、兵庫、廣島、香川、岡山、德島等とす

四一　本邦鑛業の概況を問ふ

答、本邦は鑛物に富むを以て採掘の業盛なり、諸種の鑛物中殊に多量に產するは、石炭と銅にして銀、鐵、金等は之に次ぐ、全國到處に鑛物の何物かを產せざるは無き程なれ

ども、就中殊に著名なるは佐渡の相川、但馬の生野、鹿兒島等の金銀に於ける秋田、福島、岐阜等の銀に於ける、栃木、秋田岡山の銅に於ける、島根岩手、鳥取の鐵、福岡、長崎、佐賀、北海道等の石炭に於けるを其最たるものとす、全國各種鑛產物の鑛區計五千三百に近く總坪數五億萬坪に近し、現今一ヶ年の產額は石炭は、六百七十萬噸に達し、輸出少からず、銅は三千五百萬斤、銀は一萬六千貫、鐵は三十萬貫、金は三百貫餘とす、

四二　本邦の工業を問ふ

答、本邦の工業蓋來は僅に人工を以てするものゝみなりしも維新來泰西の器械を用ひ漸次發達して益盛況なり全國各種工業會社の主なるものは其數二千を超え、就中製絲會社最多く次きは織物會社にして、此外は鑄物會社、金器會社、摺附木製造會社、煉瓦製造會社、陶磁器會社、紡績會社、製紙會社、造船會社、セメント會社等あり、絹絲製造は群馬、長野、埼玉、滋賀東京等に多く、綿絲は大阪、岡山、三重、東京等盛なり、機業の盛なるは京都、群馬、福島、山梨、等にして染物は京都最盛に友禪染殊に名高し、陶磁器は愛知の七窯燒、瀨戸燒、佐賀の伊萬里燒、加賀の九谷燒著名に、本邦特有の工藝品なる漆器は東北地方最盛也、春慶塗、津軽塗、日光塗、輪島塗等あり、紙の重要なるものは、美濃紙半紙にして、製紙の最盛なるは高知、愛知、福岡の三縣又東京、神戸

等には近年洋紙の製造盛なり、摺附木も主に東京神戸にて製造す、

四三　本邦絹織物の品種及各其主產地を擧げよ

答、紋織物は山城の京都と上野の桐生を最とし、中にも京都の西陣產最佳良なり、縮緬は西陣、丹波、丹後、桐生、岐阜、長濱等にて、博多帶地は筑前の博多、武藏の八王子羽二重は越前の福井、上野の桐生、福島縣の二俣埼玉縣の入間郡等なり、畝織、畦織は秋田縣、黑八丈は武藏八王子、黃八丈は八丈島、甲斐絹は甲斐國、仙臺平は陸前の仙臺、琉球紬は琉球、大島紬は廣島、絲織は羽後米澤の名產なり。

四四　本邦棉織物の品種及各主產地を擧げよ

答、白布、晒木綿等は栃木の足利、茨城の眞岡を最とし河內和泉播磨等之に次ぐ、帆木綿は兵庫、大阪、石川の諸縣、紋羽織は大阪、和歌山、綿フランネルは和歌山、大阪等にて飛白は薩摩琉球を最とし、二子唐棧武藏、尾張等の特產なり、

四五　本邦に於ける漆器の主產地を擧げよ

答、漆器は東京、京都、石川縣、栃木縣等を最とし、其他は紀伊、駿河、越後、岩代、尾張、美濃、陸奥、羽後、若狹、德島、讃岐外數國より產す、

四六　飲料品の種目及産地を問ふ

答、本邦飲用品の主なるものは酒と醤油なり、酒は清酒、濁酒、自酒、味淋酒、燒酎等の外葡萄酒、麥酒等あり、全國一ヶ年の製造高酒は凡五百餘萬石、醤油は百五十餘萬石、酒の醸造中には清酒造石の最多額を占め、主産地は兵庫縣(殊に池田、伊丹附近)を初め愛知、長野、福岡等盛なり、醤油は本邦特有の飲用品にして製造も全國到處に普れけれども千葉縣を以て最とし、兵庫、愛知等之に次ぐ、

四七　本邦内國商業の概況を擧げよ

答、内國の商業に於て取引の最盛なる貨物は飲食品にては米、清酒、麥、甘藷、茶、魚介にして衣類には生絲織物とす、石炭木材等は殊に盛也、東京は内外貨物の中心市場にして大坂は關西の中心市場たり、名古屋、仙臺、金澤、廣島、福岡、德島、函館等亦其地方の商業中心なり、銀行は東京に日本銀行ありて全國の財政を調和し、横濱には正金銀行ありて海外貿易を調和し、又各地に私立銀行數多ありて金融の圓滑を計る、其他米商、貸金、織物、水産等の商業會社夥し、

四八　本邦の主なる貿易國及普通貿易港と特別輸出港を擧げよ

答、我國の貿易に最關係あるは、北米合衆國、英吉利、清國、朝鮮、濠洲、香港、浦鹽斯德、及佛蘭西、獨逸にして、普通貿易港と稱して何品を問はず取引を爲し得るは、横濱、神戸、長崎、新潟、函館の五港の外に大阪あり外に臺灣に六港あり、別項に掲ぐ、朝鮮、浦鹽斯德との貿易に限りて許されあるは宮津港、清國とに限りて許されあるは那覇港にして、朝鮮とのみの貿易を許されあるは下ノ關、博多、佐賀奈、鹿兒、嚴原、の五港なり、又米、麥粉、石炭、硫黄の五品に限りて海外輸出するを許されあるは、四日市、三角、ロノ津、博多、小樽門司、下ノ關、伏木、唐津、釧路、室蘭の十一港にて之を特別輸出港と云ふ、

四九　主なる輸出入貨物と主なる諭出入地とを擧げよ

答、現時我商品の主なる輸出地は北米合衆國を第一とし、佛蘭西、香港、清國、英吉利、之に次ぐ、其貨物は生絲、茶、米、海産物、石炭を最多とす、又外國よりの輸入は英國を第一とし、清國、英領印度、香港、獨逸、北米合衆國、佛蘭西、朝鮮等之に次ぎ、其貨物は鐵器、綿類、砂糖最多し

五〇　本邦輸出入額の概略を記せ

答、輸出入額は各港別にすれば、第一は横濱港にして全國輸出入の五割强を占め、之に

次ぐは神戸にして三割強に居り、自餘の諸港は通計にて殘餘の一割に當れり、今明治三十二年度に於ける輸出入總額を擧ぐれば物品輸出價格二億二千九百四十九萬六千八百九十二圓にして、輸入價格二億四千四百三十三萬一千八百五十九圓にして、即ち千八百八十三萬四千九百六十七圓の輸入超過となれり。(此計算臺灣は除く)

五一　臺灣の貿易港と輸出入品及其價格を略記せよ

答、臺灣の貿易港は基隆、淡水、安平、打狗、鹿港、舊港の六港にして、輸出品の主なるものは、茶、砂糖、樟腦、輸入品の主なるものは米、阿片、等なり、價格は明治三十二年度に於て輸出千百十一萬四千九百十八圓、輸入千四百二十七萬三千〇五十二圓也、

五二　本邦道路の種別を問ふ

道路は之を國道、縣道、里道の三種に別つ、國道は東京より道廳、府縣廳、開港場、伊勢大廟に達するもの、及道府廳と師團本部と連絡するものと云ひ、縣道は各府縣を聯接し師團より營所に通じ大都會の往還の類を云ひ、里道は各村落間を通する小路を云ふ道幅の廣狹は此階級に從つて差等あり、

五三　東京日本橋元標より廳府縣元標に至る里程を擧げよ

答、左の如し、但普通の道筋に依る、別路あるものは、其別路に依らば多少の差を生ずべし。

道府縣名	元標地名	里程	道府縣名	元標地名	里程
京都	京都	一三一里	愛知	名古屋	九五里
大阪	大阪	一四四	靜岡	靜岡	四六
神奈川□横濱		八	山梨	甲府	三四
兵庫	神戸	一五〇	滋賀	大津	一二八
長崎	長崎	三四四	岐阜	岐阜	一〇四
新潟	新潟	一〇九	長野	長野	五九
埼玉	浦和	六	宮城	仙臺	九二
千葉	千葉	一〇	福島	福島	七一
茨城	水戸	二九	岩手	盛岡	一四〇
群馬	前橋	二八	青森	青森	一九二
栃木	宇都宮	二七	山形	山形	九五
奈良	奈良	一四〇	秋田	秋田	一五一
三重	津	一一三	福井	福井	一三七

道府縣名	元標地名	里程	道府縣名	元標地名	里程
石川	金澤	一二五哩	愛媛	松山	二三四哩
富山	富山	一〇八	高知	高知	二三四
鳥取	鳥取	一九四	福岡	福岡	三〇三
島根	松江	二二一	大分	大分	三一七
岡山	岡山	一八六	佐賀	佐賀	二一四
廣島	廣島	二三一	熊本	熊本	三二五
山口	山口	二六六	宮崎	宮崎	三六八
和歌山	和歌山	二六一	鹿兒島	鹿兒島	三八一
德島	德島	一七八	沖繩	沖繩	五七四
香川	香川	二〇七	北海道	札幌	二七六

五四　本邦鐵道の狀況を問ふ

答、本邦鐵道の開始は明治五年にて東京横濱間に布きたるを初めとし、神戸大阪京都間之に次ぎ爾後漸次各地に布設し、現時に於ては其延長哩數官設に係るもの八百九十三哩、私設のもの二千八百六哩にして合計三千六百九十九哩に上る（明治三十二年末調べ）現今は本州東北日本海の沿岸、山陰道、四國九州の東南部、北海道の北部を除けば滊車の便全國殆んど之あらざるなし、臺灣には基隆より新竹に至るものあるのみ。

五五　官設鐵道の線路別及各線哩數を問ふ

答、東海道線（四百三十三哩）信越線（百十六哩）奥羽線（七十六哩）北陸線（百二十二哩）北海道線（八十三哩）臺灣線（六十哩）計八百九十三哩

五六　私立鐵道の線路最長きもの二三を擧げよ

答、日本鐵道（八百五十七哩（九州鐵道（三百三十哩）山陽鐵道（二百八十哩）北海道炭鑛鐵道（二百〇七哩）關西鐵道（百四十八哩）

五七　本邦の航路を略記せよ

答、我國は四周海なる上河湖内海の航通すべきもの多く内外諸港の交通往來甚だ便なり、日本郵船會社は内外の航路を兼れ、横濱を中心として西は四日市、神戸、長崎、臺灣、支那、朝鮮の諸港、東は荻の濱、函館、小樽、根室、千島列島、及び浦鹽斯德間を往復し、或は南フィリッピン島のマニラ、安南のサイゴン、爪哇、孟買に至るもあり、又布哇島にも航す、近來歐米濠洲にも航路を開けり、大阪郵船會社は大阪を中心として

專ら關西の運漕を業とし內海の沿岸諸港を往復し、馬關を經て伯耆に至る、南は德島和歌山間等より長崎臺灣に至る、

五八 横濱より海外著名の諸港への浬を擧げよ（浬は海里にして凡十七町弱）

答、左の如し

香港清國、一千五百六十浬
新嘉坡（露領）、三千浬
亞丁、六千六百四十四浬
蘇士、入千〇二十四浬
フレモース（英國）、一萬一千〇八十一浬、
馬耳塞（佛國）、九千七百二十一浬、
チープル（伊國）、九千二百四十一浬、
クリスチアナ（諸威）、一萬一千五百九十浬、
コツペンヘーゲン（丁抹）一萬一千九百八十浬、
ストツクホニム（瑞典）一萬二千三百八十浬、
トリスト（墺國）、九千三百九十八浬
コンスタンチープル（土國）、八千九百二十一浬
アゼンス（希臘）、八千六百九十六浬
バルセロナ（西班牙）、九千七百四十二浬
リスボン（葡萄牙）一萬〇三百二十六浬
キール（獨逸）一萬二千百八十二浬
セントペート（露國）一萬二千七百三十八浬
ルスブルグ
メルボルン（濠洲）五千一百十四浬
ホノルヽ（布哇）三千六百浬
孟買（印度）三千四百七十浬

桑港（北米）四千九百三十浬、カルカツタ（仝上）四千五百六十二浬
新約克（同上）一萬三千三百三十一浬、

五九 內地の主なる諸港間の里程を擧げよ

答、左の如し

○横濱より
横須賀（相摸）へ 十二浬
四日市（伊勢）へ 二百浬
萩の濱（陸前）へ 二百八十五浬
函館（渡島）へ 五百二十九浬
○神戸より
下の關（長門）へ 二百四十浬
廣島（安藝）へ 百五十五浬
○長崎より
鹿兒島（薩摩）へ 百六十三浬
嚴原（對馬）へ 百〇六浬
安平（臺灣）へ 八百七十浬
清水（駿河）へ 百十二浬
神戸（攝津）へ 三百浬
釜石（陸中）へ 三百五十三浬
青森（陸奥）へ 四百六十三浬
鹿兒島（薩摩）へ 四百浬
高知（土佐）へ 百四十二浬
佐世保（肥前）へ 二十一浬
基隆（臺灣）へ 六百三十七浬

○下の關より
長崎（肥前）へ　百四十二浬
博多（筑前）へ　六十浬
○鹿島兒より
那覇（沖繩島）へ三百七十三浬
○函館より
寄森（陸奥）へ　九十九浬
伊萬里（肥前）へ　九十九浬
新潟（越後）へ　四百九十六浬
石垣（八重山島）へ　六百十五浬
室蘭（膽振）へ　七十九浬

六〇　日本郵便會社の主なる海外航路を記せ

答、左の如し

○歐洲線（往航、横濱、神戸、門司（臨時）香港、新嘉坡、坡南、古倫母、ポートセッド、馬耳塞、倫敦、アントワープ　復航、アントワープ、倫敦、ポートセッド、古倫母、新嘉坡、香港、神戸。横濱、）
○孟買線（往航　横濱、神戸、門司、香港、新嘉坡、古倫母、孟買、　復航　孟買、ナヂュリン（臨時）新嘉坡、香港、神戸横濱、）

○濠洲線（横濱、神戸、門司、（往航のみ）長崎、香港、木曜島、タウンスヴヰル、ブリスベン、シドニー、メルボルン、）
○米國線（香港、門司（復航のみ）神戸、横濱、ヴヰクトリヤ、シヤトル、（臨時ホノルル、寄港）
○上海線　横濱、神戸、下關、長崎、上海、
○香港浦鹽線（往航　香港、上海、芝罘、仁川、長崎、釜山、元山、浦鹽、　復航　浦鹽、元山、釜山、長崎、下關、神戸、下關、長崎、上海、福州、厦門、香港）

六一　日本郵船會社の國内沿岸航路の主なるものを記せ

答、左の如し

○横濱、四日市線　横濱、牛田、津、（又は神社寄港）、四日市
○小笠原島線　横濱、三宅島（臨時）八丈島、小笠原父母島
神戸、小樽東廻線　神戸、横濱、荻濱、函館、小樽
○室灣線　神戸、門司、基隆、
○青森室蘭線　函館寄港
○函館根室線　釧路、厚岸、濱中、等寄港

六二　大阪商船會社の主なる航路を記せ

○臺灣直行線　神戸、門司、基隆。
○臺灣沿岸線　基隆、蘇澳、花蓮、卑南、南灣、車城、打狗、安平、澎湖島、塗葛窟
○大阪、仁川線　神戸、馬關、釜山、木浦、鹽原、仁川、
○大阪、鹿兒島線　神戸、三津、佃島、油津、鹿兒島、
○大阪、赤馬關線　神戸、高松、多度津、丸亀、尾ノ道、竹原、音戸、呉、宇品、鹽原、岩國、久賀、柳井、德山、三田尻、門司、赤馬關、
○大阪、德島線　大阪、兵庫、德島、

六三　本邦郵便の狀況を問ふ

答、本邦の郵便は明治四年三府間に開きしを嚆矢とし、今日は全國一般に郵便線路通ぜり外國、の郵便は明治十年に加盟したる萬國聯合郵便船に托するものにして、歐洲に送達するものは横濱、神戸、馬關、長崎に於て之を集め上海に送る、又上海、芝罘、天津、釜山、仁川浦鹽斯德等へは長崎より直送す、全國に於ける現時郵便電信局の數は總計千二百、郵便局の數は二千六百十五にして、内外國發信郵便物の一ヶ年總數は明治三十二年度にて六億二千九百八十九萬三千八百十五通なり。

六四　本邦電信の狀況を問ふ

答、本邦現時電信線の延長は二萬四千三百餘哩（線路の亘長は五千六百八十八哩）、にして主要の市邑には大抵電信局の設置なきは稀なり、又本州より四國、北海道、及佐渡等の間は海底電線に依りて通じ、九州と壹岐對馬は朝鮮に通ずる海底線に依り、臺灣へは薩隅琉球諸島を經て基隆に通ずるものあり、上海よりは長崎迄海底線となり、又長崎より浦鹽斯德、臺灣より支那福州との間にも海底線あり、電話は明治十八年始めて架設し、現時は東京、横濱間、東京大阪間等の遠距離にも行はる、其外大なる都市には往々設置せられあり、

第四章　日本地方誌（上）

各道類別問答

一、位置形勢

一　幾内の位置形勢を問ふ

答、畿内は本州の中部に位し、面積四百四十方里人口二百七十萬餘、山城大和河内和泉攝津の五ヶ國より成る、東は東海道の伊賀伊勢、南は南海道の紀伊に接し、西は茅渟の海及山陽道の播磨に連り北は山陰道の丹波東山道の近江に隣る、東南北三面は山嶺に圍まる、東は笠置山脈、東南より西に亘るは紀伊山脈、北は中國山脈、地勢東に高く西に低し水流亦多くして灌漑に富み概して平地にして、地味豐饒又風景に富む、京都大坂の二府、兵庫奈良の二縣の分割に屬す。

二　東海道の位置形勢を問ふ

答、畿内の東に位して太平洋に瀕し、紀伊半島以東本州の中部南面一帶の地なり、東西最長百二十里南北最長三十里、面積二千六百餘方里、人口千六十萬餘、伊賀、伊勢、志摩尾張、三河、遠江、駿河　甲斐、伊豆、相摸、武藏、安房、上總、下總、常陸の十五ヶ國より成り、東京府、神奈川、千葉、茨城、埼玉、山梨、靜岡、愛知、三重の一府八縣に分管せしむ、地勢は北部は山岳相連り漸次海岸に傾斜す、此故に川流は伊勢常陸を除くの外は大抵南流して海に注ぐ、海岸は屈曲多く東京灣、駿河灣、伊勢海の三大灣深く北方に灣入し、總房、三浦、伊豆、志摩の四半島遠く海中に斗出す、道の中央なる函嶺の東西即ち關東關西は地勢同じからず、東には所謂關東平野ありて諸川灌漑の利多く地勢最平坦なり。全道を東西に横斷する高峻なる山系は富士帶及赤石山系とす。

三　東山道の位置形勢を問ふ

答、畿内の東より東北に灣曲し、本州の中央以北を占め、東海道の脊に當りて山岳重疊せる地方にして本州中の大河は皆源を本道より發せり、北端は津輕海峽を距てゝ北海道に對し、北部は西方日本海に面し、東方太平洋に臨む、延長二百八十里、幅は最廣き處五十三里、面積六千八百四十餘方里、人口九百三十萬餘、近江、美濃、飛彈、信濃、上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後の十三ヶ國とし其東北部七國を陸羽七州と稱し、西部六國を中仙道と稱す、滋賀、岐阜、長野、群馬、栃木、福島、宮

城、岩手、青森、山形、秋田の十一縣之を分管す、地は概して高崇にして津輕海峽より渡り來れる千島山系は北より走せて飛彈美濃に至り沖繩より九州中國を渡り來れる支那山系と合して本州の大高原を形成せり、中仙道は其西部の低地を近江美濃とし琵琶湖及木曾川の灌漑地にして耕作に宜し、近江美濃の間は有名なる關ヶ原なり、又中央部は飛彈信濃の高地にして地味磽确耕作に適せず、又東部は上野下野の兩國即ち關東八州中の一部にして概して低平なれども北方險峠なり、又奥羽の地は岩代の外皆海に面し、河流の灌漑も多し、

四　北陸道の位置形勢を問ふ

答、本州の中部に在りて北日本海に臨める一帶の地及一島岐を合せて成り、西は山陰道に接し、南は東山道に界す、東西の延長百十三里、南北十里、面積千五百七十七方里、人口三百八十九萬餘、全道を分つて、若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡の七ヶ國とし、新潟、富山、石川、福井の四縣の下に分割せられ、東南に山を負ひ西北は海を隔てゝ遠く亞細亞大陸に對するを以て氣候は寒暑共に劇烈なり、本道は本州中央山脈の北斜面なる故地勢は東海道と相反し南高くして北に低し、東北と東南は羽越山脈境を成し、中央は飛彈山脈の餘派東西に亘る、加賀、越中、能登の國界には寶達山脈あり、西南境は飛彈、信濃の高原に接し、南端若狹の地は中國山系に連なる、海岸線は港灣極めて

少く、纔かに苦狹の灣入と能登半島中に富山、七尾の二灣あるのみ、

五　山陰道の位置形勢を問ふ

答、本州の西部日本海に面する一帶と日本海中なる隱岐の一島岐とを合せて成る、東は畿内及北陸道に接し南は中國山脈を以て山陽道と堺す、氣候は緯度の低きと且南方の山脈高峻ならざるを以で北陸道に比すれば較溫暖なり、東西八十里南北二十里、面積一千八十七方里、人口百八十六萬餘を有す、全道を丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐の八國に分ち、京都府、兵庫、鳥取、島根の一府三縣に分轄す、本道は南境に高く、北方に向ひて低下す地帶狹きを以て傾斜の度急にして河流も山陽道より來る江の川を除くの外孰れも短かくして急流なり、而して江の川以外の諸川は皆南方中國山系より發源す海岸出入に乏しく、東には丹後の與謝灣あり西には島根半島と夜見濱半島とありて中海及び美保灣を其内に入るゝあるのみ、要するに本道は山岳各所に起すれども凹凸の度極めて小に長流平原少し、

六　山陽道の位置形勢を問ふ

答、本道は山陰道の南に在りて北に中國山系を負ひ、南は瀨戸内海に臨む、東は畿内に隣り、西は赤馬ヶ關海峽を隔てり西海道に對す、東西百七里南北十五里、面積千五百七

十萬里、人口四百三十三萬餘を有し、播磨、美作、備前、備中、備後、安芸、周防、長門の八ヶ國より成り、兵庫、岡山、廣島、山口の四縣の分割に屬す、美作の一國は四面陸地を以て圍繞せられ、長門は三面海を以て圍まれたる外各州皆瀬戸海に瀕せざるなし、沿岸は屈曲に富み數百の島嶼前に碁布す、地勢は北に高く南方に向ひて漸次緩斜す、故に江の川を除くの外諸川概れ地境の山脈より發し南流して內海に入る、其流域土地沃饒なり、本道北部に山を負ふを以て氣候溫暖空氣乾燥天氣晴朗にして降雨少く海岸製鹽業盛なり、

七 南海道の位置形勢を問ふ

答、本道は本州の一部と淡路四國の二島より成り全道六ヶ國に別たる、紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐是なり位置は紀伊の一國は北は畿內東は一部分東海道に接し、自餘の向は太平洋に臨み、淡路は瀬戸內海の東端に在る島國四國は其西に位する本邦五大島の一にして、北方は瀬戸海を隔てゝ山陽道に臨み西は豐後灘佐賀關海峽を隔てゝ九州に對し南は太平洋に面し、東は紀伊水道及鳴戸海峽を隔てゝ九州に對し南は太平洋に面し東は紀伊水道及鳴戸海峽を隔てゝ紀伊及び淡路に對す全道面積千五百六十餘方里、人口三百七十餘萬を有し、和歌山、三重、兵庫、德島、香川、愛媛の七縣に分管す、地勢は紀伊に紀伊山脈ありて峻嶺多し、諸川流は皆東南西の三方に流れ西北の一部稍平夷なり、

淡路は高山なけれど平地も少し、四國は四國山系ありて中央を東西に奔り地勢南北に向うて漸く緩斜す、諸川は此山系より發源して四出して海に入る、沿海の地稍平坦なり內海の方に島嶼多けれども外海には殆んど之無し、海岸は屈曲多く港灣に乏しからねど紀伊淡路の二國に於ては小出入あるに過ぎず、四國には島の東北西に著しき凹凸あり南は土佐灣北は伊豫灣なり、西海岸に長く斗出するを佐田岬とす、

八 西海道の位置形勢を問ふ

答、本道は我國の西端に位し、九州及他の諸島嶼より成り、東北は赤間關海峽及び豐後海峽を夾んで中國の西端及び四國に接し、西北は朝鮮海峽を隔てゝ遙に朝鮮と相對す、西南より東南に至る一帶の地は太平洋に洗はれ列島長く延いて蜜灣に連る、面積二千八百餘方里、人口六百三十五萬餘、全道を筑前、筑後、豐前、豐後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對馬、琉球の十二ヶ國とし、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩の八縣に分轄せらは、九州の地勢は一般に山多く平地少し、南部に九州南部山脈小松山脈あり、北部に筑紫肥前の兩山脈あり、是崑崙山系に屬す此外に瀬戸內海より連る中央山脈あり、又霧島火山脈等ありて縱橫に起伏し河川は東西南北に分流す、而して肥沃の平野亦無きにあらず、沿岸は屈曲に富み肥前は殊に然り、九州には肥前半島薩摩半島大隅半島國東半島の四半島あり、薩摩大隅兩半島間を鹿兒島灣と云ふ、肥前

半島復二つに別れて大村灣筑紫灣を爲す、本島沿海島岐多く、本道の各一國を爲せる壹岐對馬の如き亦其中に數ふべく、壹岐は周圍三十五里對馬は上島(周圍五十里)下島(周圍百三十六里)の二島に分る、疏球は大小五十餘島より成り沖繩、宮古、石垣、入表の四島を最大とす、

九　北海道の位置形勢を問ふ

答、北海道は我國の最北に位し、一大島と北東に散布せり數十の群島より成る、本島は東は東經百四十五度四十七分より西は東經百三十九度十分に至り、南は北緯四十一度二十三分より北は北緯四十五度三十分の間に位し南は太平洋に面し南西は津輕海峽を隔てゝ本州の陸奥と對し北は宗谷海峽を距てゝ露領樺太島と對しオコツク海に濱し、東は太平洋西は日本海に面し地形は畧四角形にして周圍五百八十四里、面積五千〇五十六方里、屬島は千島群島、禮文島、利尻島、奥尻島、大島、天瓜島、燒尻島、小島外五個の小島あり、千島は本島の東端より北東に羅列して其數三十二あり、是等屬島を合して北海道全道の面積は六千〇九十餘方里、人口六十一萬餘、渡島、後志、膽振、石狩、天鹽、日高、十勝、釧路、根室、北見、千島の十一ヶ國に別ち全道を擧げて北海道廳の管轄に屬す、本島の地勢は中央に高峻なる山脈連亘して四方に分派し其間に諸川流及び曠野を見る、川流は概ね此中央山脈より四出して海に注ぐ、本邦第一と稱せらるゝ石狩川西部

の廣野を灌漑し流域頗ぶる大なり、其他諸大河の流域廣く沃野を作れり、海岸は屈曲多く噴火灣深く陸地に侵入し石狩根室の兩灣亦東西に大灣入を形成し、其他厚岸灣猿間湖等あり、氣候は一般に寒冷なり、

一〇　臺灣の位置形勢を問ふ

答、本邦の西南端淸國福州の東南海洋中に在り、南は北緯二十一度五十四分より北は北緯二十五度十八分に延き、西は東經百二十度七分より東は東經百二十二度十五分の間に至り、南方遙にフイリツピン諸島と相對し、東北は琉球諸島を臨み四方福州へは約二百哩の海峽を隔つ、其形は南北に長く東西に狹く全長百里許幅最廣の〻所三十里許面積約二千三百方里、人口は內地人本島人を合して五十三萬餘、臺北、臺中、臺南の三縣に分ち全島臺灣總督府の管轄に屬す、本島を圍繞して數多の島嶼あり、膨湖列島は其最著るゝものにして最大なるもの周圍十八里餘、地勢は形に於て中部最廣く南北は漸次狹し、南北に走りて全島を東西に二分せる一大山脈ありて南方に於ては一萬尺以上の高峰を起す、モリソン山を其最高峰とす、山脈の東部は岩石山を憑し平地希なれども西部は原野多し、されば沿岸も東の方は斷崖削立船を寄するに由なく、沿岸と雖百尋以上に達せり、而して西岸は之に反して頗ぶる淺く兩岸とも良港を見ず、但北部地方は稍異りて基隆の如き良港あり、河流も大なるものなく氣候は熱帶性にして一般に夏季雨多く北部は南部

に比して氣候の變動大なり、

二、國郡（政治區劃に就ては人文地理欄參照）

一　幾内の國郡を擧げよ

山城　八郡　愛宕、葛野、乙訓、紀伊、宇治、久世、綴喜、相樂（京都府）
大和　九郡　添上、生駒、磯城、山邊、宇陀、高市、南葛城、北葛城、宇智、吉野（奈良縣）
河内　三郡　南河内、中河内、北河内（大阪府）
和泉　二郡　泉南、泉北、（大阪府）
摂津　七郡　東成、西成、三島、豊能（以上大阪府）河邊、武庫、有馬（以上兵庫縣）

二　東海道の國郡を擧げよ

伊賀　二郡　阿山、名賀（三重縣）
伊勢　十郡　桑名、員辨、三重、鈴鹿、河藝、安濃、一志、飯南、多氣、度會、（三重縣）
志摩　一郡　志摩（三重縣）
尾張　九郡　愛智、東春日井、西春日井、丹羽、葉栗、中島、海東、海西、知多（愛知縣）
三河　十郡　碧海、幡豆、額田、西加茂、東加茂、北設樂、南設樂、寶飫、渥美、八名（愛知縣）

遠江　六郡　榛原、小笠、周智、磐田、濱名、引佐、（靜岡縣）
駿河　五郡　駿東、富士、庵原、安倍、志多（靜岡縣）
甲斐　九郡　東山梨、西山梨、東八代、西八代、南巨摩、中巨摩、北巨摩、南都留、北都留、（山梨縣）
伊豆　二郡　賀茂、田方（靜岡縣）
相模　八郡　三浦、鎌倉、高座、中、足柄上、足柄下、愛甲、津久井（神奈川縣）
武藏　三郡　橘樹、久良岐、都筑（以上神奈川縣）荏原、西多摩、南多摩、北多摩、豐多摩、北豐島、南足立、南葛飾（以上東京府）南埼玉、北埼玉、北足立、入間、比企、大里、兒玉、秩父、北葛飾（以上埼玉縣）
安房　一郡　安房（千葉縣）
上總　五郡　市原、長生、山武、君津、夷隅（千葉縣）
下總　九郡　千葉、東葛飾、印幡、香取、匝瑳、海上（以上千葉縣）猿口、結城、北相馬、（以上茨城縣）
常陸　十二郡　東茨城、西茨城、那珂、久慈、多賀、眞壁、鹿島、行方、新治、筑波、稻敷（茨城縣）

一三 東山道の國郡を學げよ

近江 十二郡 滋賀、栗太、野洲、甲賀、蒲生、神崎、愛知、犬山、坂田、東淺井、伊香、高島。(滋賀縣)

美濃 十五郡 稻葉、羽島、海津、養老、不破、安八、揖斐、本巢、山縣、武儀、郡上、加茂、可兒、土岐、惠那、(岐阜縣)

飛彈 三郡 大野、益田、吉城(岐阜縣)

信濃 十六郡 南佐久、北佐久、小縣、諏訪、上伊那、西筑摩、東筑摩、下伊那、南安曇、北安曇、更科、埴科、上高井、下高井、上水內、下水內、(長野縣)

上野 十一郡 勢多、群馬、多野、北甘樂、碓氷、吾妻、利根、山田、新田、邑樂、佐渡、(群馬縣)

下野 八郡 河內、上都賀、芳賀、下都賀、鹽谷、那須、安蘇、足利(栃木縣)

磐城 十郡 東白川、西白川、石川、田村、雙葉、石城、相馬、(以上福島縣)刈田、伊具、亘理、(以上宮城縣)

岩代 十郡 信夫、伊達、安積、安達、岩瀨、南會津、北會津、耶摩、河沼、大沼、(福島縣)

陸前 十四郡 柴田、名取、宮城、黑川、加美、志田、玉造、遠田、栗原、登米、桃生、牡鹿、本吉、(以上宮城縣)、氣仙(巖手縣)

陸中 十二郡 巖手、紫波、稗貫、利賀、膽澤、江刺、西磐井、東磐井、上閉伊、下閉伊、九戶(以上巖手縣)鹿角(秋田縣)

陸奥 九郡 東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、北津輕、上北、下北、三戶(青森縣)二戶(巖手縣)

羽前 九郡 南秋田、北秋田、山本、河邊、由利、仙北、平鹿、雄勝(以上秋田縣)飽海(山形縣)

一四 北陸道の國郡を學げよ

若狹 三郡 三方、遠敷、大飯(福井縣)

越前 八郡 足羽、吉田、坂井、大野、南條、今立、丹生、敦賀、(福井縣)

加賀 四郡 江沼、能美、石川、河北(石川縣)

能登 四郡 羽咋、鹿島、鳳至、球洲、(石川縣)

越中 八郡 上新川、中新川、婦負、下新川、射水、氷見、東砺波、西砺波(富山縣)

越後 十五郡 北蒲原、中蒲原、西蒲原、南蒲原、東蒲原、三島、古志、北魚沼、中魚沼、南魚沼、刈羽、東頸城、中頸城、西頸城、岩船(新潟縣)

佐渡 一郡 佐渡(新潟縣)

一五　山陰道の國郡を擧げよ

丹波　七郡　南桑田、北桑田、船井、天田、何鹿、（以上京都府）氷上、多紀、（以上兵庫縣）

丹後　五郡　加佐、與謝、中、竹野、熊野、（京都府）

但馬　五郡　城崎、出石、養父、朝來、美方（兵庫縣）

因幡　三郡　岩美、八頭、氣高、（鳥取縣）

伯耆　三郡　西伯、東伯、日野（鳥取縣）

出雲　六郡　八束、能義、仁多、大原、鍛川、飯石（島根縣）

石見　六郡　邇摩、安濃、邑智、那賀、美濃、鹿足（島根縣）

隱岐　四郡　固吉、隱地、海士、知夫（島根縣）

一六　山陽道の國郡を擧げよ

播磨　十三郡　明石、美嚫、加東、多加、加西、加古、印南、飾磨、神崎、揖保、赤穗、佐用、宍粟（兵庫縣）

美作　十二郡　眞島、大庭、西北條、西西條、東南條、東北條、勝北、吉野、英田、勝南、久米北條、久米南條、（岡山縣）

備前　八郡　御野、津高、赤坂、磐梨、和氣、邑久、上道、兒島（岡山縣）

備中　十一郡　都宇、窪屋、淺口、小田、後月、下道、賀陽、上房、川上、哲多、阿賀、（岡山縣）

備後　十四郡　御調、世羅、深津、沼隈、安那、蘆田、品治、神石、甲奴、三次、三谿、奴可、三上、惠蘇、（廣島縣）

安藝　八郡　安藝、佐伯、沼田、高宮、山縣、高田、加茂、豐田（廣島縣）

周防　六郡　大島、玖珂、熊毛、都濃、佐波、吉敷（山口縣）

長門　五郡　原狹、豐浦、美禰、大津、阿武（山口縣）

一七　南海道の國郡を擧げよ

紀伊　九郡　海草、羽賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁（以上和歌山縣）南牟婁、北牟婁（以上三重縣）

淡路　二郡　津名、三原（兵庫縣）

阿波　十郡　名東、勝浦、那賀、海部、名西、板野、阿波、麻植、美馬、三好（德島縣）

讃岐　十二郡　大內、寒川、三木、小豆、山田、香川、阿野、鵜足、那珂、多度、三野、豐田、（香川縣）

伊豫　十二郡　溫泉、越智、新居、周桑、宇摩、伊豫、上浮穴、喜多、西宇和、東宇

和、南宇和、北宇和、(十二郡)

土佐 七郡 土佐、幡多、安芸、香美、長岡、吾川、高岡、(高知縣)

一八 西海道の國郡を擧げよ

筑前 九郡 糟谷、宗像、鞍手、嘉穗、朝倉、筑紫、糸島、早良、遠賀(福岡縣)

筑後 六郡 三井、三潴、八女、浮羽、山門、三地(福岡縣)

豐前 六郡 企救、田川、京都、築上(以上福岡縣)下毛、宇佐、(以上大分縣)

豐後 十郡 西國東、東國東、速見、大分、北海部、南海部、大野、直入、玖珠、日田、(大分縣)

肥前 十四郡 東彼杵、西彼杵、北高來、南高來、南松浦、北松浦(以上長崎縣)佐賀、神崎、三養基(小城、東松浦、西松浦、杵島、藤津、(以上佐賀縣)

肥後 十二郡 飽託、宇土、玉名、鹿本、菊池、阿蘇、上益城、下益城、八代、葦地、球摩、天草(熊本縣)

日向 八郡 宮崎、南那珂、兒湯、東臼杵、西臼杵、北諸縣、西諸縣、東諸縣(宮崎縣)

大隅 五郡 姶良、肝屬、熊毛、大島、囎唹(鹿兒島縣)

薩摩 七郡 鹿兒島、揖宿、川邊、日置、薩摩、出水、伊佐(鹿兒島縣)

壹岐 一郡 壹岐、(長崎縣)

對馬 二郡 上縣、下縣(長崎縣)

琉球 郡別なし(沖繩縣)

一九 北海道の國郡を擧げよ

渡島 六郡 龜田、上磯、茅部、松前、檜山、爾志、

後志 十七郡 久遠、奥尻、太櫓、瀛棚、壽都、島牧、歌棄、磯谷、岩內、古宇、小樽、高島、忍路、餘市、古平、美國、積丹、

石狩 九郡 札幌、石狩、厚田、濱益、空知、夕張、樺太、雨龍、上川、

天鹽 六郡 增毛、留萌、苫前、天鹽、中川、上川

北見 八郡 宗谷、枝幸、利尻、禮文、網走、斜里、常呂、紋別、

膽振 八郡 山越、室蘭有珠、蛇田、幌別、勇拂、白老、千歲、

日高 七郡 浦河、沙流、新冠、靜內、三石、樣似、幌泉、

十勝 七郡 廣尾、當緣、十勝、中川、河西、河東、上川、

釧路 六郡 釧路、白糖、阿寒、足寄、上川、厚岸、

根室 五郡 根室、花咲、野村、標津、月梨、

千島 九郡 國後、擇捉、紗那、振別、蘂取、色舟、得撫、新知、占守、

三　山岳

二〇　幾内の主なる山岳を擧げよ

答、紀伊大和の國境に國見山、高見山、大臺原山等あり、河内大和の境には金剛、二上、信貴、生駒等の諸山相連り、和泉には葛城、飯盛の二山、大和の中央に金峯山、大峯、釋迦岳。地藏岳、大日岳等あり、此中金峯山は櫻花を以て名ある彼の吉野山の事なり、山城には愛宕山、鞍馬山、大悲山比叡山等あり、愛宕の南北に嵐山、高雄山あり、山は小なれども紅葉(高雄)櫻(嵐山)の名勝たり、笠置山は大和に在りて歴史上著名なり、攝津には摩耶、六甲、鐵拐、箕面、妙見、劍尾、等の諸峯あり。

二一　東海道の主なる山岳を擧げよ

答、富士帶及赤石山系全道を東西に横斷す、著名なる高山は常陸の東部平野に加波山、筑波山、聳ゆ武藏の秩父山中に武甲山、三峯山、雲取山の諸峯あり、西信濃、上野の境に三國山あり、是等武藏の諸山は關東山脈と稱し、餘脈甲相兩州との境を走り笹子峠小佛峠を起す、笹子峠より甲斐の大菩薩峯、初鹿野山、天目山等相連る、其東には金峯山、國師岳、北には八ヶ岳、西に駒ヶ岳、地藏ヶ岳、七面山、身延山あり、相模は北に丹波山、西に足柄、箱根等の諸山あり、雨降山は中央に峙つ、而して富士山は甲斐駿河の堺

に聳立し、南に愛鷹山西に毛無山あり、西遠江の境に於て最高きを大無間山とす、信州の赤石山系に屬す、遠江には赤石山系南走し北に黑法師山、中央に秋葉山、大日山峙つ、三河には東部に鳳來寺山、其西に本宮山あり、西尾張の境に猿投山聳ゆ、是等三河の諸山は木曾山脈の餘派也尾張の北部には小牧山あり高からざれども秀吉家康の對陣せしを以て名あり、伊勢には近江の國境に釋迦岳、鎌岳、藤原ヶ岳、鈴鹿山あり、伊賀の境に尼ヶ岳、大和の境に高見山、國見山、志摩の境に朝熊山あり、伊賀の東境には靈山寺山立てり。

二三　東山道の主なる山岳を記せよ

答、本道は地勢高嵩にして高山峻岳も極めて多く、殆んど各道中の首位を占む、千島山系北方より馳せて飛驒美濃に入り、九州中國を經て來れる支那山系と合して諸所に大高原を爲す、今五千尺以上の高峯を擧ぐれば、陸奥に八甲田山、赤倉岳、岩木山あり、岩木山は一に津輕富士と稱す、陸中西境には岩鷲山、(一に南部富士と稱す)烏帽子山、駒形山等相連る、東北上山脈に屬して早池峰あり、羽後に大平山、森吉山、鳥海山、葉山、月山、朝日岳、等あり、陸前の境に荒神山、龍騎岳、神仙岳、白髮山、藏王岳あり磐城の西南隅に甲子山旭嶽あり、岩代の北境に吾妻山あり其東に一切經山あり南には二本松富士の稱ある安達太郎山あり、其西に磐梯山あり、南境に駒ヶ岳、燧岳、赤安山、帝釋山

あり、西北隅飯豐山あり、下野には那須岳、赤薙山、男体山あり、(日光は此男体山の麓に在り)上野に赤城山あり、榛名、妙義の二山(此二山五千尺以下)と國の中央に鼎立す、又北境には守備、文珠、烏帽子、朝日、三國等の諸山あり、信濃には西方の御嶽最高く四時雪を頂く、駒ヶ岳之と對し、木曾の峽谷は此間に在り、其他乘鞍岳、燒岳、鎗ヶ岳、霞ヶ岳、蝶ヶ岳、常念ヶ岳、大天井岳、有明山、鎧ヶ岳、大蓮華山、赤石山、黑姫山、高妻山、乙妻山あり上野國境の淺間山は常に噴烟す、美濃には信濃との境の惡那山の外大日岳伊吹山あり、伊吹は五千尺に滿たざれども著明の山岳たり。

二三　北陸道の主なる山岳を擧げよ

答、本道は東山道との境界山脈に富めるを以て峻嶺少からず、中に就て五千尺以上の者を列擧すれば、越後には朝日岳、地藏岳、飯盛山、苗場山、妙高山、燒山、入岩嶽、淺草山あり、越中には立山あり常に噴烟す又上野との界に大蓮華山あり、此四山は加賀の白山と共に本道中屈指の高岳たり、大蓮華山は南の鎧ヶ岳、北、雪倉岳と蓮華三峰と稱す、所謂親不知の險は此脈の北走して日本海に盡くる處とす、立山の南に藥師岳、鷲羽山あり、南方飛驒の境に上ノ岳あり、加賀の東南隅には越前、飛驒に跨りて有名なる白山巒立す、別山、大汝、御前の三峰ありて御前峰最高し

二四　山陰道の主なる山岳を擧げよ

答、本道の山脈は中國の山脈に屬するものにして他道に比して高山少く、最高のものすらも猶六千尺に滿ず、五千尺以上のもの僅かに三岳に過ぎず、即ち伯耆の中央なる大山(中國第一の高峰と稱せらるゝもの)及同國南境なる兜ヶ山、因幡の南境なる那岐ノ山是なり、猶上記のものゝ外四千尺以上の高峰を擧ぐれば、但馬、因幡に跨りて扇山、氷ノ山あり、伯耆の南境に蛭山、道後山あり、同國中央なる船上山は四千尺に滿たざる小岳なれども歴史上著名なり、右の外出雲の南境に阿闍馬山あり、

二五　山陽道の主なる山岳を擧げよ

答、本道も亦中國山系に屬して山の高峻なるもの稀に最高のもの六千尺に足らず、今四千尺以上のものを擧ぐれば、播磨の池田ノ山、美作北境の那岐山、蛭山、備中の北境なる三國山、備後の北部出雲に接する所に峙たる烏帽子山ノ毛無山、安芸の西方なる苅尾山、冠山、周防の北部なる寂地山等とす、此中五千尺を超ゆるものは獨り那岐山あるのみ、

二六　南海道の主なる山岳を擧げよ

答、本道の骨骼は四國山脈にして、四國島中を東西に横斷し諸川を南北に分流せしめ、海を踰ねて紀伊に入り諸山岳を起す、されど高山峻峰は少く五千尺を超ゆるものは紀伊

の中央なる大塔の峰、伊豫土佐國境の石槌山、阿波中央の劍山に過ぎず、右の外に五千尺以下にて著名の山峰を擧ぐれば、紀伊には大塔の峯の東南に那智山あり、有名なる那智瀧此山中に懸れり、國の西北に紀伊富士の稱ある龍門山あり、其東方大和の境を接近して高野山あり、古より靈境と稱せらる、伊豫の南西隅に鬼城山あり、阿波讃岐の境に雲邊寺山あり、阿波の中央に上記劍山に隣りて燒山寺山、旭丸山あり、讃岐西部なる象頭山は山腹に琴平神社あるを以て著名なり、

二七　西海道の主なる山岳を擧げよ

答、本道中九州の主山脈は九州山脈と露島火山脈とにして後者に屬する火山實高峯殊に多し、今高低に拘らず著名なる山岳を擧ぐれば、筑前には中央の寶滿山（御笠山又羅門山とも）肥前との境内脊振山あり、筑後には東方に御前嶽、中央に高良山、豐前の南西に英彦山福知山あり、豐後に國東半島の中央に双子山、文殊山あり、南西には鶴見岳、（有名の活火山）由布嶽（九州第一の高峯にして豐後富士と稱す）あり、西方に黑岳、犬船、九重、扇鼻の諸山、南西隅に祖母ヶ嶽あり、肥前には北に天山、西に領巾振山、島原半島に溫泉ヶ岳（有名なる熄火山）あり、肥後には北東に阿蘇山（有名なる活火山）涌蓋山、北西に鞍岳東方に江代、市房、白髭の諸山あり、日向には中央に法華岳、南に小松山、鈴岳、北に傾山、西に石堂山あり著名なる、露島山は日向大隅の境に聳ゆ、睡眠火

山なり、大隅の中央に高隈垂水の兩山あり、屋久島に宮の浦岳あり、薩摩には北に紫尾山中央に金峯山、に櫻島に（噴火山）あり、其他對馬に三ヶ嶽、有明山、壹岐に魚釣山大島に湯灘岳等あり、上記の中五千尺以上のものは、鶴見、由布、黑岳、大船、九重、祖母ヶ岳、阿蘇、涌蓋山、江代、傾、石堂、霧島、宮浦岳等の數峯たり。

二八　北海道の主なる山岳を擧げよ

答、本道は東西、南北の兩山脈十字狀に交叉し、其中峻嶺亦無きにあらず、今四千尺以上のものを擧ぐれば、後志の後方羊蹄山（蝦夷富士の稱あるもの）荊揚岳、積丹山、石狩の石狩岳、十勝の十勝岳、天鹽の天鹽岳、暑寒別山、羽幌山、幌尻山、辨花片山、渡島の遊樂部山日高の神威山、樂古山、釧路の雄阿寒、雌阿寒の二岳、根室の西別岳、斜里岳、千島の中アライト島のアライト岳、國後の茶ヶ岳幌莚島のフス峯等なり。

二九　臺灣の主なる山岳を擧げよ

答、本島には中央より稍東に偏し南北に亘る大山脈あり、此山脈本島の南部に於て一萬尺以上の峯巒を起す、中に就きてモリソン山を最高とす一萬二千八百五十尺は島の中央に峙つ、之に次ぐは東部蕃灣の北方なるシルバー山にて一萬一千三百尺、それより西南に横はるはドード山脈北に延くばタンゴー山脈なり。此北方の山脈中に紗帽山あり、硫氣

を噴出す、山麓温泉多し、基隆港の南なる三貂山は石炭を産し、同港背後なる大鷄籠山は往來船舶の目標とする高山とす、

四　河　流

三〇　畿内の主なる河流を記せよ

答、畿内の河流は大和南部に於ける少數の者を除けば概れ東方より流れて大阪灣に注げり、其最大なるは攝津の淀川にして加茂、桂、宇治等諸川の集合して後の名稱とす、河内攝津の界を流れ大阪府城の北を繞り下流は分岐して神崎、中津、安治、木津等の諸川となり海に入る、流域僅に十五里餘、なれども幅廣くして流緩に舟運の便多し、宇治川は琵琶湖より出で山城を經流域五里餘にして淀川に合す、加茂川は山城の北境に發し南流京都を過ぎ桂川に合し、桂川は其上流を保津川と云ひ、丹波に發し山城に入り加茂川を合せ、南流して宇治川に會し淀川となる、此外大和の大和川、吉野川、十津川、攝津の池田川、武庫川あり、大和川は笠置山附近より出て河内を貫き、攝、和の間より海に入り、吉野川は大峯原山に發し西紀伊に入り紀ノ川となり、十津川は大峯山に發し南流紀伊に入り、熊野川となる、池田武庫の二川は攝津に發し南流大阪灣に入る、

三一　東海道の主なる河流を記せよ

答、利根川、木曾川、天龍川、大井川、那賀川、富士川、隅田川、是なり、其主位なるものを利根川(坂東太郎)とし流程七十一里、上野の國文珠山に發し、州内諸流を合せ南流し下總にて兩川に分れ、本流漸く東に向ひ、銚子港より海に入り、支流は武藏に入りて東京灣に注ぐ江戸川是なり、木曾川は信濃筑摩郡に發し、濃美の堺を流れ下流數派となり伊勢海に入る、流域五十五里天龍川は信濃の諏訪湖に發し遠江の中央を貫き下流大天龍小天龍に分れ掛塚港に注ぐ流域六十里、大井川は甲信の境なる白根山より發し、駿遠兩國の境を爲して海に入る流域四十六里、那賀川は下野の那須岳に發し東南に流れ常陸の那賀港に注ぎ、流域四十二里、富士川は甲斐に發し駿河田子の浦に入る流程二十九里本邦三急流の一たり、隅田川は上流を荒川と云ひ、武藏に發し、關東平野を過ぎ東京灣に入る、此他の諸川流は、常陸の久慈川、相摸の馬入川、三河の矢作川、武藏の多摩川、三河の豐川、伊勢の宮川等

三二　東山道の主なる川流を記せよ

答、本道地勢深奥巨川最多し、其主なるものは北上、阿武隈、御物、最上、能代、岩木、馬淵等の諸川にして此外本道より發源して他道に入れる木曾、天龍、信濃、阿賀、神通、射水、那珂、利根の諸流あり、右の中北上川は陸中の北境に發し諸水を集め南流して隣前に入り仙臺灣に注ぐ、流程七十六里、本道第一の長流たり、阿武隈川は岩代、磐城、

下野の境に發し北流海に入る流程七十里、最上川は羽前の南境吾妻山に發し、北流して更に西流し日本海に入る流程六十二里、御物川は羽前羽後の境に發し羽後の中央を西北に流れ日本海に入る能代川は陸前の南境中根石山に發し西向し羽後能代に至り日本海に入る流程二十五里、岩木川は陸奥南部に發し北流すること二十里にして十三潟に入る、馬淵は全國東南部に在り流程二十五里、此他近江の横田川飛彈の白川、益田川、宮川、高源川、信濃の三峰川、犀川、高瀬川、上野の片呂川、吾妻川、下野の鬼怒川、岩代の只見川、鶴沼川、磐城の白石川、鮫川、陸前の鳴瀬川、江合川、羽後の子吉川、玉川、陸中の和加川等あり。

三三 北陸道の主なる河流を記せよ

答、信濃川、阿賀川、神通川、射水川、常願寺川、黒部川、手取川、日野川を北陸道八大河と稱す、此中越後の信濃川は信野の千隈川の下流にして平野を北流すること四十里魚沼川を併せ新潟に至り　に入る、流程百里、本邦第二の長流、全國阿賀川は岩代日橋川の下流にして（源は猪苗代湖に發す西北流し松ヶ崎港に入る、流程四十五里、越中の神通川は飛彈の宮川の下流にして中央を北流する三十里岩瀬港に注ぐ流程五十里、射水川は飛彈白川の末流にして伏木港に入る、水源より五十八里、常願寺川は鷲羽岳に發し、流程十八里にして水橋に至り海に入り、黒部川は越中の東南に發し北流海に入る流程二

十里、加賀の手取川は白山に發し北流海に入る、流程二十里、日野川は越前の南境に發し、三國港に至り海に注ぐ、此他越後の荒川、姫川、加賀の大聖寺川、越中の足羽川等あり。

三四 山陰道の主なる河流を記せよ

答、本道は地域狹少にして河流も從つて短かし、最大なるは石見の江川（一名石見川）にして備後より來り日本海に注ぐ長さ五十餘里、丹後の由良川は丹波の和知川の下流にして由良港に入る、長さ三十里、此他但馬の朝來川、因幡の千代川、加露川伯耆の日野川、出雲の大川、（又は鰐川）神門川石見の高津川等あり、

三五 山陽道の主な河流を記せよ

答、本道亦長流に乏しく、長門の阿武川を除くの外は諸流皆瀬戸内海に注ぐ、備前の東大川（津山川）西大川（旭川）は共に美作より來り南流兒島灣に入る、流程は各三十餘里、備中の河邊川は上流を高梁川と云ふ、長さ三十里、周防の岩國川長さ二十四里、下流に錦帶橋あり、備後に三次川（三十一里）椹田川（二十里餘）あり安藝に吉田川（二十五里）太田川（二十三里）あり、吉田川は石見江川の上流たり、此外播磨の加古川、市川、揖保川、千種川、備後の蘆田川、安藝の西城川、太野川、周防の佐波川、長門の阿武川、厚木川

等あり、

三六　南海道の主なる河流を記せよ

答、本道著大の河流は紀伊の紀伊ノ川、熊野川、日高川、阿波の吉野川、那賀川、土佐の渡川（一名四萬十川）仁淀川、物部川等とす、熊野川（一名成川）大和の十津川の下流にして南東流して熊野浦に入る長さ三十七里、紀伊川は大和吉野川の下流にして和歌山の北を過ぎ海に入り（流程三十二里）日高川は大和の山中に發し曲流鹽屋浦より海に入る、四國三郎の稱ある吉野川は四國中部の瓶森山に發し土佐より阿波に入り北境に沿ひて海に入る流程三十餘里那賀川は阿波土佐の境に發し阿波の中島浦に入り（二十八里）渡川は伊豫の西に發し土佐の下田浦に入り（三十七里）仁淀川（十九里）は伊豫に發し物部川（二十五里）は阿波に發し共に土佐灣に入る

三七　西海道の主なる河流を問ふ

答、本道の著大なる河流は筑後肥前の境なる筑後川、薩摩の川内川、豐後の大野川日向の五箇瀬川一ノ瀬川、美々津川、大淀川とす、筑後川は筑紫二郎と云ひ流程（三十五里）豐後肥後に發し筑紫海に入る川内川は日向大隅の山内に發し、薩摩に入り京伯より海に注ぐ、長さ四十六里、大野川は豐後の西境に發し、府別灣に注ぐ長さ三十四里、五ヶ瀬三十四

里）美々津（三十八里）一ノ瀬（三十里）大淀（二十五里）の諸川は孰れも日向の西に發し東流日向灘に入る、此の外筑前の遠賀川、筑後の矢部川、肥後の菊地川、緣川、球磨川等あり、又豐前の山國川は大流ならざれども耶馬溪の奇勝あるを以て名あり。

三八　北海道の主なる河流を記せよ

答、本道の水流は多くは中央の地より發源して四面に其方向を取る、北海道五大河の稱あるものは、石狩川、天鹽川、大津川、久壽里川、後志川にして、中にも石狩川は本邦第一の長流と稱せられ流程百十一餘あり、石狩岳十勝岳の間は發し北流し無數の川流を併せ石狩港より日本海に入る、天鹽川の流程七十里、亦石狩十勝兩岳間より發し北西に流れ日本海に入る、大津川は十勝岳に發し南東に流れて太平洋に入る、長さ四十四里、久壽里川は釧路の久壽里沼に發し南流太平洋に入り（長さ三十七里）後志川は膽振の北境に發し西流壽都灣に入る（長さ十八里）此外膽振に遊樂別川後志に利別川、日高の新冠川、根室の西別川、北見の窟別川等外諸川流あり。

三九　臺灣の主なる河流を記せよ

答、第二章、日本自然地理中「臺灣の水理を問ふ」の條下を見よ

五 海岸と港

四〇 幾内の海岸を問ふ

答、畿内は其西方和泉攝津の二國の海に瀕す、其海は即ち大阪灣にして灣口に淡路島あり、灣内水深からず海岸線出入少けれど、二三の良港なきにあらず、即ち攝津の神戸港、大阪港、和泉の堺港是なり、大阪以北の海岸は風景に富み須磨は殊に勝地たり。

四一 東海道の海洋港灣を問ふ

答、本道は伊賀、甲斐兩國を除けば他は悉く海に瀕し、其海岸は屈曲多し、灣は東京灣、駿河灣、伊勢の海を前とし其他衣浦、濱名灣あり東京灣は武藏と上總との間に灣入する内海にて觀音崎富津崎其口を扼し、駿河灣は伊豆と駿河の間に灣入し御前崎、石廊崎之を扼し、伊勢の海は伊勢と尾張との間に在りて、志摩と伊良湖崎とを扼す、衣浦は伊勢の海の東に在り、又濱名灣は遠江の西北隅に在りて往時は湖水なりしものなり、下總の犬吠崎以北常陸の海上を鹿島灘と云ふ、相摸の三崎と伊豆半島と相對せる間を相摸灘と云ひ、志摩の大王崎と伊豆の石廊崎と相對せる間の要海を遠州灘とす、著名なる港は伊勢の四日市、桑名、志摩の鳥羽、的矢、濱島、尾張の師崎、龜崎、半田、武豐、三河の大濱

平阪、駿河の清水、伊豆の下田、田子、相摸の浦賀、横須賀、武藏の横濱、安房の館山、上總の木更津、下總の銚子、常陸の那珂、平潟等の諸港なり。

四二 東山道の海岸と港灣を問ふ

答、本道中海に瀕せるは磐城、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後の六ヶ國のみ、大灣無しと雖東部大平洋に面せる處は小なる出入は極めて多きも西部日本海に面せる方は殆んど之無し、灣は陸奥の海、仙臺灣あり、前者は陸奥の北津輕郡北郡半島之を擁す、灣の中央に夏泊崎斗出し、野邊地、青森の二灣に分る、後者は大平洋岸陸前の南に在り、牡鹿半島東北東に斗出す、灣内松島の勝あり、港の著名なるものは、磐城に小名濱陸前に石巻、萩濱、陸中に宮古、釜石、陸奥に青森、野邊地、羽後に酒田、能代の諸港なり、

四三 北陸道の海岸と港灣を問ふ

答、本道は悉く瀕海國なれども海岸線の屈曲は多からず、唯能登半島を大なる凸出とし、又若狹に數ヶ所の灣あるのみ、本道の沿岸には概して斷崖、危礁多し、能登半島と佐渡島と相對する間に波濤激しく本邦第一の難所と稱せらる、能登と越中越後と相向ひて大灣を形成するものを富山灣とす、若狹に小濱灣越前に敦賀灣あり、佐渡島は海灣左右より迫る、南と西に出づる兩岬角間の灣を眞野の入江と云ふ、港津の主なるものは、若狹

の小濱、越前の敦賀、坂井、能登の七尾、越前の新潟、直江津、佐渡の小木等の諸港とす。

四四　山陰道の海洋と港灣を問ふ

答、本道は美作を除くの外悉く瀬戸内海に瀕し海岸線の屈曲も極めて多し、灣は兒島灣、廣島灣あり、前者は備前の兒島半島之を抱き、後者は安芸の南隅に在りて厳島、江田島相對して口を扼す、播磨の海を播磨灘と云ひ、備中備後の海を水島灘と云ひ、周防の海より豐前豐後の海に至る間を周防灘と云ふ、本道の沿岸良港多し、中に就て長門の赤間關（又は下へ關）安芸の呉、宇品、備後尾ノ道、鞆津を最とし、其他備中の笠岡、王島、安芸の御手洗、周防の三田尻、室積、中ノ關、室津新、柳井、等亦著にる。

四五　南海道の海洋港灣を問ふ

答、本道の沿岸は概して屈曲多し、紀伊の東南海を熊野浦と云ひ、東は伊勢海、西は鳴門海峡に接す、波濤甚荒し、四國の北方は伊豫の梶取崎と讃岐の箱崎と相對する間に一大海灣を成す樣灘、備後灘と呼ふ、南方は土佐の蹉跎、室戸の兩岬遙かに相對して半圓狀長き一百里の大灣を抱く、土佐灣是なり、港津の著名なるものは、紀伊の田邊、和歌山、大島、淡路の由良、福良、阿波の撫養、讃岐の丸亀、多度津、高松、志度浦、伊豫の宇和島、三津、今治、八幡濱、土佐の浦戸、須崎等とす。

四六　西海道の海洋港灣を問ふ

答、本道は四面海を以て繞らし、沿岸の出入極めて多し、灣の著名なるものは九州の北西端肥前に伊萬里灣、大村灣あり、肥前、肥後、筑後三國の間に深く入れるは筑紫海（又有明海）にして肥前の島原半島と肥後の天草島と對して其口を扼す、九州の南部薩摩、大隅兩國の間に灣入するは鹿兒島灣にして薩の開聞岬、大隅の左多岬と相對して口を扼す、櫻島此灣内に在り、大隅の火崎日向の都井崎の間に灣入せるは志布志灣と呼ぶ、筑前の海を玄海灘と云ひ、筑紫海の外面を天草灘と云ひ、日向の海を日向灘と云ひ、豐前、豐後の海を周防灘とす、港の著名なるものは、筑前の博多、肥前の長崎を最とし、豐前の門司、小倉、筑後の大川、若津、肥前の佐世保、島原、名護屋、唐津、肥後の三角、薩摩の鹿兒島、山川、對馬の厳原、琉球の那覇等たり、

四七　北海道の海岸と港灣を問ふ

答、本道の海岸線は小屈曲は甚だ多からざれども、本島の四隅大岬角を爲し其間自から大灣曲を爲す、渡島の矢越岬、汐草崎の間を渡島灣と云ひ、同國惠山岬と膽振の絵鞆岬との間に深く灣入するを火山灣と名く、後志の白糸岬、神威岬の間は壽都灣と云ふ、又本島東部には北見知床岬、根室の納沙布岬相對して其間に根室灣と云ふ、此外釧路には

厚岸灣あり、港の著名なるものは、渡島の函館、江差、後志の小樽、膽振の室蘭石狩の石狩、釧路の厚岸根室の根室等とす。

四八 臺灣の海洋港灣を問ふ

答、本道の海岸線は東方は斷崖多く屈凹稀に、西方は出入あるも水淺く良港に乏し、北部の鼻頭岬と西部の富基岬との間は屈凹殊に多く波濤荒くして航行危險なり、港の主なるものは基隆、淡水、竹塹、鹿子、安平、風港、琅嬌灣、社寮、蘇澳等なり

六 島嶼

四九 東海道の屬島を記せよ

答、本道屬島の主なるものは伊豆の七島と小笠原群島とす、前者は伊豆半島の南東四十餘里の海上に在り大島、利島、新島、神津島、三宅島、三倉島、八丈島とす、大島には火山あり、三原山といふ八丈島は八丈縞の產地たり、小笠原は伊豆の南二百餘里に在り十七箇の島より成り、大なるものを父島、母島と云ふ、一般に耕作漁獵の利あり、其南六七十里に硫黃島と稱する火山質島嶼あり、以上の諸島東京府の管轄に屬す、

五〇 東山道の島嶼を問ふ

答、本道は海に面せるは東北の諸國なるを以て島嶼に乏しく唯陸前に宮戸島、金華山、江ノ島、寒風澤島、田代島、松島群島あるのみ孰れも小にして宮戸島の周圍四里半を其中の最大なるものとす

五一 北陸道の島嶼を記せよ

答、本道の一州たる佐渡島は越後の出雲崎の地十一里の海上に在り、周圍五十三里餘、形分銅の如し、鑛山を以て殊に有名なり、南北には山脈走るも中央は低地なり、此他には能登七尾灣內なる能登島、越後北部の海上なる粟生島、及能登外洋上の七ツ島等あり。

五二 山陰道の島嶼を記せよ

答、本道の一州たる隱岐島は出雲を距る十數里の外海に在りて四個の大島より成る、其中出雲に近づきたる三島を西島、知夫里島、中島と云ひ、(之を汎稱して島前と呼ぶ)他の一島を大島と云ひ又之を(島後)と云ふ、此中大島最大に周圍七十四里強あり、隱岐島の外には出雲の中海に大根島(周三里弱)あるのみ。

五三 山陽道の島嶼を記せよ

答、本道は本邦沿海中最島嶼多き瀨戸內海に瀕せるを以て、各道中屬島の多き方なり、

今屬島の主なるものを擧ぐれば、最大なるは周防の八代島(周三十一里弱)之に次ぎては安藝の倉橋島(周二十六里弱)能美島(三十三里强)等にて、風光を以て著はるゝは全國廣島(周七里强)とす、此外本道所屬のものにして周三里乃至十二里の島嶼を擧ぐれば播磨の四ノ島、家島、備前の家久井島、長島、備中の北木島、神島、備後の院島、向島、田島、安藝の大崎上島、大崎下島、上蒲刈島、下蒲刈島、生口島、佐木島、似島、周防の平群島、長島、笠戸島、大津島、長門の彦島、青海島等とす。

五四　南海道の島嶼を記せよ

答、本道の一州たる淡路島は周圍三十八里强、一小屬島あり沼島と云ふ、淡路を除きて本道島嶼の最大なるものは讃岐の小豆島(周三十一里)にして之に一小屬島豐島あり、小豆島に次ぐは伊豫の大三島(周十五里)、大島(十里)とす、以下周三里以上のものを擧ぐれば弓削島、岩城島、興多島、生名島、忽那島、怒和島、鹽飽本島、廣島等とす。

五五　西海道の島嶼を記せよ

答、肥前の北海上なる壹岐(周三十七里强)對馬(二百六里)は各本道中の一州にして又琉球の五十五島(周合計三百十五里)亦本道の所屬たり、壹岐は孤島にして對馬は上島下島の兩島より成る又琉球諸島は、沖繩、群島、先島群島の二部に分れ沖繩島最大にして

宮古、石垣、入表等之に次ぐ。以上の外本道の主なる島は肥前に平戸島(周四十四里)あり、全國の西方海上に「五島」と稱して中通(周六十二里)福江、(周六十里)宇久、奈留、久賀の五ケ島あり、肥後の西南に天草島あり上下二島に分れ上島は周三十七里、下島は七十餘里、其南に長島(周二十二里)あり、薩摩の西方に甑島あり、上(周十七里)中(周四里)下(周二十里)の三島より成る、鹿兒島灣内には大隅の櫻島(周十里)あり、薩摩の南に硫黄島あり、大隅の南端に種ケ島(周三十八里)屋久島(周十六里)此外薩摩南端を遠く離れて大島(周六十里)あり、小島は猶此外にも少からず、

五六　北海道の島嶼を記せよ

答、本道の一州を形成せる千島列島は大小三十二個の島嶼にして、北海道本島の根室灣峽を距てゝ北東に走り羅列せり、其主なるものは國後島(周七十一里)擇捉島(周百五十里)得撫島(六十里餘)新知島(三十三里)捨小舟島(十六里)恩爾古舟島(二十六里)幌筵(八十里弱)占守島(二十二里)とす、千島列島に屬せざるものは、日本海に在りて北見に禮文島、利尻島、後志、渡島の海上には奥尻島、大島等あり(周四里乃至十二里)

五七　臺灣の島嶼を問ふ

答、本島は嶼島多し、其主なるものを擧ぐれば澎湖諸島、紅頭嶼、火燒嶼を最とし、外

に小琉球、龜嶼の二小島あり、澎湖列島は、澎湖本島、白沙島、漁島の三島を以て最大とし其他に數多の小島あり。

七 岬角

五八 幾内の岬角を問ふ

答、大阪灣を擁せる攝津の和田の岬和泉の觀音崎あるのみ。

五九 東海道の岬角を問ふ

答、志摩の大王崎(虎視崎とも)東南に斗出する三里餘、全國麥崎亦東南に三町餘斗出す、全國烏羽港口に加布良古崎あり、尾張の羽豆崎(師崎とも云)三河の伊良湖崎と相對す、遠江の御前崎は駿河灣口に斗出すること二里、東京灣口に當れる相摸の觀音崎、上總の富津崎と相對す、武藏には横濱港の東南に本牧岬斗出し、其他伊豆の石廊崎、下總の犬吠崎、安房の野島崎等あり。

六〇 東山道の岬角を問ふ

答、陸前海岸の中央に里崎南方に歌津崎あり、陸中に閉伊崎、小根崎、御相崎、尾崎

あり、陸奥の北部には尻矢岬(斗出二里)大間岬、龍飛岬、高野岬、小泊岬等あり、以上皆太平洋岸にして日本海岸即ち羽前羽後には殆んど岬角といふべきものなし。

六一 北陸道の岬角を問ふ

答、若狹の小濱灣を擁する兩岬を錯崎、松ヶ崎とす、此外全國に常津岬、立石岬、赤礁岬あり、越前の西端に越前岬あり、能登の東北端に在る三岬を汎稱して珠州岬と云ふ、佐渡島には彈岬、春日岬、澤崎あり。

六二 山陰道の岬角を問ふ

答、丹後の成生岬、鷲岬相對して海灣を擁す、其間嶼謝海に黑崎あり、出雲の地藏崎は島根半島に在り、此外但馬に余部岬あり、

六三 山陰道の岬角を問ふ

答、本道は沿岸の屈曲多く小崎岬は數多あり、其大なるものは長門に高山岬、川尻崎あり、東西相對して海灣を擁し、備後に阿武兎岬、安藝に石瀨崎、周防に赤石岬等あり。

六四　南海道の岬角を問ふ

答、紀伊には極南に潮岬あり、西部に比井岬あり、阿波の東端に蒲生田岬あり、讃岐の西部に三崎あり斗出二里餘、伊豫の大島と相對して四國島の北灣を形成す、伊豫の西部佐田岬は斗出十有五里、豐後の地藏岬と相對し瀬戸内海の口を扼す、土佐の東南端室戸崎は西南端蹉跎岬と相對して土佐灣を擁す、

六五　西海道の岬角を問ふ

答、本道も海岸の屈曲多きが、爲め岬角少からず、主なるものを擧ぐれば、筑前の西南端志賀鼻、斗出三里、豐前の北端門司崎（又速鞆崎）長門の壇浦と對して海峽を扼す、豐後には地藏崎、保戸崎、鶴見崎あり、日向の南端に都井岬あり大隅の大崎と志布志灣を擁す、又大隅の南端には佐多岬あり、薩摩にに野間崎、羽島崎あり、

六六　北海道の岬角を問ふ

答、本島の最北端を北見の宗谷岬とす日本海、オコツク海の間に斗出す、東には同國知床岬ありて宗谷崎と相對し、其南には根室の納沙布岬ありて根室灣を擁す、其他渡島の惠山岬、白神岬、膽振の繪鞆岬、日高の襟裳岬、後志の白糸岬、神威岬、石狩の雄冬崎、

等其主なるものとす、

六七　臺灣の岬角を問ふ

答、本島北岸なる東方の一角を鼻頭岬と云ひ、西方の一角を富基岬と云ふ、淡水港の西南なる海岸灣曲の中央に白沙岬あり、南端に鳳山崎あり、それより南に連りて香山岬あり、安平の東南打狗港に近くサラセン岬長く斗出す、又本島の東岸上記の鼻頭岬より東南に三貂岬斗出せり。

八　湖沼

六八　幾内の池沼を記せよ

答、幾内には池沼の大なるものなく、僅に山城の巨椋池、（周圍四里十一丁）河内の狹山池（周圍一里）あるのみ、前者は豐太閤が宇治川の水害を防かん爲めに掘れるもの、後者は崇神天皇の御宇に作りしものなり、

六九　東海道の湖沼を記せよ

答、本道は殊に東部に於て湖沼多し、常陸の霞浦（周圍三十六里）は其最大なるもの、其

東に北浦（周圍十五里）あり、猶常陸に牛久沼（周六里餘）涸沼（周七里）大室沼（周三里）等あり、下總には印幡沼（周十二里）を最とし、其他手賀沼、長沼、座生沼等あり、遠江に佐鳴湖、高塚湖あり、相摸の蘆ノ湖（周四里餘）は箱根山頂に在り、駿河に富士沼あり、富士の八湖とは上記二湖と甲斐の山中、川口、本栖、西、精進、四尾連の諸湖を併稱せるものなり、

七〇　東山道の湖沼を記せよ

答、本道湖沼頗多し、其最大なるは近江の琵琶湖（東西五里、南北十五里周七十三里餘、面積八十方里、最深所三百尺）にして實に本邦第一の大湖たり、湖上諸島嶼（沖、奥、中、多氣）散在し風景佳絶、此北に接近して余吾の湖あり、岩代には猪苗代湖（周廿六里）あり、羽後の八郎潟（東西三里南北七里周十五里）は南方一線の水路海水と通ず、陸奥には東海岸に小河原沼（周十三里餘）西海岸に十三潟（周六里餘）あり、陸中との境に十和田湖（周十里）あり、下野の日光山中に中禪寺湖（周五里）あり、信濃の南部に諏訪湖（周四里半）あり、其他上野の板倉湖、尾瀬沼下野の赤間沼、飛彈の大沼、信濃の野尻湖、陸前の品井沼、大沼、長沼、陸奥の鷹賀沼等皆三里以上の周圍あり。

七一　北陸道の湖沼を記せよ

答、若狭の三方湖は三湖互ひに接近して水相交通す、中央なるもの周三里弱他の二者各二里餘、越前の北潟入江（周六里）、加賀の柴山潟（周三里餘）河北潟（周六里餘）能登の邑知潟（四里弱）越後の福島潟（四里弱）等を道中の著大なるものとす、其他加賀の木場潟、今江潟、越中の氷見潟、放生津潟佐渡の加茂湖等あり、

七二　山陰道の湖沼を記せよ

答、出雲の中海（長五里幅六里周十六里）は一方海に通ぜる鹹湖なり、其西に突道湖（東西四里、南北一里半、周十三里）あり、此他因幡に湖山湖（周三里餘）伯耆に東郷湖、等あり、

七三　山陽道の湖沼を記せよ

答、本道湖沼希にして最大なるものを長門の常盤湖（周三里餘）とし、其他備前に大池長門に長澤池あり、

七四　南海道の湖沼を記せよ

答、本道亦概して湖沼最少し、唯讃岐の一國には獨多けれども孰れも小にして周三里以下なり。

七五　西海道の湖沼を記せよ

答、本道亦湖沼甚だ少く唯筑前の北部に鴨生田池、（三里餘）薩摩の南部に池田湖（周五里弱）あるのみ、他は周三里滿たさる小池とす、

七六　北海道の湖沼を記せよ

答、本道は湖沼多し、北見の猿間湖（周二十里）根室の楓蓮湖（十五里）膽振の支笏湖（十五里）釧路の釧路湖（十三里）渡島の大沼湖（八里）等其最たるものとす、

七七　臺灣の湖沼を記せよ

答、本島には記するに足るべき湖沼なし、唯中央部なる水社湖を較大とす。

九　鑛　泉

七八　幾内の主なる鑛泉を記せよ

答、幾内には鑛泉數十ヶ處あり、其中摂津なる有馬の溫泉は最古くより世の知られたるものにして、樓麻質斯、皮膚病及神經諸症に効あり

七九　東海道の主なる鑛泉を記せよ

答、本道鑛泉に富み、殊に伊豆、相摸の兩國最多し、中に就て伊豆の熱海は殊に著名に汎て二十餘ヶ所あり、泉質鹽類、透明にして鹹味あり、溫度二百十度内外、間歇溫泉と稱するものなり、此外伊豆には修善寺（鹽類泉溫度百二三十度）他數ヶ所あり相摸には所謂箱根七湯なるものあり即ち湯本（單純泉、溫度百度）塔の澤（鹽類泉溫度百十度内外）宮ノ下（鹽類泉溫度百二三十度）堂ヶ島（單純線溫度百二三十度）底倉（鹽類泉溫度百五六十度）木賀（鹽類泉溫度百十度内外）蘆の湯（硫黄泉、溫度百度内外）の諸礦泉是なり、以上の外伊勢に朝ノ湯、大ヶ所、御館、參河に夏燒、白岩、遠江に根堅、虫生、甲斐に三藤、島、新湯、要害、岩下、湯島等を初め伊豆、相摸、安房、上總、常陸、武藏等各數ヶ所の鑛泉あれど畧す、

八〇　東山道の主なる鑛泉を記せよ

答、本道は鑛泉の數頗ふる多く殆んど二百に近からんとし各道の最たり、是火山脈あるに因す、道中一國として鑛泉なきはなけれど、岩代上野を以て殊に多しとす、最著名なるは上野の伊香保（鹽類泉、百二十度）草津（酸性泉、百三四十度）下野の鬼原（鹽類泉、百三四十度）信濃の澁湯（酸性泉百五六十度内外）羽前の田川（鹽類泉百十度）を主な

るものとし、其他各國大抵四五ヶ所以上の鑛泉を有す。

八一　北陸道の主なる鑛泉を記せよ

答、本道亦鑛泉に富む、殊に越後は火山脈通過せるを以て最多く二十八ヶ所に及ぶ、著名なるものは加賀の辰口(鹽類泉七十八度)越中の小川(鹽類泉と炭酸泉二百五十度)越後の關屋(泉質未詳六十度)等を最とす、

八二　山陰道の主なる鑛泉を記せよ

答、本道の鑛泉は其數二十ヶ所を超ゆ、石見國殊に多し、著名なるものは但馬の湯(島ノ湯(鹽類泉、百一二十度)因幡の吉岡ノ湯(硫黃泉と鹽類泉一九十度乃至百三十度)石見の有福湯(單純泉百二十度)等にして其他丹後、隱岐の二國を除くの外各國三四所の鑛泉を有せざるなし、

八三　山陽道の主なる鑛泉を記せよ

答、本道の鑛泉十一ヶ所あり、美作の國を最多とす、主なるものは美作の湯川鑛泉(鹽類泉九十五六度)周防の湯田鑛泉(鹽類泉百十度)長門の湯本鑛泉とす、其他各國二三ヶ所の鑛泉あり、

八四　南海道の主なる鑛泉を記せよ

答、本道の鑛泉は多くは冷泉にして溫泉は、伊豫の道後一ヶ所なり、主なるものは上記の道後(硫黃泉百十度)紀伊の湯の峯(硫黃泉百七十度)にして其他各國一二ヶ所宛はあらざるなし。

八五　西海道の主なる鑛泉を記せよ

答、本道は霧島火山脈あるが爲めに鑛泉頗ぶる多く、其數八十ヶ所に垂んとす、肥後は殊に多し、著名なるものを擧ぐれば、筑前の武藏(硫黃泉百十度)豐後の別府(炭酸泉百二三十度)濱脇(仝上)肥前の柄崎、古湯、嬉野(炭酸泉百二十度)肥後の山鹿(硫黃泉九十三度)大隅の硫黃谷(硫黃泉百四十度)福山宮ノ下(硫黃泉七十度)薩摩の湯の浦(炭酸泉)等とす、

八六　北海道の主なる鑛泉を記せよ

答、本道の鑛泉汎へて三十に上れども多くは僻地にあるを以て著れず主なるものは渡島の惡山湯(硫黃泉百二十度)河汲湯(炭酸泉百二十度)後志の雷電湯(硫黃泉百十度)膽振の登別湯(硫黃泉百一二十度)等なり、

七　瀑布

八七　畿内の著名なる瀑布を擧げよ

答、山城の明神大瀑（百五十丈）音羽瀑（高二丈幅一間）大和の中之瀑（高百五十丈幅十五間）和泉の犬鳴山七瀑（一瀑七層を成す、各層短きは一二丈最長は三十六丈）摂津の布引瀑（雄瀑高十五丈雌瀑高七丈）

八八　東海道の著名なる瀑布を擧げよ

答、伊賀の阿彌の瀑（一名赤目瀑と云ひ四十八ヶ所あり最大のもの高十八丈幅一間半）伊勢の布引瀑（高九十丈幅二間）遠江大垂瀑（高二十丈幅四間）駿河の大瀑（高三十三丈幅二間）甲斐の梯瀑（高三十六丈幅四間）伊豆の旭瀑（高三十四丈幅二間）武蔵の逆巻瀑（高五十丈幅五間）等

八九　東山道の著名なる瀑布を擧げよ

答、美濃の養老瀧（高七丈幅二間）飛騨の白水瀑（高二百十六丈幅七間）信濃の米子瀑（高六十丈幅一間半）下野の華厳瀑（七十五丈幅四丈五尺）

九〇　北陸道の著名なる瀑布を擧げよ

答、加賀の千仞瀧（高二百丈）越中稱名瀧（高百丈幅十間）越後の真津瀧（高五十丈幅三間餘）越後の秋小屋瀧（高五十丈二間）布引瀧（高百二十丈幅二間）不動大瀧（高七十五丈幅七間）大瀧（高九十五丈幅三間）等

九一　山陰道の著名なる瀑布を擧げよ

答、丹後の布引瀧（高二百七十丈幅五間半）深山瀧（高六十餘丈幅五間）但馬の猿尾瀧（高三十丈）天瀧（高四十丈）石見の岩瀧寺瀧（四層を成す、最長のもの四十六丈）

九二　山陽道の著名なる瀑布を擧げよ

答、播磨の太田瀧（高三十四丈幅三間）美作の岩井瀧（高百八十丈幅四間）神庭瀧（高三十六丈幅八間）備後の那智瀧（高六十五丈幅一間）常青瀧（三層あり最長のもの二十三丈）安藝の三級瀧（高三十六丈幅三間）二河瀧（二條あり雌瀧は高二十四丈雄瀧十八瀧）

九三　南海道の著名なり瀑布を擧げよ

答、紀伊の那智瀧（高八十四丈幅十八間）伊豫の高瀧（高百三十丈幅五十間）

九四　西海道の著名なる瀑布を擧げよ

答、筑前の千丈瀧（高六十丈幅三間）豐前椎谷瀧（東西二ヶ所に兩瀧あり東椎谷は高十一丈幅四間西椎谷は高十五丈幅五間）豐後の霞動瀧（高四十丈幅五間）沈墮瀧（高六丈幅五十間）肥前の清水瀧（高三十五丈幅七間）蘆山瀧（高三十丈幅三間半）肥後の白水瀧（高四十三丈幅七間）日向の布水瀧（高四十丈幅四間）大隅の犬飼瀧（高十二丈幅十間）等

九五　北海道の著名なる瀑布を擧げよ

答、石狩國の石狩瀧（六條あり最高のもの高百五十丈幅六間）釧路の阿寒の瀧（高七十丈十四間）千島國後島の底保倚瀧（高十八丈幅三十間）等なり。

十一　平原

九六　畿内の平原を問ふ

答、中部には淀川大和川の流域二大平原を形成ず、前者は山城より攝津に開達し後者は大和、河内和泉の三國を貫く、共に地味膏腴にして田畝連れり、

九七　東海道の平原を問ふ

答、本道東部には本邦第一の沃野たる關八州の平原あり、相摸以東の六國より東山道なる上野下野に亘り、方六十里甚中最平垣なるは下總にして四望殆んど山岳を見ず、下總の習志野、小金ヶ原、又東京の所在地たる武藏野等皆此平原中に包含す、西部には尾張の平野あり、美濃に跨り地味肥沃なり木曾川の流域に屬す、此外遠江の牧野原、三方ヶ原駿河の富士の裾野、浮島ヶ原等沿海に小平野多し。

九八　東山道の平原を問ふ

答、本道中部には上野下野の南に關八州平原の一部あり、北東には那須野ヶ原の荒野あり、道の東北部奥羽地方には、會津、米澤、奥の三平原ありて陸前陸中岩代盤城に跨る、西部には美濃に於ける濃尾平原の一部最大に地味亦豐沃、其他は近江なる琵琶湖の沿岸を始め瀬海各州の沿岸に多少の平原有り、

九九　北陸道の平原を問ふ

答、本道平原の主なるものは、越後なる信濃川の流域に屬せるものにして、數十方里に亘り、地味膏腴米穀の産少からず、汎べて本道は大河多く、其流域の地皆豐沃の平原を作らざるなし

一〇〇　南海道の平原を問ふ

答、本道には山岳多くして平野は希なり、唯諸川流域の地狹隘の平地を見れども平原として擧ぐるに足るもの少し、唯讃岐の地は北部一帶平原にして地味亦膏腴なり。

一〇一　西海道の平原を問ふ

答、本道中第一の平原は筑紫平野即ち肥前肥後筑後に亘れる筑紫海沿岸の地にして米穀の主なる產地たり、其他肥、筑、豐六州沿岸の地に肥沃の平原多し、

一〇二　北海道の平原を問ふ

答、本道は山脈中部を十字形に横ぎり、其間各三角形の地多くは平原なり、石狩平原は即ち本流第一の巨川石狩川流域にして其廣濶なる本邦屈指の平原に屬す、全島東部の二平原即ちオコツク海及太平洋に面するものは地味膏沃ならず、上記石狩平原を始めて日本海に面せる部分の平原は皆土質豐沃と稱するに足る、

一〇三　臺灣の平原を問ふ

答、本邦中央を南北に縱貫せる山脈の東部は山岳起伏して平地希なれども西部は田園開け數十里の沃野を成す、臺北平野、臺中平野は甚だ廣濶なるものなり、

十二　都會

一〇四　畿內の重なる都會（人口二萬以上、以下各道倣之）其所在を略記せよ

京都市（人口三十五萬餘）山城の中央葛野、愛宕二郡に跨加茂川其東部を貫流す、
伏見町（人口二萬餘）山城國紀伊郡に在りて宇治川末流の北岸に沿ふ
奈良町（人口三萬餘）大和國の東北添上郡に在り、
大坂市（人口八十二萬餘）攝津の東南部に在り東成西成二郡に跨る、
神戸市（人口二十一萬餘）攝津八部郡の南に在り、南は海に臨む

一〇五　東海道の都會其所在及人口を略記せよ

桑名町（人口二萬餘）伊勢國桑名郡に在り木曾河口に沿ふ、
四日市町（人口二萬五千餘）全國桑名の南三里に在り海に瀕す、
津（人口三萬三千餘）安濃津略稱にして伊勢の中部沿海に在り阿漕浦に臨む
宇治山田町（人口二萬七千餘）全國の南部に在り志摩に近し、
名古屋市（人口二十四萬餘）尾張愛知郡濃尾平原の東南に在り、

熱田町・豐橋町・靜岡市・甲府市・横須賀町・東京市

(人口二萬四千餘)名古屋の南に接近し伊勢內海に瀕す
(人口二萬一千餘)三河の南東部、渥美半島の北に在り、
(人口四萬二千餘)駿河川の安部川の東岸に在り、
(人口三萬七千餘)甲斐中部留吹川の流域に在り、
(人口二萬四千餘)相模に在り東京灣に臨む
(人口百四十四萬餘)武藏の東南に在り、關八州の中部に當り、隅田川東部を貫流し南は東京灣に臨む、

横濱市・八王子町・千葉町・水戸市

(人口十九萬餘)武藏久良岐郡に在り東方一帶東京灣に臨む、
(人口二萬圓千餘)武藏の西部南多摩郡に在り、
(人口二萬六千餘)下總千葉郡に在り西南海に瀕す、
(人口三萬三千餘)常陸東茨城郡に在り那珂川に臨む關東平野の北端に當れり、

一〇六 東山道の主なる都會と其所在を問ふ

大津市・岐阜市・長野市

(人口三萬四千餘)近江の南部琵琶湖畔に在り、
(人口三萬一千餘)美濃の中部に在り東に稻葉山あり北に長良川あり
(人口三萬一千餘)信濃の北部犀川千曲川の合流地に在り、

上田町・松本市・前橋市・高崎市・桐生町・宇都宮市・栃木町・足利町・若松町・福島町・仙臺市・盛岡市・青森市・弘前市・秋田市・酒田町・山形市

(人口二萬四千餘)信濃の中部長野市の南に在り千曲川の東北岸
(人口三萬一千餘)信濃の中央に在り養蠶盛なる所、
(人口三萬四千餘)上野の南部に在り利根川の東岸に臨む
(人口三萬餘)前橋の西南瀧車時間二十分程に在り、
(人口二萬三千餘)上野の東南部下野との境に近し、
(人口三萬二千餘)下野の南部に在り
(人口二萬二千餘)下野の南部に在り
(人口三萬一千餘)仝上
(人口二萬九千餘)岩代の中部諸苗代湖の西北に在り、
(人口二萬一千餘)岩代の東北隅に在り阿武隈川東を環流す、
(人口八萬三千餘)陸前の南部に在り廣瀨川市の中間を貫く
(人口三萬二千餘)陸中の中部に在り北上河の上流西方を流る、
(人口三萬八千餘)陸奥の北部青森灣に臨む、
(人口三萬四千餘)陸奥の西部に在り岩木川に沿ふ
(人口二萬九千餘)羽後瀨海の中央御物川の口に在り
(人口二萬一千餘)羽後の南端羽前に接して最上河口に在り
(人口三萬五千餘)羽前の東部南村山郡に在り

米澤市・鶴岡町

(人口三萬餘)羽前の南岩代の境に近し
(人口二萬餘)羽前の北部に在り最上川口に近し

一〇七 北陸道の主なる都會及其所在を問ふ

福井市・金澤市・富山市・高岡市・新潟市・高田町・長岡町

(人口四萬四千餘)越前の北部に在り足羽川に跨る
(人口八萬三千餘)加賀の東北に在りて犀川、淺野川に跨る
(人口五萬九千餘)越中の中央神通川の東岸に在り
(人口三萬一千餘)富山の西五里餘に在り
(人口五萬三千餘)越後の北部瀨海信濃河口に在り
(人口二萬餘)越後の西部中央の平原に在り
(人口二萬餘)越後信濃川の右岸新潟より十七里の處に在り

一〇八 山陰道の主なる都會及其所在を問ふ

鳥取市・松江市

(人口二萬八千餘)因幡の東部海瀨湖山池の東に在り、
(人口三萬四千餘)出雲國宍道湖の東邊に位し馬潟瀨戸に跨る

一〇九 山陽道の主なる都會と其所在を問ふ

姫路市・岡山市・尾道町・廣島市・赤馬關

(人口三萬五千餘)播摩の國中部海瀨に近し市川に跨る
(人口五萬八千餘)備前の西部兒島灣に近く旭川に跨る
(人口二萬二千餘)備後の西部瀨海に在り
(人口十二萬餘)安藝の西部瀨海に在り太田川に跨る
(人口四萬二千餘)長門の西南端に在り馬關又は下の關とも云ふ

一一〇 南海道の主なる都會と其所在を問ふ

和歌山市・德島市・高松市・丸亀町・松山市・高知市

(人口六萬三千餘)紀伊の西北瀨海紀伊の川口に在り大阪を距る十七里
(人口六萬千餘)阿波の東北隅に近き瀨海吉野川口に在り
(人口三萬四千餘)讃岐海岸の中央部に在り、
(人口二萬四千餘)高松の西七里餘海岸平野の中に在り
(人口三萬六千餘)伊豫の海岸中央部に近し
(人口三萬六千餘)土佐の海岸中央部より稍東に在りて鏡川の三稜州に在り

一一一 西海道の主なる都會と其所在を問ふ

福岡市・久留米市

(人口六萬六千餘)筑前海岸の中部博多灣に臨む、博多町と合す、
(人口二萬九千餘)筑後の北部筑前の境に近く筑後川の沿岸に在り

小倉市（人口二萬七千餘）豐前の北端に近き瀬海に在り
門司町（人口二萬五千餘）豐前の最北端小倉より三里に在り
長崎市（人口十萬七千餘）肥前杵築半島の南部に在り五港の一なり
佐賀市（人口三萬二千餘）肥前の東部筑後の堺に近し
熊本市（人口六萬一千餘）肥後の北部瀬海に近し白川、坪井川に跨る
廣島市（人口五萬三千餘）薩摩の鹿兒島灣に臨み大隅の境に近し
那覇區（人口三萬五千餘）琉球の南部島尻の西南に在り

一一二　北海道の主なる都會と其所在を問ふ

札幌（人口三萬七千餘）石狩の西南に在りて豐平川の下流に跨る
小樽（人口五萬六千餘）後志の北海岸小樽灣内に在り、
函館（人口七萬八千）渡島國函館灣偶に在り

一一三　臺灣の主なる都會を擧げよ

臺北府（人口二十一萬餘）臺灣北部に在り淡水に沿ふ、臺灣最大の都府
艋舺（人口二萬餘）臺北府の西南に在りて新店河に臨む、一に舊街と稱す
大稻埕（人口二萬餘）新店、大姑陷兩河の合地に在り一に新街と稱す、
彰化（人口二萬餘）臺灣西部に在る都會
臺南府（人口四萬七千餘）臺灣南部の大都會

十三、名勝

一一四　畿内の名勝を擧げよ

答、山城には櫻花の嵐山、楓葉の高雄山あり、大和には奈良の東大寺に「奈良の大佛」あり又櫻花の吉野山、梅花の月ヶ瀬あり、笠置山は元弘中後醍醐帝の幸ありし所河内の千早城、赤坂城趾は楠正成の據りし處として共に歷史上著名なり、攝津は海邊には須磨の浦、住吉の如き風光明媚の地あり、須磨の西に隣れる一ノ谷は壽永中平宗盛安德天皇を奉して城を築きし所、神戸兵庫の間なる福原、湊川は共に歷史上最著名に、其他紅葉には箕面山あり、瀑布には布引瀧あり、孰れも世に著はる

一一五　東海道の名勝を擧げよ

答、伊勢に伊勢大神宮あり、尾張には熱田神社あり、桶狹間、長湫の古戰場あり、駿河の海濱には三保の松原、清見潟の勝あり、相摸には江の島鎌倉、あり、下總に成田不動あり、

一一六　東山道の名勝を擧げよ

答、近江には琵琶湖畔の「近江八景」あり、美濃には稻葉山の城趾あり又養老瀧世に知らぬものなし、信濃には月の名所姨捨山、天臺宗の巨刹善光寺古戰場の川中島あり、上野の妙義山、下野の日光山、及庚申山奇勝を以て著る、陸前には日本三景の一たる松島あり、仝國宮城野は古來詠歌に名高し、

一一七　北陸道の舊跡を問ふ

答、加賀越中の境に跨りて蛎波山の南に但利加羅谷の古戰場あり、壽永年中は源（義仲）平（維盛）の大戰あり、平氏敗衂せし所なり、越前には新田義貞が足利高經と戰ひて敗死せる藤島古戰場あり、

一一八　山陰道の名勝地を問ふ

答、丹波には明智光秀の城きし龜山城の趾あり、丹後の與謝海なる天橋立は日本三景の一なり、伯耆には元弘中後醍醐帝の潛幸ありて船上山あり、出雲の大社、石見の柿本神社は世に名高く、隱岐には後醍醐帝の宮趾、後鳥羽法皇の宮趾あり。

一一九　山陽道の名勝を擧げよ

答、播磨の舞子濱、明石浦は畿内なる攝津の須磨の浦と共に風光の佳絶を以て世に名高し、高砂の松、曾根の松亦古來世に知らる、信長が秀吉を封ぜし姫路の城趾赤松則景の居城せし白旗城趾も當國に在り、嚴島は安藝に在り日本三景の一なり、周防には岩國に錦帶橋あり、長門には仲哀天皇の行宮を營まれし豐浦宮趾あり。

一二〇　南海道の名勝を擧げよ

答、紀伊の和歌の浦（一名明光浦）日本三景に次げる勝景の地なり、仝國日高郡に道成寺あり高野山に金剛峯寺あり、阿波には板野郡に土御門天皇遷幸の宮趾あり、屋島の古戰場は讃岐の北海濱に在り、壽永中源平與戰の所にして那須宗高扇の的を射たるは此處なりとす、

一二一　西海道の名勝を擧げよ

答、筑前には太宰府神社あり菅原道眞を祀り延喜年間の創建にして古來天下に名高し、仝國上座郡に齊明天皇の朝倉行宮趾あり、豐前には和銅五年の創建に成る有名なる宇佐八幡宮あり又仝國山國川上流の耶馬溪は山陽以來天下無比の奇勝と稱せらる肥前には寛永年間島原の賊の據りし原城址あり、肥後には菊地氏累世の居城たりし隈部の城址あり、又天正以來明治年間に至る迄歷史上に名ある熊本城あり。日向には天孫臨降の地と稱ふ

る高千穂の宮址を始め神代の遺跡甚だ多し、

十四　物産

一二三　畿内の物産を記せよ

答、五穀、菓物、綿、茶、藍及諸種の材木等の産出盛なり、其他畿内各地の特産といふべき作品は、京都の西陣織、友禪染、清水燒、宇治の製茶、大和の吉野紙、吉野葛、奈良晒、和泉の堺緞通、鐵器、河内の木綿、道明寺糒、摂津の伊丹酒、池田炭、御影石、大阪の紡績織物等其最たるものなり、

一二四　東山道の主なる物産を記せよ

答、農産物には伊勢尾張三河の地五穀菓物の産出盛に尾張の米、麥、綿、藍、大根等は殊に著るゝもの、其他三河の綿、遠江の茶、常陸の烟草、甲州の葡萄、等名あり伊豆は種々の良材を出す、各地特殊の製作品は伊賀の伊賀燒、伊勢の萬古燒、尾張の七寶燒、鳴海絞、遠江の濱名納豆、石灰、駿河の駿河半紙、甲斐の甲斐絹、伊豆の八丈縞、武藏の秩父縞、下總の結城紬等其主なるものにして、又瀕海地は魚類の産出多し、

答、本道は山林に富むを以て各種の良材殊に多く、平原の地米穀茶、麻、桑の類少からず、奥羽の馬亦著名なり、信濃、兩毛、岩代、盤城の地は養蠶の最盛なる所にして絹糸の産出甚だ多し、各地特有の製作品は近江の長濱縮緬、美濃の美濃紙、岐阜の提灯、信濃の上田縞、更科蕎麥、上野の伊勢崎紬、下野の眞岡木綿、岩代の會津蠟燭、陸前の仙臺平、陸中の南部縮緬、羽前の米澤織等を主なるものとす、

一二五　北陸道の主なる物産を擧げよ

答、加越の地は平野多く農産物に富む、越後米、加賀米は有名のものなり、他の特有産物は若狹の若狹塗、越前の奉書紬、加賀の加賀絹、九谷燒、能登の輪島塗、越中の寶藥、越後の越後縮、佐渡の金、銀等最著なる、水産物は各國共に之有り、

一二六　山陰道の主なる物産を記せよ

答、本道地味薄瘠農産物少し、主なる特有産物は、丹波の煙草、丹後の縮緬、但馬の金銀因幡の白珊瑚、伯耆の鐵、木綿、出雲の鐵、蜜柑、石見の銀、鐵隱岐の木材等とす、但馬石見の銀伯耆、出雲、石見の鐵は中に就て殊に産出の量多し、

一二七 山陽道の主なる物産を記せよ

答、本道は沿岸地味豐饒農産物も少からず、又沿岸は概して食鹽の産額最著し、各國に就て特有物産を擧ぐれば、播磨の赤穗鹽、龍野醤油、明石縮、姫路革、高砂染、美作の雲齋織、備前の伊部陶器、長船刀劍、備後の疊表、保命酒、安藝の鐵、周防の岩國縮、長門の赤間硯等とす、

一二八 南海道の主なる物産を擧げよ

答、本道概して地味肥沃各國共農産物は多し、其他特有物産を擧ぐれば、紀伊の鯨、蜜柑、高野塗、那智黑石、淡路の伊賀野燒、阿波の藍、讃岐の食鹽、伊豫の銅鑛、松山縞、土佐の半紙、鰹節、珊瑚等なり、就中紀伊の蜜柑、阿波の藍、土佐の鰹節最著名なり、

一二九 西海道の主なる物産を擧げよ

答、本道も亦土地膏腴にして米穀の産多し、肥前米、肥後米は殊に著はる、又肥前の長崎烟草、大隅の國府煙草も汎く世に知らる、其他特有の製作品は筑前の博多織、筑後の久留米絽、豐前の小倉織、肥前の有田燒、日向の樟腦、豐後の豐後絞、薩摩の薩摩絽、大島紬、琉球の琉球紬等にて水産物は各國に在れども肥前の五島鯨殊に名有り、

一三〇 北海道の主なる物産を擧げよ

答、天産物の多きは本道の特色なり、海獸には千島膃肭臍、臘虎、海藻には日高の三石昆布、根室の根室昆布著名に、魚類は鮭、鱒、鯡、鰯、等各國に多く、又大理石、紋別石、琥珀、珊瑚等を始め、鑛物も各種あれども就石炭、硫黄は殊に多く、石狩幌内の石炭採掘高莫大なり、

一三一 臺灣の主なる物産を記せよ

答、本道の主なる産物は農産物にして木材、鑛物等も少からず、農産の主なるものは茶、砂糖及び米にして重要の輸出品たり、茶は年七回葉を摘み、米は年二回の收穫あり、木材に樟、杉松、榕樹あり、樟腦は亦重要産物の一たり、鑛物に石炭、硫黄採掘頗ぶる多く、年々の輸出少からず、

十五 氣候

一三二 幾内の氣候を問ふ

答、概して寒暖共に中和、されど、中央より以南と以西とを比較すれば、以南山間地は較寒冷に以西瀨海の地較温暖なり、最高温度京都は攝氏三十六度弱大阪は三十五度强、

一三三　東海道の氣候を問ふ

答、本道は北に一帶の峯巒を負ひ南方は黑潮の溫流を受け、太平洋上の暖なる空氣常に來るが故に概して人身に適度の溫暖なり雖北方一帶山に沿へるの地は比較的冷に、又伊豆七島の八丈、小笠原の如き島嶼は熱帶に接せるを以て溫度高きのみ、

一三四　東山道の氣候を問ふ

答、地勢西南より長く東北に延き、經緯度の差甚だし且土地の高低海洋の影響等あるを以て道内氣候の差異著し西部近江美濃近邊は溫度中和を得るも東北に向うて漸次寒冷に、殊に奥羽の地は冬季風雪甚だ多し、

一三五　北陸道の氣候を問ふ

答、本道は東海全道及東山の西部に比すれば北緯度に在るのみならず、西北海に面して冬季大陸地方の寒風を受くるを以て概して寒氣強し、唯南西より來る黑潮の溫流の派沿海を流るゝを以て稍調和を受くるあるのみ、されど冬季は各國とも積雪往々にして丈餘に達し市街は發下繞かに往來を通ずるとあり、加賀の金澤にて極暑三十六度、極寒零下七度。

一三六　山陰道の氣候を問ふ

答、本道は地勢北陸道と全じく唯較低緯度に在るだけ比較的寒冷の度低し、されど冬季は降雪多く丹波は山間高地に在るを以て殊に甚し、又地勢東西に長く亘りて南北緯度の差繞かに一度三十分なるを以て各國寒暖の度大抵相似たり、

一三七　山陽道の氣候を問ふ

答、本道は北方に山嶽連亘し南方は一帶瀬戸海に臨み、其瀬海は概して溫和にして冬季雪を見ること少く强風も希なり、されど内部山間の村落は寒冷にして積雪道を塡むるを奇らしからず、

一三八　南海道の氣候を問ふ

答、本道は黑潮南を流れ水蒸氣の蒸發多きを以て降雨從つて多し、されど氣候は溫暖にして南方沿海紀伊土佐等の地は草木の發芽最早し、但し四國の中央部及紀伊の北部は山嶽連亘し、其間の村落寒威凜烈なるを覺ゆ、

一三九　西海道の氣候を問ふ

答、本道は氣候一定ならず、九州南端の諸國及琉球は臺灣を除かば本邦中最南に在りて

夏時は炎暑の度高けれども海風寒冷なるを以て稍調和するものあり、北方に赴くに從ひ漸次溫暖の度低く、兩肥の地は中和、西北部筑豐の諸州は溫和なれども冬季强風多く多少の積雪を見るとあり。

一四〇　北海道の氣候を問ふ

答、本道は其位置本邦の最北に在るを以て概して寒冷なるは勿論なれども亦溫潮の影響に因りて處により比較的溫和なり、即ち本島の西南より東南の沿海は却つて本州奥羽の地よりも溫暖なるも、西北より東北の地は北寒帶の地に近く、且つリマン寒潮の流侵を受け寒威凜烈草木生存する能はず、一年の中雪を見ざるは僅かに二三ケ月のみなりと云ふ。

一四一　臺灣の氣候を問ふ

答、本島は本邦の最南に在りて北緯二十二度より全二十五度の間に位し、東に赤道海流を受くるを以て一般に溫度高く雨量大なれども、島形南北に長く內地は山嶽遍亘せるを以て地方に依り氣候差異あり、北部は黑潮沿岸を流れ、日本海の寒流其北西に當るを以て、冬季雨多く一般に寒冷に夏日は炎威强く溫度三十度を超ゆ、西南部は冬季は空氣清く健康に適すれども夏季は炎熱高く三十六度以上なるとあり、唯驟雨ありて稍暑を和ぐ

るのみ、されど西南部は北部に比すれば氣候の變動概して少なし。

十六　民業

一四二　畿內の民業を問ふ

答、畿內は平坦の地は地味肥膏耕作に適するを以て人民の生業は主として農なれども、京都の如きは機織染物其他美術工藝品の製作に勤むるもの多く、大阪神戸等は商業の要樞に當るを以て專ら商業を事とせり。

一四三　東海道の民業を問ふ

答、本道の民業は地方によりて差異あれども、概別すれば西部伊勢、尾張、三河等は地耕種に適するを以て農を主とし、伊賀は薪炭を產出す瀨海の地は各國共漁業盛なるが就中志摩及安房、上總の沿岸を最とす、中央部は耕種を業とする者も多けれども甲斐武藏の養蠶業、駿河の製茶等著名の民業たり、東京横濱は商業最盛なり東部常陸下總等は沃野多く農業盛なり。

一四四　東山道の民業を問ふ

答、本道は主に農業を營み、近江、美濃の製茶、信濃岩代上野諸州の蠶業は全國に冠た

るもの、之に次ぐは工業にして陸奥羽後岩代飛彈等の漆器は殊に著名なり、又本道には鑛産地多きを以て鑛業も盛に、岩代羽後陸中の金銀鑛、下野羽前羽後陸中の銅鑛、上野陸中の鐵鑛等其殊に著はるゝものとす、漁獵は東北瀕海の地方に盛に、又商業は近江、美濃、信濃、上野等殊に盛なり。

一四五　北陸道の民業を問ふ

答、本道の生業は地方により異同あれども先づ農業を第一とし漁業之に次ぐ工業も多少行はる、中に就て若狹能登佐渡の漁業、加賀越前越中越後の機織其他の工業世に著はる、

一四六　山陰道の民業を問ふ

答、本道は東部と西部は土地磽瘠にして農産の利少く漁獵採礦の業盛なり、中部は農商相半し鳥取松江の如きは商業最盛なり、西南部は紙、麻製鐵の業盛なり

一四七　山陽道の民業を問ふ

答、本道は概して地味膏腴にして從つて農業最盛に商業之に次き全道運輸の便多きが故に物貨の輸出入頻繁なり、廣島岡山赤間關の如きは豪商殊に多し、又南方沿岸一帶の地は魚鹽盛にして製鹽業は本邦の主位を占む。

一四八　南海道の民業を問ふ

答、本道は一國として海に瀕せざなく、各國とも沿岸は漁業盛に、就中土佐の鯨獵殊に著はる、讃岐は又製鹽業盛なり、中部の民は農を營むもの多し、

一四九　西海道の民業を問ふ

答、本道は氣候溫和土壤膏腴耕作に適し、又四面海に瀕せるを以て海産に富む、民業は農を最とし、漁業、工業、商業等亦相應に盛なり、豐前二筑及薩摩は紡織の業盛に、肥前五島の鯨獵は最世に名高し、商業は長崎を第一とし鹿兒島博多熊本佐賀等之に次ぐ。

一五〇　北海道の民業を問ふ

答、本道の民業は漁獵を第一とし、之に次ぐを農業とす、鑛業及各種工業も漸次盛なり而して是等の生業は素より本州よりの移住民の從事せるものにして、本道土着のアイヌ種族は男子は山野に狩獵し或は捕鯨漁臘等の漁業を營み女子は工織を常織とし、農事は僅かに藍、烟草類の耕耘を爲すのみ、此種族は本州人の增額に隨ひ漸く生存の途を失し年を逐うて減少しつゝあり。

一五一 臺灣の民業を問ふ

答、本島は土地肥沃氣候熱帶性にして風雨其度に適ひ最農産物の耕作に佳なるを以て民業は農を主とす、耕作の法は始めは馬來風なりしが後支那風に化せられたり、稻作は一年二回若しくは三回の收獲あり、工業には北部の製茶南部の製糖業にして、其産出は專要の輸品たり、又本島森林多くして林業盛に、西海沿岸の民は主として漁業に從事し、其他鑛業牧畜業等も相應に盛に商業も亦近時漸く隆盛に趣かんとす。

第五章 日本地方誌 (下)

各道雜種問答

一 畿內

一 京都の位地狀勢を問ふ

答、京都は桓武天皇來千七十餘年間の帝都たりし地にして規模宏壯街衢整正の市街たり、位置は山城の中央に在りて加茂川に跨り東西一里南北一里二十四町、東西北三方は山を以て圍まれ、南方伏見に通ずる平野あるのみ、所謂山河縈帶自然の城を爲すものにして山水の勝最多し、人口は三十五萬餘、市の中央三條通以北を上京以南を下京と稱し又加茂川を限りて西を洛中東を洛外とも云ふ、京都府廳、京都帝國大學、第三高等學校、博物館、同志舍大學等あり、舊御所は市の北部に在りて、豐太閤の築ける二條城は其西に在り、名勝の主なるものは嵐山の櫻花、高尾の紅葉、神社には祇園祠、加茂の社、佛閣には東西本願寺、金閣寺銀閣寺等著名に工藝品は西陣織、清水燒、鴨川染、あり、

汽車は東京へ十五時間大阪へ一時間強。

二　大阪市の位置狀勢を問ふ

答、大阪市は攝津の大阪灣頭淀川の口なる三角洲に在りて大部分は河の南岸に在り、溝渠四通し又鐵道東西に通達するを以て運輸最便に關西の貨物日夜輻湊す、市内橋梁多く「三百六十橋」の稱あり、市の東西一里強南北三十三町、人口八十二萬、古は仁德天皇の都し給ひし地にして豐臣氏築城以來市況大に盛大に趣きしが明治遷都以來一たび其勢を減ぜしも今や又再び振ひ工業最盛なり、大阪府廳、造幣局、控訴院、紡績織物會社等あり、秀吉の城けゐ大阪城を初め宏壯の築造物多し、大阪城内には現時中部都督部、第四師團司令部あり、產物は一閑張、眞田織綿布等にして、汽車は十七時間を費して東京に達す。

三　神戸市の位置狀勢を問ふ

答、神戸も亦攝津の西海岸大阪灣頭に臨み、大阪の西汽車路一時間程に在り、五港の一にして港内水深く内外の船舶集り、本邦第二の互市場にして、外人の居住するもの數百人、兵庫縣廳の所在地たり、人口は二十一萬餘、元神戸兵庫の二市街に分れ湊川其境界をなせしが、今や合して一市を成せり、湊川は有名なる古戰場にして湊川神社は楠公の

靈を祀れり、福原は平清盛の安德天皇を奉じて都を遷せし舊趾なり、市の東北摩耶山に布引の瀧あり、又市の近傍に銘酒の產地なる西の宮。池田、伊丹の諸邑あり、本港輸出物は米、茶、マッチ、樟腦、輸入物は綿糸織、石油、綿、砂糖、金巾等とす

四　奈良の沿革と狀勢を略記せよ

答、奈良は大和に在り、本邦美術の淵叢とも云ふべき地にして、昔は平城と云ひ又南部と稱せり、元明帝以後桓武帝以前七世八十四年間帝都たりし地なり、京を距ること九里、人口三萬餘奈良縣廳の所在地たり、名蹟最多し、春日神社、東大寺、興福寺、正倉院等其最たるものにして、春日社は一千年前の舊祠にして老樹翁鬱たり、東大寺は聖武帝の五丈三尺の大佛を安置せられし所にして實に千五百五十年前の創建に係る、其近旁なる正倉院には平城歷朝の御物を藏す、近來此地博物館の設けあり、產物は奈良晒奈良漬大阪迄汽車時間二時間餘。

五　堺市の位置狀勢を問ふ

答、和泉に在りて大阪の西四里大坂灣に臨みて大和川の河口に住す昔足利時代に當りては外國との通商盛なりしも港内水淺くして巨舶を容るゝ能はざるを以て漸次衰へ現今は昔時の隆昌を見ずと雖、鐵器緞通の製造を以て世に名高し。

六 神武帝奠都の遺址は何處に在りや

答、大和國葛上郡柏原村に在り神武天皇橿原の宮を營み給ひしより來歴朝皇居の址四十七ヶ所ありと稱す、

七 河内の位置地形及特産物を記せよ

答、河内は地形狹長にして東は大和西は攝津北は山城南は紀伊に接し、金剛山國の東南隅に聳ゆ木綿は此國の特産にして其名世に高し。

二 東海道

八 關東關西の區分及其民俗の差を問ふ

答、本道の中點伊豆半島の北に箱根山あり、古來本道無雙の險と稱し要害の地たるを以て關門を設け關の東の諸國を關東と云ひ、西の諸國を關西と云ひしを今日猶其稱呼の存せるなり、又民俗は關東は古は武を以て著はれ、關西は文を以て著はれしが、其遺風今日にも存し、關東は概して義俠活潑の氣風多く、關西は優美溫柔の習俗あり、言語も亦東西各其習俗に準ぜる特徴ありて關東は急率關西は輕柔なり。

九 關東八洲の地勢及其國名を問ふ

答、關八州は概して平坦なる所謂關東平野の地なれども、西方の一部は箱根山麓及小佛秩父等の諸山ありて地勢險峻なり此間より流出して東京灣相摸洋に注ぐは馬入川、玉川にして、隅田川及利根川の灌域は最平坦なる平野なり、東北の一部には又阿武隈山系の餘脈起伏し地勢險峻なり、所謂八州とは相摸武藏安房上總下總常陸と東山道の上野下野を合併せる稱なり

一〇 東京市の位地及狀況を記せよ

答、本邦第一の都會たる東京市は關東平野の中央武藏の國に在りて隅田川其東部を貫き、南は東京灣に臨む、東西二里强南北三里弱、人口百四十四萬餘、運輸交通の便最宜しく政治學藝、商工其他本邦萬般の事業の中心たり、市を十五區に別つ、即麹町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤阪、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川、是なり、皇居は市の中央麹町區に在り、附近に諸官衙議事堂あり、又全市を地勢に依りて山の手、下町の二部に大別す、山の手は西北部に位する高燥の地を云ひ、下町は東南部の低地を云ふ、商業の殊に盛なる京橋、日本橋、神田、等の諸區は下町に屬す、市内學校の主なるものは東京帝國大學、第一高等學校、高等師範學校等にして私立諸學校は

枚挙に遑なし、其他銀行、各種製造場及神社佛閣等巨大の建物亦夥し、産物には織物、錦繪、マッチ、淺草海苔等あり。

一一 東京の驛路及鐵道線路を問ふ

答、驛路は東京市より古來所謂四宿の地を經て四通す、四宿とは千住、板橋、品川、新宿是なり、千住より通ずるは奥羽街道、板橋よりするは中仙道、品川よりするは東海道、新宿よりするは甲州街道是なり、鐵道線路は東海道鐵道新橋より發して東海道各驛を經て京都より大坂神戸に通じ、猶山陽の鐵道に聯絡す、又甲武鐵道は新宿より發して甲斐に通じ、中仙道鐵道は上野より奥羽及北陸の越後、に通ず、此故に各地方より貨物の運輸旅客の往來等現時多くは驛路に依らずして鐵道に依れり。

一二 横濱市の位地及狀勢を問ふ

答、武藏久良岐郡に在りて東方一帶東京灣に臨み、本牧岬東南を擁し東北には神奈川あり、東京より汽車一時間程とす、本邦第一の開港場にして、桑港、バンクーバー、上海香港に至る要衝に當り內外の船舶日夜輻輳し商況頗盛なり、又外人の居留地あり、重なる輸出品は蠶絲、茶、絹ハンケチ銅等にて重なる輸入品は綿絲、砂糖、羅紗、石油等なり。始めて此地を互市場となせしは安政六年なり。

一三 名古屋市の位置及狀況を記せよ

答、名古屋は尾張の愛知郡に在り、伊勢海の灣頭に瀕し南方熱海と相接す、人口二十四萬本邦第四の都會にして東海道鐵道に依りて東西兩京に通じ東京迄十二時間にて達す愛知縣廳の所在地たり、德川三家の一尾張侯の舊城下にして金の鯱を以て有名なる名古屋城は市の北部に在り、現時第三師團司令部を茲に置く、又此地には控訴院あり。

一四 伊勢の地勢と都會を記せよ

答、東方は一帶伊勢海に臨み西は近江、伊賀、大和、紀伊に接す四方の國境は大蟲ヶ原、國見、鈴鹿の諸山並列し地勢嶮惡なれども、東方沿岸に向うて漸次低下し平原多く米穀の耕種に適す、國內の河流皆東に流れ、中央なる雲出川を限りて北伊勢南伊勢の兩部に分つ、都會は桑名、四日市、津、宇治山田とす。

一五 志摩の形勢を問ふ

答、志摩は伊勢の東南端に斗出せる小國にして、東西三里南北七里國內唯一郡なれども、海岸線の屈折極めて多く殆んど九十九里に近しといふ、鳥羽、的矢の兩港あり、共に水深く碇泊に便なり、此國海產物多し。

一六 尾張の地勢と都會を問ふ

答、西南は濃尾平原の一部にして木曾川の流域以東に在り、土地肥沃、南方は知多半島長く海洋に斗出し西は伊勢の海東は衣ヶ浦とす、當國の都會は、名古屋、熱田、半田、武豐あり、尾張米瀬戸燒は此國の名産なり。

一七 三河の地勢と都會を記せよ

答、山岳の起伏無きにあらねど地勢概して平夷、中にも矢矧川の流域及豐川下流に沿へる地は最平坦なり、南方に東より西に向つて長く斗出する渥美半島は尾張の知多半島と三河灣を扼す、都會は豐橋、岡崎にして前者は豐川の下流に沿ひ後者は矢矧川に臨めり。

一八 遠江の地勢と都會を問ふ

答、北部は山岳起伏して平地少きも南西海に近くに從ひ漸次平夷なり、天龍川信濃より來り國の中央を縱斷し下流兩岸の地平原多く東に盤田原あり西に三方原あり、又駿河との境なる大井川の下流に牧野原あり、御前崎は南方長く海に斗出し駿河の石廊崎と對して駿河灣を扼す、西部三河に近く濱名灣あり、都會は濱松にして濱名灣の東三里に在り

一九 駿河の地勢と都會を問ふ

答、遠江と伊豆の間の駿河灣頭に臨み、北は甲斐東は相摸にして地勢急斜面を爲す、東北甲斐國境に有名なる富士山あり、富士川、安倍川、大井川の三急流あり沿海の地稍平坦なり、都會は靜岡、燒津、沼津、清水港あり、靜岡は東京と名古屋の中間に在りて商業盛なり。

二〇 富士山及附近の形勢を記せよ

答、富士山は駿甲二州の境に巍然として聳立し、高さ一萬二千四百六十餘尺、山形圓錐狀をなし頂上に火口あり、周邊斷巖峭立、其最高峯を劍ヶ峯といふ盛夏猶千古の白雪消ゆず、金水銀水と稱する清泉湧出す、中腹以上は植物を生ぜず、山麓を裾野と云ふ、川口、山中、精進、本栖等の諸湖あり、所謂人穴と稱するもの亦裾野に在り、西麓を流るゝは富士川にして河口は即ち田子浦たり。

二一 甲斐の地勢都會及特産を記せよ

北は土地高崇なる信濃に境し、南は富士帶の蟠蜒するあり、四面皆山岳圍繞し、內地にも亦丘陵の起伏多く地勢概して嶮峻、國を東西部に分ち東を郡內と云ふ東部の河水は流れて相摸に入る、西部は土地稍平坦にしてその水は富士川に入る、都會は國の中部に甲府あり、此國の特産は甲斐絹甲州葡萄、水晶とす。

二三　伊豆半島の形勢を問ふ

答、東相摸灘西駿河灣の間に遠く海洋に斗出せる大半島にして火山脈國内に蟠屈して、豆南の諸島も此餘脈を延いて起る、半島第一の大岳は中央の天城山にして良石材を出す、南端は石廊崎なり、西遠江の御前崎、東安房の野島岬と相對す、國内平地少く温泉多し、熱海は其最著るゝもの、南石廊崎に近く下田港ありペルリの渡來に關して其名著る

二三　武藏の地勢と都會を記せよ

答、此國は關東平野の大部分を占め南東は東京灣に臨み地勢平坦にして地味亦豊沃、利根川及其支流江戸川北東を限り、多摩川南を限る、中部には荒川隅田川の流あり、都會は東京（其外郭としては王子、品川、新宿、板橋、千住あり）横濱、浦和、八王子、川越、熊谷等、

二四　相摸の名勝を擧げよ

答、鎌倉、横須賀、浦賀、小田原、大磯等皆小都會にして孰れも多少歴史上に著はる、鎌倉は三浦半島の西北に在り三面丘陵を繞らせ、前に相摸灘を扣ゆ、頼朝幕府を開きし地なり、横須賀は鎌倉を距る南東汽車路三十分程にて東京灣に臨む、東洋一の造船場にて海軍鎮守府の所在地なり、浦賀は其南數里米艦始めて渡來せし所、大磯は海水浴を以て知らる、又鎌倉の西凡二里の海岸に江の島あり風光佳絶の地たり、

二五　房總半島の地勢を問ふ

答、房總半島とは即ち安房上總の二國を云ふものにして東南は太平洋に面し西は東京灣を包む、兩國の境には鋸山清澄山等東西に走る、半島の最南端は安房の野島崎にして西に向ひて出でたる洲ノ崎は相摸の三崎と對す、北部上總の東岸は即ち九十九里の濱なり、地勢は概して平坦、舘山北條は安房の名邑にて木更津は上總の要津なり、

二六　下總の地勢と都會を記せよ

答、北及西は利根川及江戸川を以て武藏の國境を劃し、東は常陸に接し一部太平洋に臨み南は上總に隣り一部東京灣に瀕す、中部には印幡沼あり、此國は關東平野の一部を占め地勢最平坦全國更に山岳を見ず、東端海中に斗出せるを犬吠岬と云ふ、都會は千葉、銚子、佐倉、成田、市川、等其主なるものなり。

二七　常陸の地勢と都會を記せよ

答、此國は東海道の東北端にして南は利根川を以て限り、東方一帶鹿島灘に面す、南境

に近く霞浦あり、北西盤城、下野の境は山岳重疊し、内地も中央部那珂川以北の地は峻嶺の峙立するもの多けれど中央以南は土地稍平坦なり、都會は戸水市の外湊、久慈、土浦、平潟あり、平潟は最北に在る要港にて勿來關の舊趾其西方に在り。

三　東山道

二八　所謂中仙道の國名を擧げよ

答、中仙道とは本道の南部に在りて東西に横はり海に瀕せざる地方を云ふ、即ち近江、美濃、飛驒、信濃、上野下野是なり、這は往時京都と江戸との第二交通線路たりし所なり（第一は東海道）

二九　近江の地勢と都會を問ふ

答、此國は四面山を以て圍まれ中部には有名なる琵琶湖一國の面積の大部分を占め、湖の四邊は地稍平坦なり、四周の水皆琵琶湖に集り、湖の西南より勢多川となりて出で山城に入りて宇治川となる、都會は大津彦根其主なるもの、大津は琵琶湖畔に在りて京都を距る三里、

三〇　琴琶湖に就て知れる所を記せよ

答、琵琶湖は本邦第一の大湖にして古は淡海又は鳰の海と稱せり、東西五里南北十五里強、周圍七十七里弱最深の ヶ所三百尺に及ぶ、運輸の便最多く且風致に富み所謂近江八景（比良暮雪、堅田落雁、石山秋月、勢多夕照、三井晩鐘、唐崎夜雨、栗津晴嵐、矢橋歸帆）の目あり、湖口は勢多川にして之に架したるを勢多の長橋といふ、湖の北畔に小湖あり余吾湖といふ、其間に在る小岳賤ヶ岳は有名なる古戰場なり。

三一　美濃の地勢と都會を問ふ

答、鈴鹿山及び膽吹山以東の地にして、木曾、飛驒、長良等の諸川の灌域に屬す、膽吹の南の平原を關ヶ原と云ふ、往古不破の關ありしを以てなり、德川豐臣天下分ヶ目の古戰場なり、都會は岐阜、大垣にして共に關ヶ原の東に在り、養老瀧は關ヶ原の南多度山中に在りて鵜飼に名なる長良川は岐阜市に沿へり、

三二　飛彈の地勢と都會を問ふ

答、國内到る處山岳重疊し地勢概して高峻、殊に飛驒山脈の支脈中部を東西に横斷するを以て自から國内を南北西部に分てり、南は益田川の沿岸北は宮川の流域たり、都會は高山

三三 信濃の國境地勢及都會を問ふ

答、此國は飛驒と共に本道の脊梁を屬し、周邊十國に境を交ゆ、即ち飛驒、美濃、三河、遠江、駿河、甲斐、武藏、上野、越中越後是なり、而して其四境皆山岳連亘し、國內土地隆起して海面を拔くこと平均二千三百尺に及ぶ、河流は南北二派に分れ、北は千曲川、犀川の流域南は木曾川天龍川の流域に屬す、都會は長野、上田、松本、飯田

三四 上野の地勢と都會を問ふ

答、此國は東西北の三面山岳重疊し、東南部のみ平坦なり、國內の河流は皆南流し利根川に入る、都會は前橋（群馬縣廳所在地）高崎、

三五 下野の地勢と都會を問ふ

答、此國も東西北は殆んど山脈を以て圍まれ中央より南方平坦に地勢概して上野に似たり、都會は足利、宇都宮、日光、眞岡、

三六 日光山を詳叙せよ

答、日光山は下野の西方に在り、其名世に高く、群峯重疊して成り、就中男體山赤薙山

卓出す、男体山中に中禪寺湖あり、周圍八里幽邃絕塵の境たり、湖水落ちて飛下三十丈の華嚴の瀧となる下流は大谷川なり、其他日光山中には霧降、裏見等數條の名瀑あり、山麓の東照宮は德川氏の祖廟にして幕府の盛時財寶を盡して經營せしものなれば、壯觀目を驚かすものあり。

三七 奥羽の地勢及國名を問ふ

答、所謂奥羽とは本道中中仙道を除きたる殘餘の諸國にして本道の北部に連り多くは海に瀕す、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後の七國是なり、此中磐城、岩代、陸前陸中の地は阿武隈北上兩川の流域にして、此二大河の流るゝ各國中央の地は平坦なれども餘は山岳起伏す、陸奥、羽前、羽後の地は沿岸は概して平坦國境に近づく從ひ嶮峻なり、

三八 磐城の地勢と都會を問ふ

答、東方一帶は太平洋に面し、國の中部は阿武隈山脈南北に走る、沿岸及中央以南西部の國境土地平坦なり、都會は白河、中村前者は國の西南部に偏じ奥羽の咽喉を扼す、東京を距る汽車六時間程、

三九 岩代の地勢と都會を問ふ

答、此國は奥羽諸國中唯一の海に瀕せざる國にして、四境皆山岳を以て限られ、内地には安達太郎山國の稍東部を南北に走り地勢自から二分す、西部にも猪苗代湖あり、此湖より發する日橋川唯見川の流域廣く且西部に低下し、水流は皆越後に入る、都會は若松、福島あり、前者の東北に磐梯山あり其南麓は會津の古戰場、後者は福島縣廳の所在地なり

四〇 陸前の地勢と都會を問ふ

答、西部羽前との境は分水山脈連亘し、地勢漸次東に低下す、東部一面は太平洋に面し北陸中の國境より北上山脈南走し來りて牡鹿半島となり仙臺灣を包む、日本三景の一たる松島は灣の西部に在り、都會は東北地方第一の繁華の地たる仙臺市の外北上川口に石ノ巻あり、

四一 仙臺市の位置及狀況を略記せよ

答、陸前の南部に在りて磐城の國境に近く、海岸より三里の地に在り、人口八萬三千を有し、東北地方第一の繁華の地にして宮城縣廳の所在地たり、東京を距る汽車時程十二時間、伊達氏三十二萬石の舊城下にして、現時第二師團司令部、控訴院、第二高等學校

の設あり、青葉神社、躑躅ヶ岡及櫻ヶ岡は市内の勝地たり、仙臺市は此地の特産として名高し。

四二 陸中の地勢と都會を問ふ

答、東方一帶海に瀕し、西羽後の境は分水山脈を以て限り、東海岸に近く又山脈の南北に縱斷するあり、北上川中部を南地に流れ其流域の地平坦なる原野をなす、都會盛岡は殆んど國の中央に在りて仙臺より汽車時程六時半、

四三 陸奥の地勢と都會を問ふ

答、此國は本道の最北に位し又本州の最北端となる、東西北三面海に瀕す、東は太平洋、西は日本海、而して北は津輕海峽なり、北に斗出する兩半島を斗南半島津輕半島と呼び、相扼して陸奥灣を包む、中央分水山脈は斗南半島より起りて南に走り、國の地勢東西に分れ、東部は低地、西部も沿岸は平夷にして地味豐饒なり、都會は弘前、青森にして前者は第八師團の所在地後者は青森縣廳の所在地なり、

四四 羽前の地勢と都會を問ふ

答、西方は北の一部海に瀕し他は越後、岩代、陸前、羽後の間に狹まる、國境及國の中

央部山岳起伏し唯北部最上川の流域地土地最平夷なり、都會は山形、米澤、鶴岡、新庄にして山形は元最上町と稱せり。

四五　羽後の地勢と都會を問ふ

答、西部一帶は日本海に臨む海岸の屈曲最少く、唯北部に男鹿半島突出して八郎潟を抱くるあのみ、東陸中との境は中央分水山脈連亘し、支脈内地に延いて中央部に蟠屈し國を南北に分つ北は能代川南は御物川の流域にして土地平坦耕作に適す、都會は秋田、酒田、土崎、能代にして此中土崎、能代は良港あり

四　北陸道

四六　若狹の地勢を問ふ

答、此國は北陸道の西端に位し、東西南三面は山岳重疊し、北方一面海に瀕す、海岸線の屈折甚だ多し、國内平地少く耕作に適せず、都會には小濱あり。

四七　陸前の地勢と都會を問ふ

答、東南北三面の國境は群山連亘し西方は海に瀕す、而して瀕海に近く又一山脈の走るありて中部土地平坦なり、西若狹に近く敦賀灣ある外海岸殆んど屈折なし、都會は福井、武生、三國、敦賀の四ヶ所あり。

四八　加賀の地勢と都會を問ふ

答、北西は海に瀕す、其沿岸一直線をなして殆んど凹凸なし、南方には白山の脈東西に延き東南部は群山起伏し地勢は海岸に向うて低下す、此國は土地の降下作用最著しく行はるゝ所なりと云ふ、都會は北陸第一の大都會金澤の外に金石、小松、大聖寺あり。亦陶器に名ある九谷は此國に在り。

四九　能登半島の地勢と都會を問ふ

答、此國は日本海沿岸の最大なる半島にして、海中に斗出すること二十里、中央には寶達山脈の支脈幡屈し北方には耕作に適する地無きにあられど、過半は磽确にして民業は漁業製鹽主位を占む、半島の中央東部に大灣入あり七尾灣と云ふ、都會には輪島あるのみ、

五〇　越中の地勢と都會を問ふ

答、北方一帶日本海に面し中央大灣曲あり富山灣と云ふ、東西南三面の國境は悉く峻岳重る、地勢海岸に向うて低下し、河流は皆北流す、都會には富山（北陸第二の大都會に

して、古來藥商を以て名あり）高岡伏木あり。

五一　越後の地勢と都會とを記せよ

答、此國は本道第一の大國にして長凡八十里、幅凡十五里、北は日本海に面し他の三方の國境は悉く山岳を以て限る、信濃川（信濃の千曲川の末流）阿賀川（岩代日橋川の末流）兩大河流域は國の東北部に廣濶の平野をなし、地味膏腴なり、都會は新潟、長岡、五泉、高田、直江津あり。

五二　佐渡の地勢と都會を問ふ

答、日本海中に於ける本邦の最大なる島にして越後の北十一里に在り、形分銅の如く、島内南部北部に分たれ、兩部とも東西に亘る山脈あり、其中間は平坦にして耕作に適す、北部なる相川は島内第一の都會にて鑛山を以て其名世に高し。

五三　北陸道著名の二高山と其所在を記せ

答、本道の高山中最著名なるものは立山白山とす、立山は越中の東南隅信濃との境に近く聳立す、高さ九千八百尺山中處々に火口ありて硫烟を吐く、白山は加賀の東南隅に在り、第三南北派山脈中の主峯にして越前飛彈の兩國に跨り高さ八千八百九十尺、別山。

犬汝、御前の三峯あり。此の外高度に於ては右の二山に優るもの本道中二三あれど、二山の如く著名ならず。

五四　五山陰道

五四　丹波の地勢と都會を擧げよ

答、此國は本道中唯一の海に瀕せざる國にして、本道の東端に在り、四面國境は山脈を以て限り、内地も南東部を東西に亘る山脈ありて平地少し、都會には綾岡福知山あり、

五五　丹後の地勢と都會を問ふ

答、北方は海に面し沿岸屈曲多く東部の大灣曲を與謝の海とす、成生岬鷲岬相對して灣口を扼す、東南西の國境は山脈を以て限り地は北に低下し、中央由良川の流域土地最廣濶、都會には宮津舞鶴あり、勝地は日本三景の一たる天の橋立あり、

五六　天の橋立の所在を問ふ

答、丹波與謝の灣頭宮津の附近に在り。一帶の砂洲海上に斗出すること里餘老松幾千株之を蔽ひ、長橋の波に伏すが如し、日本三景の一たり。

五七　因幡の地勢と都會を問ふ

答、此國東南西三面の國境は山脈を以て限られ、北方一帶海に瀕するも海岸の屈曲甚希れに、殆んど一直線を爲す、河流は皆短し東部賀露川の流域稍大なり、都會には鳥取あり、

五八　伯耆の地勢と都會を問ふ

答、此國も亦因幡の如く東西南の三境は山脈を以て限り北方一帶海に瀕す、中央に大山の高嶽あり、河流は皆短かけれども西部日野川、東部天神川の流域平坦なり、海岸線は屈曲希なれども、西出雲の境に近く夜見ヶ濱長く斗出し出雲の島根半島と對し其東に美保灣を作る、都會は東に倉吉、西に米子境あり

五九　出雲の地勢と都會を問ふ

答、東西南の國境より內地中央部に至る迄群峯重疊し北方海岸に近く神門川、簸川の流域平原を爲すのみ、島根半島は國の西部より出でゝ長く東に屈出し、其東端は伯耆の夜見ヶ濱と對して中ノ海を包み、又半島の中央部本陸の北岸に迫りて瀨戸を作る瀨戸內は宍道湖なり、都會には松江、廣瀨、美保關あり。

六〇　石見の地勢と都會を問ふ

答、此國は東北より西南に延き、其形狹長にして、西北一面日本海に瀕すれども海岸の屈曲は極めて少し、國境の山脈內地に支出し、平地少く交通不便なり、唯東部偏後より來る江の川、の山脈及西部高津川の流域稍平坦なり、都會は濱田大森あり。

六一　隱岐の形勢を記せよ

答、隱岐は出雲の北方二十七里の海中に在る隱岐にして大島一小島三より成る、大なるを島後と云ひ、他を島前と稱す此中西島と呼べるに後醍醐帝黑木御所の址あり、島後の南岸に西郷港あり、各島とも土地磽确耕種に適せず。

六　山陽道

六二　播磨の地勢と都會を記せ

答、此國は山陽道の最東端に位し、南方一帶播磨灘に面す、沿岸屈曲少し、東北西は攝津、丹波、但馬、因幡、美作、備前に接す、國境は悉く山脈を以て劃し、支脈內地に蟠屈すれども、加古川、市川、揖保川、千草川等の諸川流ありて其流域の地平坦なり、都會は姫路、明石、赤穗、龍野あり、赤穗は四十七士と共に其名世に高し、

六三　舞子の濱の所在を問ふ

答、播磨の東部海岸、攝津との國境に在り、明石より兵庫に至る迄の海岸にして古來有名の勝地たり、松を以て有名なる高砂其西に連る、淡路島の北端は正面近距離に在りて殆んど相應答すべし

六四　美作の地勢と都會を問ふ

答、此國は山陽道中唯一の海に瀕せざる國にして、播磨、備前、備中、伯耆、因幡五ケ國の間に介在す、四境悉く山岳を以て限られ、中央亦山脈の南北に横斷するあり、唯旭川、吉井川等の流域土地稍豁けたり、都會は津山、倉敷あり、兒島高德が櫻樹に赤心を題せし遺蹟といふ院ノ庄は津山の西に在り、

六五　備前の地勢と都會を問ふ

答、南方海岸屈折甚多く、兒島半島は國の西南隅より遠く東北に向うて斗出し、其中に小兒灣を形成す、東北西の國境は多少山岳の起伏なきにあらねど、美作より來る高田、津山の二川（此國に入りて西大川、東大川となる）の流域土地開け、内地概して平坦なり、都會は岡山を最とし、外に國内の安津たる牛窓蠟石を産する三石、刀劍を以て名ある長船、陶器に著はるゝ伊部等あり、

六六　岡山市の所在及狀況を問ふ

答、岡山は本道中安藝の廣島に次ぐ大都會にして、備前の南西部兒島灣に近く西大川に跨る、岡山縣廳の所在地にして第三高等學校醫學部の設あり人口五萬八千餘、神戸迄汽車時程五時間餘。

六七　備中の地勢と要港を問ふ

答、此國は其形東西に狹く南北に長く、又瀕海の部分甚少し、北部の地は山岳の起伏多しと雖南方に向うて漸次平坦に、中央を流るゝ、大川の流域廣し、港は東に玉島西に笠岡あり。

六八　健後の地勢と都會を問ふ

答、南部一帶の海岸屈折多く、附近島嶼も少からず。北部の國境は群山、重疊し、中央にも一帶の山脈東西に亘るを以て地勢南北に分たる、河水は此山脈を境して南と北とに分流し、南には蘆屋川あり北には三次川あり、其流域土地開けたり。都會には福山、尾ノ道、三原、鞆ノ津、三次あり

六九　安藝の地勢と都會を問ふ

答、此國海岸線の屈折頗多く、從つて港灣に富み、沿海島嶼多し、內地は群山起伏し、大田川西條川の流域を除くの外殆んど平夷の地なし、都會は中國第一の繁華の地たる廣島あり、又宇品、吳の兩港あり吳は海軍鎭守府の所在地たり。

七〇　廣島の所在及狀況を略記せよ

答、廣島は山陰山陽兩道中第一の大都會にして、人口十二萬餘。口數の多きと本邦都會中の第七位に在り、安藝の沿岸中央部に在りて太田川に跨る、神戸より汽車時程十三時弱、交通頻繁市街頗る殷盛なり、廣島縣廳、第五師團司令部、控訴院の設あり、明治二十七八年の役聖上大纛を此地に進め玉へり、

七一　周防の地勢と都會を問ふ

答、南方海岸線の屈曲多く、其東部は長く海中に突出す、北西の國境山岳多く、中央を西北より南に向うて一支山脈の横斷するあり、東は岩國川、西は佐波川の流域土地稍開けたり、都會は山口、德山、三田尻、岩國、室津、にして岩國は錦帶橋を以て著名なり。

七二　長門の地勢と都會を問ふ

答、本道の最西に位し、北西及南の一半は海に瀕す、北は日本海、南は周防灘、西は響灘なり、海岸線の屈曲多く五六の屬島あり、東南の國境より山脈內地に延き平地甚だ少し、河流は南西北の三方に分流されど孰れも長大ならず、唯北東なる阿武川の流域稍長濶なり、都會には赤馬關及萩あり。

七三　赤馬關の所在と狀況を略記せよ

答、長門西南端岬角の地に在り、下ノ關又は馬關とも稱す、特別輸出港の一なり僅に六町余たる下ノ關海峽を距てゝ豐前の門司と相對して瀨戸內海の咽喉を扼し、內外の船舶常に輻湊す、此地に安德帝の御陵あり又此地より產する赤馬關硯は其名聲天下に普し。廿七八年戰役清國媾和の際所謂下ノ關條約の締結せられし所なり。

七　南海道

七四　紀伊の地勢と都會を問ふ

答、紀伊山脈國內に起伏して平夷の地少く、東南西の三面太平海に瀕し、國內の河流亦此三方に分派す、國の西北の一部は大和の吉野山彙より發する紀川ノの流域の地平且にして耕種に適す、都會は和歌山、田邊、新宮等あり、產物は綿フランネル、紀州密柑最

著名なり。

七五　高野山と和歌の浦の所在を記せよ

答、高野山は弘法大師の開基に係る金剛峯寺の在る所にして和歌山より紀ノ川を溯ること一里に在り、和歌の浦は一に明光の浦と稱し和歌山市の西南に在り、風光を以て古來有名なり、

七六　那智瀑のの所在を問ふ

答、紀伊の中央なる大塔峯の南東那智山中に懸る、高さ四十餘丈幅十八間本邦屈指の名瀑にして遠く熊野海上より望見すべし。

七七　淡路の形勢と港を問ふ

答、瀬戸内海の東端に四國と本州の間に介在せる島嶼にして、大阪灣の口を扼し東は紀伊和泉に西は四國に、北は播磨に各海峽を隔てゝ相對し、周圍四十里強、面積三十六方里餘、島内著しき高峯なしと雖、山嶽多くして平地少く村落は海岸に遍在す、然れども其平地は皆〻にして耕作に適し、且四周海なるを以て魚介の利少からず、人口の稠密の度は本邦第一に居る、東南に洲本由良の二港西北に福良港あり、

七八　淡路と本州及四國間の海峽の名と其所在とを示せ

答、東紀伊和泉の兩國に對する間を由良海峽と云ひ、北播磨に對するを明石海峽と云ひ、西四國に臨めるを鳴門海峽と云ふ。

七九　阿波の地勢と都會を問ふ

答、四國の東南部にして東は紀伊海峽に、南は太平洋に面す、西北讃岐土佐の國境より四國山系の山脈延いて内地に蟠屈し、地勢概して嶮峻、唯北部吉野川の流域土地開け交通の便多く地味肥沃にして農産物に適し、中にも藍の産出は此地を以て本邦第一とす、都會は德島、撫養、池田、富岡等あり。

八〇　德島市の所在及特産を問ふ

答、德島は四國第一の大都會にして人口六萬一千餘、阿波の東北隅吉野河口に在り、蜂須賀侯の舊城市にして、水陸運輸の便あるを以て商業殷賑なり、産物阿波縮世に名あり。

八一　四國第一の大河を問ふ

答、吉野川一に四國三郎と稱し四國中部の瓶森山に發し東に流れて阿波に入り其北境に

沿ひ東向して德島市の近傍より海にる、全長四十餘里下流四派に分れ本流を廣戸川と呼ぶ、流域は有名の產藍地たり、

八二 讃岐の地勢と都會を問ふ

答、東北西三面は瀬戸内海に臨み、近海岐多く小豆島嶼最大なり、南方阿波の一部は四國山系の一脈連亘し延いて内地に及び地勢は北方に向つて漸次低下す、河流は一として長大なるものなけれど、其流域は地味豐沃農產物に適す都會高松、丸龜、多度津、あり、高松は此國海岸の中央部に在りて大阪へ海上四十六里、丸龜は高松を西に距る七里、第十一師團司令部の設あり、

八三 讃岐の古戰場と其歷史を問ふ

答、高松の東北五劍山の西にある屋島は源平の古戰場にして安德天皇内裡の蹟今猶存せり、壽永中平氏茲に行宮を營み、安德帝を奉ず阿波の人由口成良來り屬し勢大に振ふや乃ち京師の亂に乘じて福原の舊都に遷りたるが一ノ谷の敗後復遁れて此地に據るに至る義經舟師を率ひて來り遂に火を高松の里に放つ宗盛等天皇を奉じて舟に上る義經復た行宮を燒く、平軍利あらず退いて志度を保ちしが、源軍に追擊せられ遂に敗績して西海に奔れり、彼の那須宗高扇の的を射たるは此屋島なり、

八四 小豆島の位置形勢を問ふ

答、讃岐の東北播磨洋の西部に在り讃岐本土寒川郡大串岬の一里十二町に位す、東西凡四里南北凡三里餘周回三十一里弱、口數四萬强あり、島中の一高峯を星ヶ城山といふ島の南端草加部灣あり碇泊に宜し、又西に方りて屬島なる豐島あり、

八五 伊豫の地勢と都會を問ふ

答、四國の北西部を占め、北西海岸一帶屈曲甚だ多く數多の岬灣を爲す、南方土佐の國境は四國山系東西に亘り其中央石槌山一支脈北に延いて海岸に達し、地勢自然東西に兩分せらる、東部は肥沃西部は肥瘠相半す、都會は松山、宇和島、今治、西條、三津ヶ濱あり。

八六 伊豫の岬角を問ふ

答、國の西方より長く斗出するは佐田岬にして、豐後の地藏崎と相對して佐賀關海峽をなす、北方には大隅の鼻突出し、讃岐の三崎と東西相對して伊豫灣を抱けり。

八七　道後温泉と別子銅山の所在を問ふ

答、道後温泉は伊豫中部の瀬海より遠く離れず松山市の東方一里餘の處に在り、著名の温泉にして浴客四時絶ゆず、別子銅山は國の東南四國山系の南麓に在り、

八八　伊豫に屬せる島嶼の名を問ふ

答、大三島、大島、伯方島、弓削島、生名島、岩城島、興居島、忽那島、怒和島、津和地島、日振島、戸島等なり。

八九　土佐の地勢と都會及物産を記せよ

答、四國の南部に位して其形鎌の如く、四國第一の大國なり、東北西三面の國境は四國山系連亘し、支脈内に入り數多の峻岳を起し平地甚だ少し、南方一帶は太平洋に面し東西の兩岬相對して中に大灣曲を作る、土佐灣是なり、河流は皆南向して之に注ぐ、海岸の地一帶平夷なり、都會は高知、中村、赤岡、高岡、安藝、須崎等あり、物産の主なるものは鰹節、珊瑚、紙等とす。

九〇　土佐の東西兩岬角の名と土佐灣海岸線の長さを問ふ

答、東は室戸岬にして西を蹉跎岬とす、兩岬相對して擁する土佐灣の長さ凡一百里水は甚だ深からず、自鳳年間大地震ありて此國の南部一帶の地陷落して海となれりと傳ふ、

八　西　海　道

九一　九州往古の稱號如何

答、往古は筑紫と稱す、現今の筑前國に太宰府を置きて統治せしが、後鎮西府を置きしもありしより、又九洲を鎮西とも呼べり。

九二　九州諸山脈の名目を問ふ

答、九州南部山脈、小松山脈、筑紫山脈、肥前山脈、及阿蘇、霧島の兩火山脈是なり。

九三　九州鐵道線を問ふ

答、門司を起迄として博多、鳥栖、熊本、八代に至り鳥栖より西に分岐し佐賀、大村を經て長崎に達するもの支線あり、若松より向井に達するもの、直方より幸袋に達するもの、其他小倉より行橋に至り更に延て後藤寺に達する者あり、

九四　筑前の地勢都會及産物を記せよ

答、九州島の北端に位し、東疆に峯重疊し、南走して更に西北に趨く、沿海の地には岬灣島嶼錯雜し、曠衍の地に乏しと雖、東西に二大河ありて、灌漑運輸の便多く、土地豐饒なり、都會は福岡（博多を合せて一市とす）秋月、甘木、直方、太宰府、等あり、物産は米、麥、大豆、石炭、製造品には博多織最名高し。

九五　筑後の地勢都會産物を記せよ

答、此國は九州最小の國にして面積僅に八十餘方里、東南の國境は山嶽綿亘すれども本島第一の大河たる筑後川の巨流西北を繞り、其流域土地平衍地味亦膏　五穀に適す、西方一帶は築紫海に臨めり、都會は久留米、大川、柳川、大牟田、産物は製作品には久留米飛白、木蠟、紙、油、農産は米、麥、櫨、大豆等なり。

九六　豐前の地勢都會産物を問ふ

答、九州の北端に在りて北方一帶周防灘に臨み、地勢は山脈北部より起り南走して東西に岐れ西南部の國境は概して峻岳重疊し北方海に近づくに從うて平野多し、都會には小倉、門司、中津、宇佐あり、

産物は製作品に小倉織、鑛物に石炭、硯材、農産に米麥あり。

九七　早鞆の瀨戸下の關海峽の所在を問ふ

答、豐後の北部企救郡長く海中に斗出し、其最所門司町と長門の赤馬關と相對する間を早鞆の瀨戸といふ、瀨戸内海の西口なり。

九八　卵馬該の所在を問ふ

豐後の下野郡上津村に在りて中津を距る三里餘山國川沿岸數里の間を云ひ、鐘山の支脈山國川と縈圍並馳して自然の奇觀を呈せるものなり。

九九　宇佐八幡宮の所在を問ふ

答、豐後宇佐町の東部宇龜山に鎮座す、官幣大社にして和氣清麿の故事を以て史上に名高く、境内廣濶社殿莊嚴天下有數の大社にして朝廷の御尊崇殊に篤し、應神天皇、比賣大神、神功皇后を祀る、

一〇〇　豐後の地勢都會物産を問ふ

答、九州の北部東邊に在りて東は硫黄灘、及別府灣に臨み、北は周防灘に面し、西は兩